

建築設計製図優秀作品集 2022

「都市型リゾート機能を有したホテル」 富永玲央・八阪柊吾

「Funabashi Water Settlement」 市川忠樹・久野祐璃・柴田将樹・杉山 隼・星 知里

「雪を纏う価値とは。」 石黒敬太

「常ノ伽藍」 尾沢圭太

「転がる石灰石、秩父の森を利用する」 川内俊太郎

「廢線を跨いで」 三谷翼空・梅澤秀太・大木貴裕

「地域と繋がる都市型集合住宅」 若松瑠苒・菊池康太

「街のアートミュージアム」 齊藤慶悟・若松瑠苒

「圏外建築」 梅澤秀太
「反抗と贖罪
〜壊れゆく地球で生きていく人類の道標となる建築〜」 大木貴裕

「日本における複合観光施設を併設した環境配慮型客船ターミナルの計画」 古角虎之介

「Last Resort 一水害が常習化した未来の棲家」 金 指遥・柴崎海奈・鈴木晶美子・山田莉央

「水族館」 門谷采実・富永玲央

「ランドスケープとプレゼンテーション」

富永玲央・浅井駿来・柏木玲菜

八阪柊吾・金井和奏・大平梨音・玉木芹奈

櫻井彩音・鈴木 暖・鈴木雄士・山口直也

「ミクロの世界に立ってみよう」

秋山慎之介・安藤大智・酒井 優・椎野芽生・高橋来瞳・谷崎 碧・萬谷桃香・山田海月

令和四年度 設計製図担当教員一覧

1年生（ベーシックデザイン演習）

佐藤信治（ベーシックデザイン演習）／海洋建築工学科
菅原 遼（ベーシックデザイン演習）／海洋建築工学科
金子太亮（ベーシックデザイン演習）／空間研究所
川久保智康（ベーシックデザイン演習）／川久保智康建築設計事務所
木内厚子（ベーシックデザイン演習）／STUDIO 8
田中克典（ベーシックデザイン演習）／㈱大林組
新田知生（ベーシックデザイン演習）／向日葵設計
長谷川洋平（ベーシックデザイン演習）／㈱長谷川大輔構造計画

2年生（デザイン演習Ⅰ、デザイン演習Ⅱ）

佐藤信治（デザイン演習Ⅰ）／海洋建築工学科
小林直明（デザイン演習Ⅱ）／海洋建築工学科
菅原 遼（デザイン演習Ⅰ、デザイン演習Ⅱ）／海洋建築工学科
安藤 亮（デザイン演習Ⅱ）／㈱環境システム研究所
奥村梨枝子（デザイン演習Ⅰ、デザイン演習Ⅱ）／YTRO DESIGN INSTITUTE
小野和幸（デザイン演習Ⅱ）／KAJIMA DESIGN
玉上貴人（デザイン演習Ⅱ）／タカトタマガミデザイン
筒井紀博（デザイン演習Ⅰ、デザイン演習Ⅱ）／筒井紀博空間工房
長谷川洋平（デザイン演習Ⅱ）／㈱長谷川大輔構造計画
森田敬介（デザイン演習Ⅰ、デザイン演習Ⅱ）／森田建築設計事務所
山田晶子（デザイン演習Ⅱ）／かめ設計室

3年生（デザイン演習Ⅲ、建築計画及び演習）

佐藤信治（デザイン演習Ⅲ、建築計画及び演習）／海洋建築工学科
小林直明（デザイン演習Ⅲ、建築計画及び演習）／海洋建築工学科
穴澤順子（建築計画及び演習）／光井 純アンドアソシエーツ建築設計事務所㈱
川久保智康（デザイン演習Ⅲ）／川久保智康建築設計事務所
勝又 洋（デザイン演習Ⅲ）／大成建設㈱
桔川卓也（デザイン演習Ⅲ）／ナスカ
小平純子（デザイン演習Ⅲ）／㈱竹中工務店
鶴田伸介（デザイン演習Ⅲ）／熊工房
光井 純（デザイン演習Ⅲ、建築計画及び演習）／光井 純アンドアソシエーツ建築設計事務所㈱

4年生（総合演習）

小林直明（総合演習デザイン系）／海洋建築工学科
佐藤信治（総合演習デザイン系）／海洋建築工学科
山本和清（総合演習計画系）／海洋建築工学科
寺口敬秀（総合演習計画系）／海洋建築工学科
菅原 遼（総合演習計画系）／海洋建築工学科
桜井慎一（総合演習計画系）／海洋建築工学科
吉田郁夫（総合演習計画系）／清水建設㈱

「横浜かわまちターミナル計画」
——横浜市石川町における陸上と水上をつなぐ複合型駅舎の設計——
神林慶彦

「点、線、面から空間をつくる」

本庄空蒼・有本百花・池田拓未・江口和李・
片岡梨美・木村周平・野中奈桜・三田晴貴

「水辺に佇むマイ・スペース+ others」

酒井 優・佐々木省太郎・大野紗矢香

「ダンチがい段池」安藤大翔・尾沢圭太・法橋礼歩・藤巻拓也・森田優莉

「fooDrop FUNABASHI」坂本みさき・嶋田健太・野口凜太郎・平山 玄

「海の駅」櫻井彩音・富永玲央

「新全貨物線旅客化に伴う災害に対応した駅舎の設計」
——避難機能を有する複合型公共施設としての提案——
中村正基

「環境と住空間を考える 一大横川沿いに建つ住宅」伊藤ひかり・榎本 彰・田中修斗

日本大学理工学部 海洋建築工学科

建築設計製図優秀作品集 2022

CONTENTS

1年生 (ベーシックデザイン演習)	2
2年生 (デザイン演習Ⅰ、デザイン演習Ⅱ)	8
3年生 (デザイン演習Ⅲ、建築計画及び演習)	16
4年生 (総合演習)	27
卒業設計	33
修士設計	41
コンペ受賞歴一覧	48

1年生（後期：ベーシックデザイン演習）

【担当】 佐藤 信治
菅原 遼
金子 太亮
川久保智康
木内 厚子
田中 克典
新田 知生
長谷川洋平

ベーシックデザイン演習 （後期）

第1課題

「ミクロの世界に立ってみよう」
（出題：佐藤信治）

【課題趣旨】

課題は普段見慣れたものの視点を変える訓練から始まります。皆さんの体が身長15～18mm位の大きさにまで小さくなったとします。見慣れていた文具や家電など手に取ることでできる小さなものがまるで未来都市や巨大な構築物のように見えるでしょう。ミクロの大きさになった皆さんは普段は外側から見ているものの中に自由に入りし内部空間をじっくりと眺めることができます。見たことのない空間に入り周りの質感や表情を見つめます。細部まで想像してください。さまざまな驚きや発見があるでしょう。内部空間にあなた自身が立ち最も魅せられた光景を表現してください。空間は意外なところにも存在します。あなたが見つけたこの内部空間を丁寧に描いてください。そして絶妙のタイトルをつけその空間の特質を説明してください。

【提出物】

- (1) ケント紙に描いた作品。裏面に①担当講師氏名、②学生番号＋氏名、③描いた対象物とタイトルを記入
- (2) 作品タイトルと空間の説明文を記したA4サイズレポート用紙1枚。レポート用紙の最初に、同じく上記を記入

【採点基準】

- (1) 描く対象物への着眼点（誰でも知っている身近なものでありながら、一見とてものようには見えないという視点を選んでください）
- (2) 表現の密度
- (3) 説明の適切さ
- (4) 必ずどこかに立っていることがわかるような視点であること

第2課題

「点、線、面から空間をつくる」
（出題：川久保智康、長谷川洋平）

【課題趣旨】

これまでの課題をとおして、空間のスケール感や表現方法の基礎について学びました。今回の課題では、シンプルなエレメントを組み合わせて、空間やその造形を考察し、模型や図面を用いてアイデアの具体化を試みます。ここでは、空間は線材や面材といった部材の集合によって成立させます。もちろん模型として成立することが前提ですが、構造は重要視しなくても良いので、より純粋にここにあるべき空間を導き出してください。計画地は本学船橋図書館の中庭です。「図書館の機能を拡張し、皆さんにとって有意義な場所」を計画します。図書館の機能を拡張し、皆さんにとって有意義な場所」を計画します。以下を参考にしながら、具体的な使い方（機能）や造形のテーマは各自で設定してください。

・空間的機能の例：屋外の図書閲覧スペース、休憩スペース、レポートの作業場、グループ学習のスペース、友人との語り場、カフェなど
・形態操作の例：反復、相似、増幅、入れ子、すれ、回転、反転、連続、流れ、貫入、断片、隙間など

【学習目標】

- (1) 計画地に赴き、実際の空間を体感する。
- (2) エスキース（計画のスケッチ）と模型製作を繰り返すことで完成品を作り上げる過程を理解する。
- (3) 「かたち」ではなく、「空間」をつくることを意識する。
- (4) デザインの主旨を、言葉（文章）、スケッチ、模型で表現する。

【採点基準】

- (1) 表現したいコンセプトやイメージが実現されているか。
- (2) スケール感を把握しているか（空

間に人物模型を置いて、空間と人との関係を示すこと）。

- (3) 水面を設けた人は、水の魅力を生かしているか。
- (4) 模型やデザイン主旨をきちんとつづけているか。

第3課題

「水辺に佇むマイ・スペース
+ others」
（出題：新田知生、金子太亮）

【課題趣旨】

マイ・スペースは文字通り自分のための空間でありながら、「+」の要素が求められます。それは自分以外の誰かとの接点を想定し、その場所を共有できることです。誰は1人でも複数人でもかまいませんが、そこで起こるコミュニケーションにより「空間」や「場所」に新たな意味が生じるのです。個の空間を考えると同時に、仲間と、あるいは地域と共有できる建築、その場所に存在する意義を持った建築、そしてそこを訪れる人々に「素敵な何かを」与えられる提案を期待します。

【設計条件】

計画地は、本学キャンパスより東葉高速線船橋日大前の北約600mの坪井近隣公園内に位置する。南側は遊歩道に、北側は調整池に面した、間口20m×奥行22mのなだらかな傾斜をもつ水辺空間である。休日はジョギングする人、家族で憩う人など、公共な広場や公園的な機能として賑わいがある。該当敷地は公園広場と水辺との間の水際に位置し水陸の環境要素と計画内容がどのような関係をもつて魅力ある場所と成り得るかを計画するものとする。

- (1) 「マイペース」という定義は住まうスペースではなく、趣味や遊び、自身のアトリエやギャラリー、リスニングルームなどプライベートに活動する場所をイメージする。各自でストーリーを設定すること。

自身がかかわるスペースであれば設定は自由。

- (2) 「+」はマイスペースを中心とし、社会や環境、誰かとの共有の場をプラスすることを意味する。誰かを招いたり、地域の人と活動する場、周囲へ情報発信する場としてもよい。自分以外の人や社会と共有されうる価値を付与すること。
- (3) 水辺を積極的に利用。水辺の水質はきれいな状態であると想定する。建物と水辺との動線は必ず確保し、水辺と岸辺、陸地など場所性をとらえ、関係を深める提案を行う。
- (4) 計画地：千葉県船橋市坪井町1371
- (5) 敷地面積：300㎡（約90坪）
- (6) 延床面積：30～100㎡（ピロティ・外部階段・テラス・バルコニー・庇等は面積不算入）
- (7) 構造：自由
- (8) 階数：自由
・地盤は表層から支持地盤となり得る良好なものとする。
・電気・ガス・上下水道は供給済み。
・建築基準法、都市計画法などの関係法規は適用外とする。

【提出物】

- A2判ケント紙横使い4、5枚。以下の①に1枚、②～⑤に3、4枚を当てる。
- ①表紙：設計趣旨や計画説明を文、図（スケッチ・パース等）、写真で構成。
 - ②配置図：1/100（建築物を屋根伏で表現し、道路、隣地、遊歩道、池との位置関係を示す）
 - ③平面図：1/50（各階平面図。1階平面図には外構計画を表現する）
 - ④断面図：1/50（2面以上。1面は水際線を横断し、水域と建物との関係を表現する）
 - ⑤立面図：1/50（各面4面以上）
 - ⑥模型：1/50（プレゼンテーション用。池・遊歩道など周囲もきれいに作成し、建築はこの地盤にしっかり固定すること。現物提出、採点後返却。写真は①に貼付）

ベーシックデザイン演習 第1課題
ミクロの世界に立ってみよう

■講評

●「猫の気持ち」格子窓の入ったちょっと緊張するような空間です。よく見るとそれはペットを運搬するためのキャリアバックです。ケースの継ぎ目や逆光の格子窓などが丁寧に描かれています。できれば、仰ぎ見るような視点の方がよりいっそう、わかりやすかったのかなと思います。

●「エッグポケット」謎の球体のようなものが浮いています。これら

は地球を侵略しにきた宇宙船でしょうか？ よく見るとこれは、冷蔵庫の中の卵収納ポケットであることがわかります。卵の質感やそれを収納するプラスチックの容器の形状に不自然な点があり、その点は少し残念でした。

●「ねじりオープナー」何やら硬質な物体が空中から狙っており、そんな緊張感のある空間に身を置いています。よくよく見てみると、そうこれはワインの瓶の中からオープナーを見上げたものとわかります。螺旋の形状も丁寧に描かれており、そこと連動する部分もよくわかります。

●「没入空間」良い構図と丁寧に仕上げられたスケッチです。これは、シャープペンシルの替え芯の容器からみた

風景です。普段よく使用する文具に着目し、それをモチーフとした着眼点は秀逸です。

●「リングの世界」マイクロマンは宇宙基地の戦闘機格納庫に迷い込んでしまったのでしょうか。よく見るとこれはルーズリーフ式ノートの収納部分であることがわかります。金属の質感とプロポーションがよく描けている作品です。

●「電池を入れる」この作品は、SF映画に出てくるようなダイナミックな様子をよく表しています。よく見ると電池を入れるプラスとマイナスの記号が見て取れます。そうこれは、乾電池を入れるケースです。挿入されそうになっている乾電池の目線がそのダイナ

ミックさをよく表現しています。

●「キッチンの静けさ」この作品も、SF映画に出てくるようなダイナミックな構図です。これは五徳の上に乗って中心部を見た構図がよく表現されています。惜しむらくは、それぞれの質感を描き分けていればもっと良かったことでしょう。

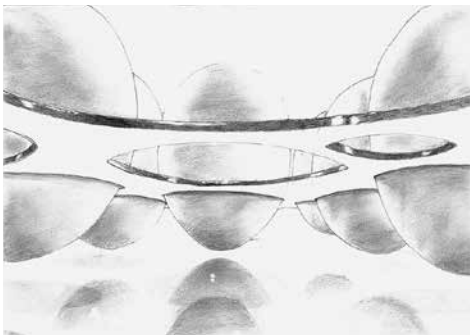
●「穴あけパンチ」お菓子の製造工場にでも紛れてしまったのでしょうか。よく見ると、上にはその製造装置のようなものが見えます。そうこれは、書類を止める穴あけパンチです。パンチの破片とともにケースに取り残されたマイクロマンの目線がそのダイナミックさをよく表現しています。

(佐藤信治)

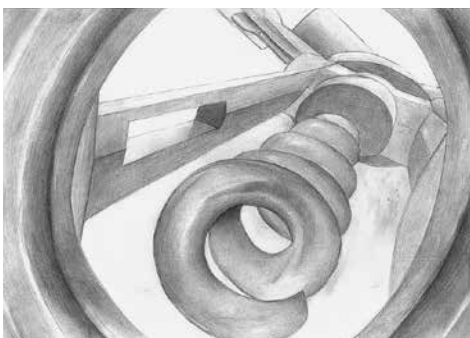
秋山慎之介「猫の気持ち」



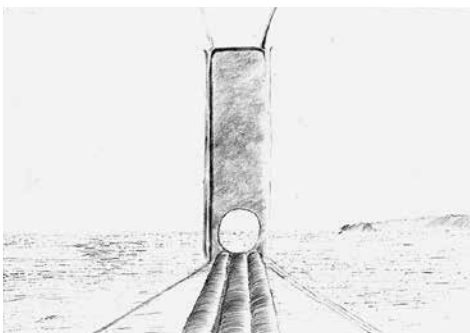
安藤大智「エッグポケット」



酒井 優「ねじりオープナー」

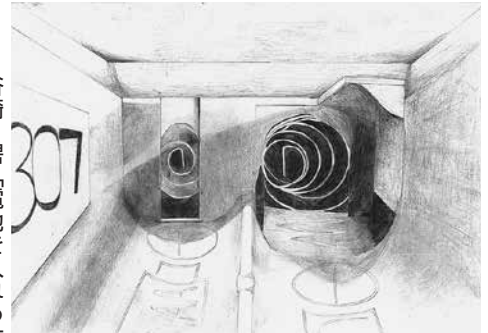


椎野芽生「没入空間」

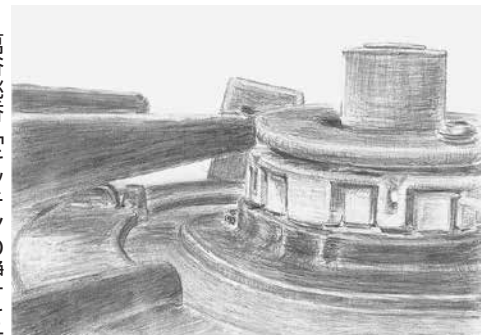


高橋来瞳「リングの世界」

谷崎 碧「電池を入れる」



萬谷桃香「キッチンの静けさ」



山田海月「穴あけパンチ」



点、線、面から
空間をつくる

■講評

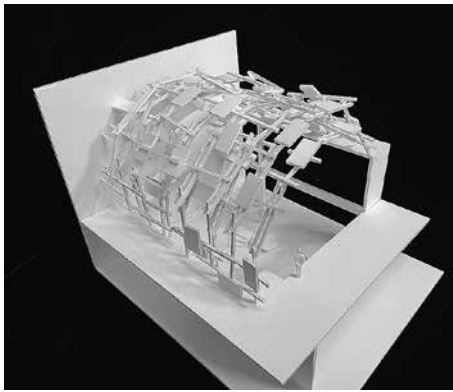
- 本庄空蒼：線状の要素と面状の要素が互いを支えあうように組まれた覆いを広場に架けることで、おおらかで心地のよい場が生まれている。一方、覆われた場では人々がどのように過ごすのか、もう一つテーマを定め表現できるとより魅力的な作品になったと思う。
- 有本百花：チューブ状の木の幹の要素、ランダムな枝葉の要素が同形の線材を用いることで滑らかにつながり、動的かつ有機的なかたちが生まれてい

- る。また幹の足下にはさまざまな居場所が用意され、具体的に空間をイメージしながら設計した様子が見え、力作である。
- 池田拓末：若きエンジニアたちがくつろげる場所を、巣を守る親鳥のアナロジーを用いて表現している。明快で説得力のある提案だが、広場の大きさに対し要素が多すぎるようにも思える。たとえば翼と巣だけに対象を絞り抽象化していく方法もあったのではないか。
 - 江口和季：二畳の空間を内包するユニットを積み上げ、用途や動線を考慮しながら美しいかたちにまとめている。二畳の空間と聞くと茶室を連想するので、たとえばユニット内での人のふるまい（立つ/座る）から開口部のあり

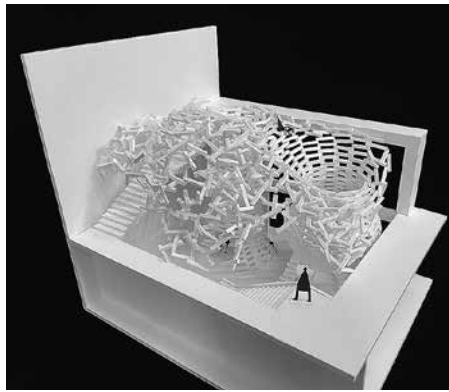
- 方を検討してみるのも面白いのではないか。
- 片岡梨美：模型を上から見ると、全体として渦巻のような中心性を持った構成となっているが、その空間内部に入っていくとまったく印象が異なっている。樹を模したとされる軽やかな構造物が複雑に視線を遮って、回廊を歩くと、空間の奥行きが絶えず変化するのが興味深い。
 - 木村周平：正方形に組んだ線材を45度ずらして交互に重ねたトンネル状の空間を組み合わせて、それと直行する方向への抜け道のようなつながりをつくっている。この組合せを上手に選択して登り降りしながらどの方向へも移動できる。交通の機能について考えた

- ところは、一步踏み込んだ案といえる。
- 野中奈桜：線材で組まれた「かご」が特徴的な造形で、それらは散歩道のような階段でつながっている。宙に浮いていることから非日常を表現したとのことだが、その浮遊感は昔のSF映画に出てきそうな雰囲気面で面白い仕上がりになった。
 - 三田晴貴：ブルータルな印象の作品であるが、ランダムな長さの部材で構成する厚みのある五角形のユニットに生じた隙間は、なかなか繊細で丁寧に配置されている。また、幾重にも重なる五角形の殻内に現れた穴状の隙間は、力強く引込まれるような魅力を持っている。

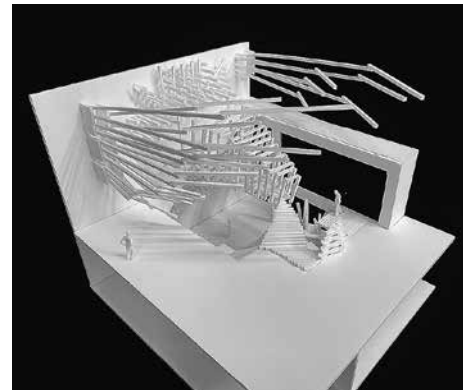
(川久保智康、長谷川洋平)



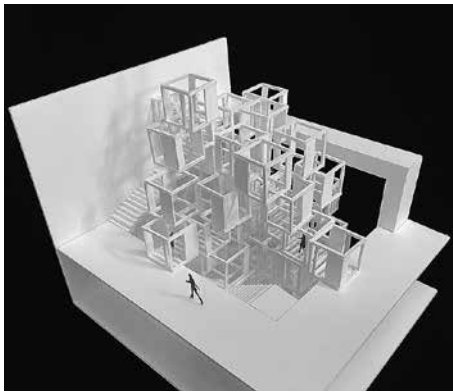
本庄空蒼「Open dome」



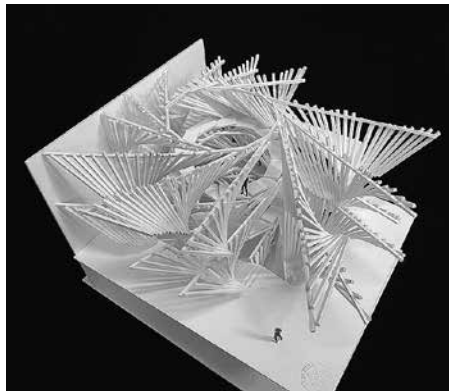
有本百花「森の中の温もり」



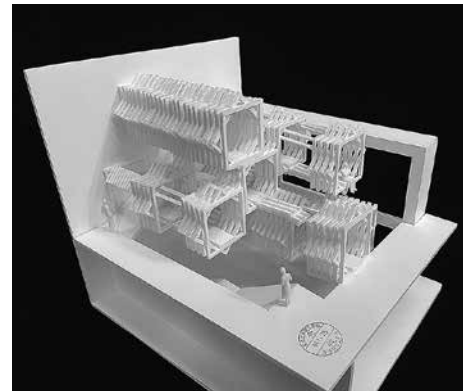
池田拓末「HABATAKI」



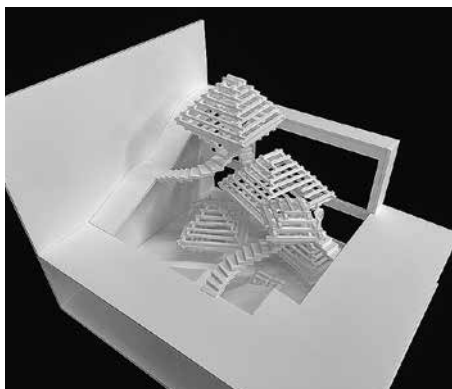
江口和季「集まれ！ マルチキューブ」



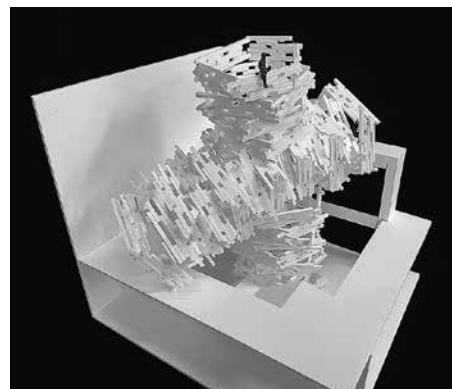
片岡梨美「樹形と回廊廊下の空間」



木村周平「STORM」



野中奈桜「Floating space」



三田晴貴「Pentagon」

酒井 優

「社のキッチンスタジオ」

■コンセプト

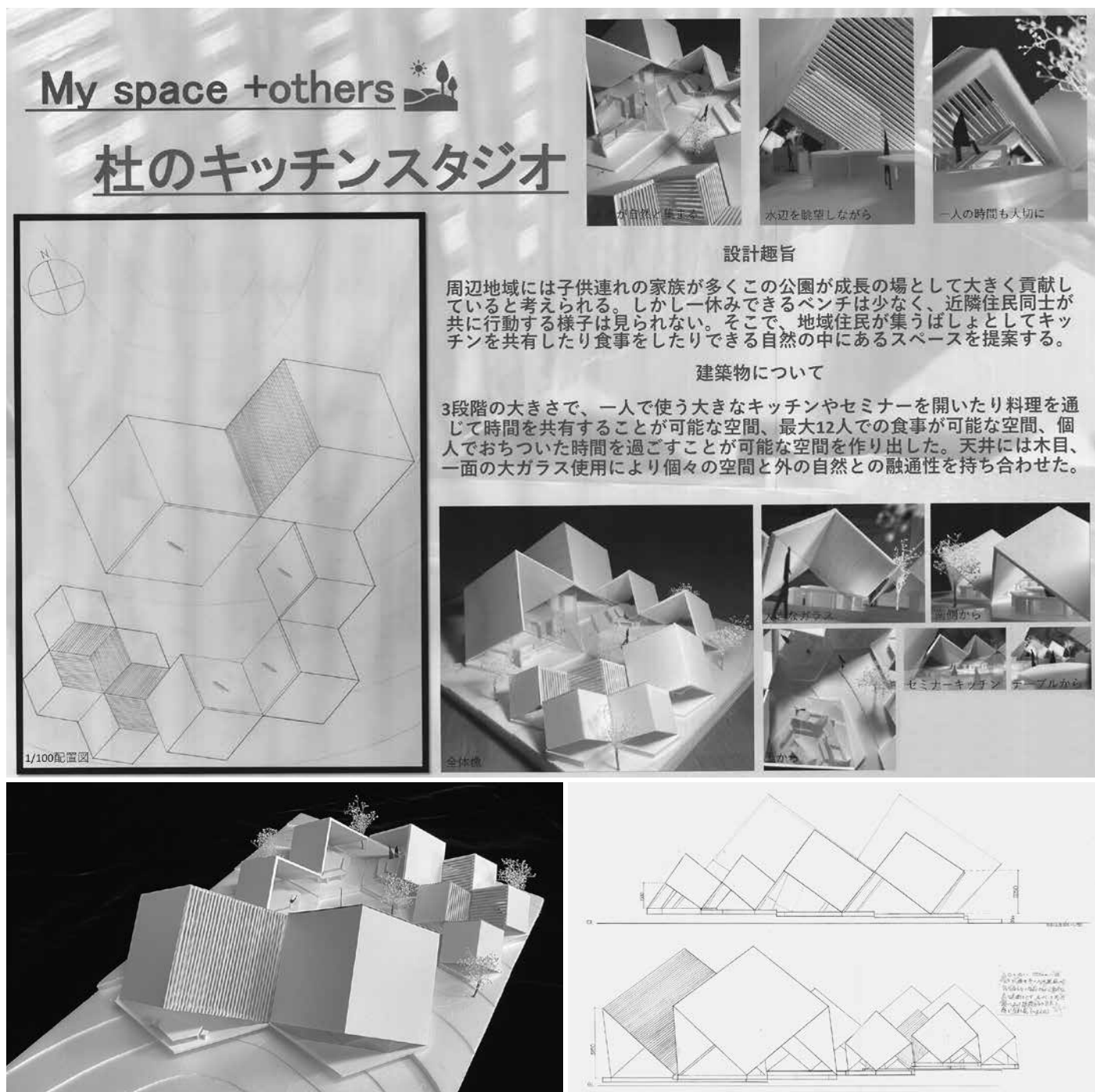
計画地周辺の公園には子連れの家族が多く訪れ、子どもの成長の場として貢献していると考えられる。しかし、ひと休みできるベンチは少なく、近隣住民同士が交流する様子は見られない。そこで本提案では、地域住民が集う場所として、キッチンを共有し、ともに食事を楽しむ施設を提案した。本施設を構成する建築物は3段階のボリューム

ムに分け、個人で落ち着く空間からキッチンシェアする空間まで多様な利用を想定した。建物の天井には木目、一面には大きなガラスを使用することで外部環境との融合性を生み出すことを意図した。

り屋根の空間を発見した。料理教室ができる大きさ、4、5人で集まって食事する大きさ、1、2人が静かに食事する大きさがある。大きさの異なるトンガリ屋根が寄り添うことで集落のような建物となった。平面計画は、六角形のモジュールが周辺環境を巻き込みながら増殖していく形となっている。屋根は、木ルーバーやガラスで光の取り込み方に変化を与え、天井仕上げは木板を貼ることで柔らかな温かみのある空間となっている。トンガリ屋根の空間を見出してからその持つ空間性、配置の検討、仕上げの選択に至るまで時間を掛けて検討したことが見て取れる。その設計に対する向き合い方も合わせて高く評価したい。(金子太亮)

■講評

公園の中に食を中心とした居場所を創る計画です。正六面体の3面を取り除き、3点を接地させることでトンガ



ベーシックデザイン演習 第3課題
水辺に佇むマイ・スペース
+ others

佐々木省太郎

「本の砦」

■コンセプト

設計方針として、公園内の勾配や水辺との関係を考慮し、池に揺らめくヨットの見た目のデザインに合わせ、三角錐の型を基調とした建築物を計画地内に分棟させることとした。三角錐の形状を用いる上で、建物内部にデッドスペースが生じてしまうため、三角錐の先端はウッドデッキを用いたオープンスペースとし、さらに、異なる大き

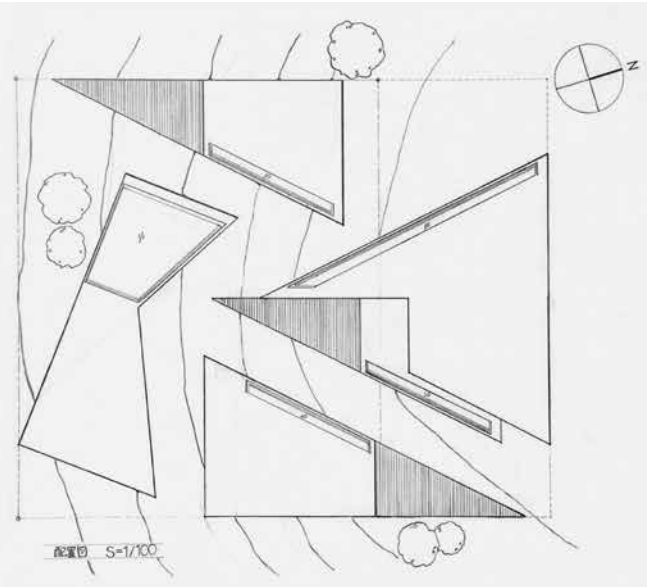
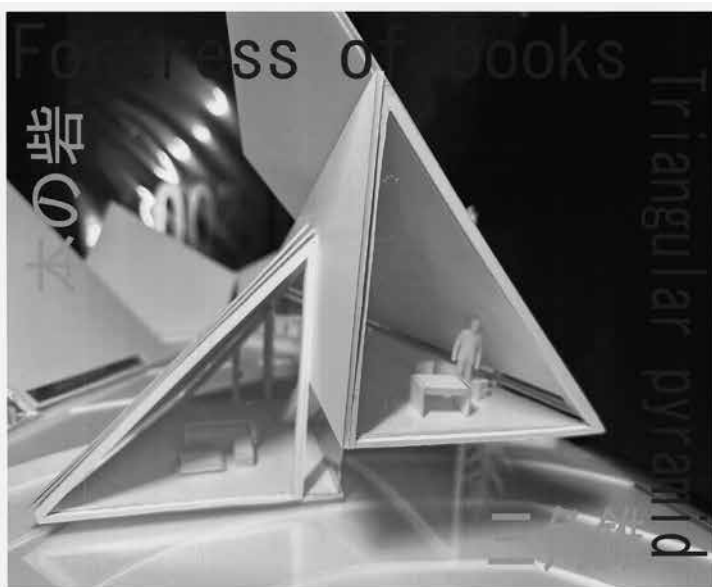
さの三角錐同士を組み合わせることで室内に広がりを生み出すよう工夫した。建物の配置は、中心の棟を囲むように三角錐を配置し、砦をイメージする構成とした。

れている。三角錐のポリウムによって囲まれた共有空間からは、周辺の自然環境（採光、水面など）との関係を考慮した軸線が設定されることにより、訪れた時間帯に応じた空間体験の豊かさを想像させられる。

三角錐という形状は、集合による全体性の欠如や無駄な空間（デッドスペース）の発生など、設計上の課題が多数挙げられるが、設計者は、ポリウムの切り欠きや組み合わせ方などを微細に検討していくことで、三角錐の扱いにくさを感じさせない建築へと昇華させている。こうした細やかな建築への向き合い方は、詳細に表現された各種図面の表現からも読み取ることができる。（菅原 遼）

■講評

本提案は、公園の池のほとりに作家の執筆活動のための拠点を作成するとともに、作家の著書や参考図書・資料などを来訪者に共有する場を提案している。建築物は、三角錐のポリウムの分棟および合成によって構成されており、水辺に面した作家の執筆活動の場（マイ・スペース）と作家の著書やその背景に触れるための読書スペース（+ others）がそれぞれの視線や動線が交錯しないよう計画地内に配置さ



設計する上でコンセプトを考えた結果、公園内の勾配や水辺との関係を踏まえた上で三角錐の型を基調とした建築物を建てようと考えた。

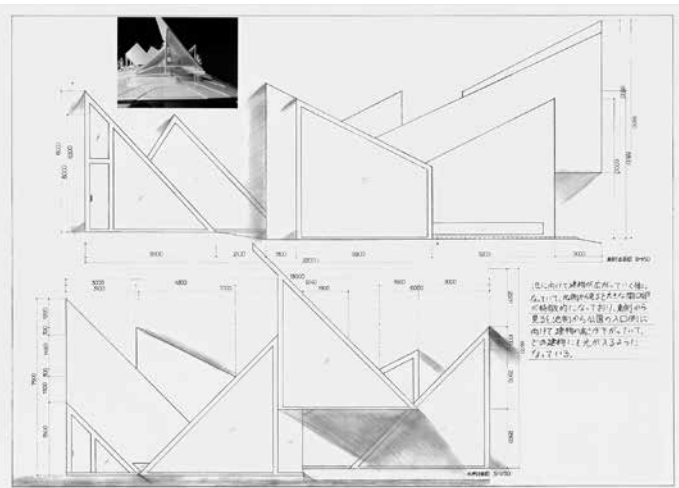
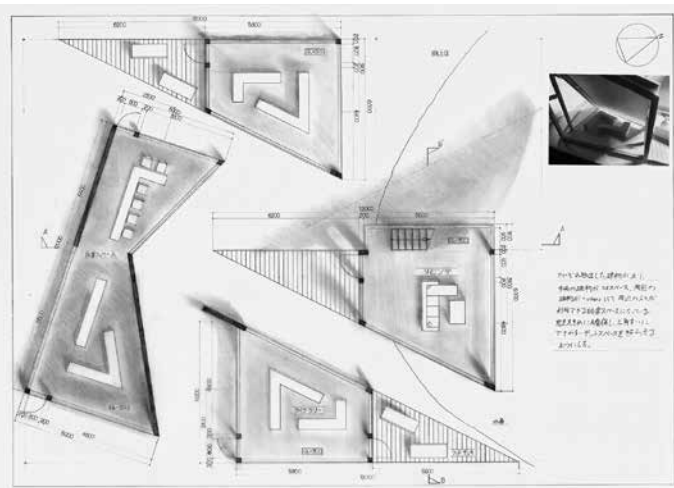
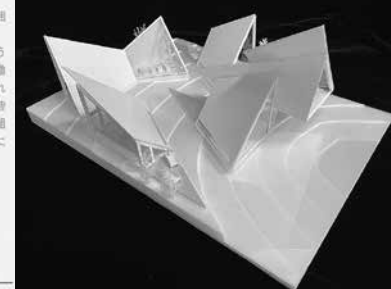
公園の調査では駅前の入り口から池を眺めると見降ろす形になると思い、屋根の勾配を上手く活かせると思った。更に、同じ水辺の建築物としてシドニーオペラハウスを思い浮かべた。その上で勾配を活かし、シドニーオペラハウスの様に池に揺らめくヨットの様な見た目のデザインにすることを考え、三角錐の形状に導かれた。

三角錐にする上でこの建物にデッドスペースが生じてしまうことが分かった。そのデッドスペースの活用方法を考えた。その結果、鉄いすスペースが生まれる場所をウッドデッキにすることにした。更に、異なる大きさの三角錐同士を組み合わせるなど常に隠いスペースを無くすことを意識に置きエキースを進めていった。



配置は題名でもある砦をコンセプトに考えていった。下段中心の棟を取り囲むように他の独立した棟が取り囲む形になっている。

砦をコンセプトにしたきっかけはマイスペースである中心の棟を楕円状の楕に置き換えてそれがothersであるオープンな読書スペースという名目の楕が楕の塔を死守といった様な形にしたいと考えたからである。つまり、それぞれの棟は独立しているが実際はまとめて一つの建物であるといった様に人々を案内に迷い込ませる形にしたいと思った。実際に建物同士の間にある道は入り組んでおり、そこから湖面に視線が伸びる様なスペースも存在している。更に棟に囲まれることでプライベートな雰囲気を感じることが出来る。



を用いることで、公園の景観になじむ
 ような施設とした。

近しい関係にありとうとした。具体的には、六角形の筒状の内部空間に距離感や構造体としてのバランスを調整しながら三角形の床盤を設置して、その外周部には屋上まで登れる階段状のテラスが配置されている。内部の活動が床盤と連動したテラスに滲み出るような設えになっていて、コミュニティの拡がりや期待させる特徴的な場所となっている。良いアイデアを上手に昇華できた。大いに評価したい。初期のスケッチ段階からこの形状にこだわって構成を強化しつつ、空間の使われ方も上手に解けた。彼女のふわっとした語り口と、このようにロジカルに組み立てられた作品とのギャップもとても面白かった。
 (川久保智康)

大野紗矢香

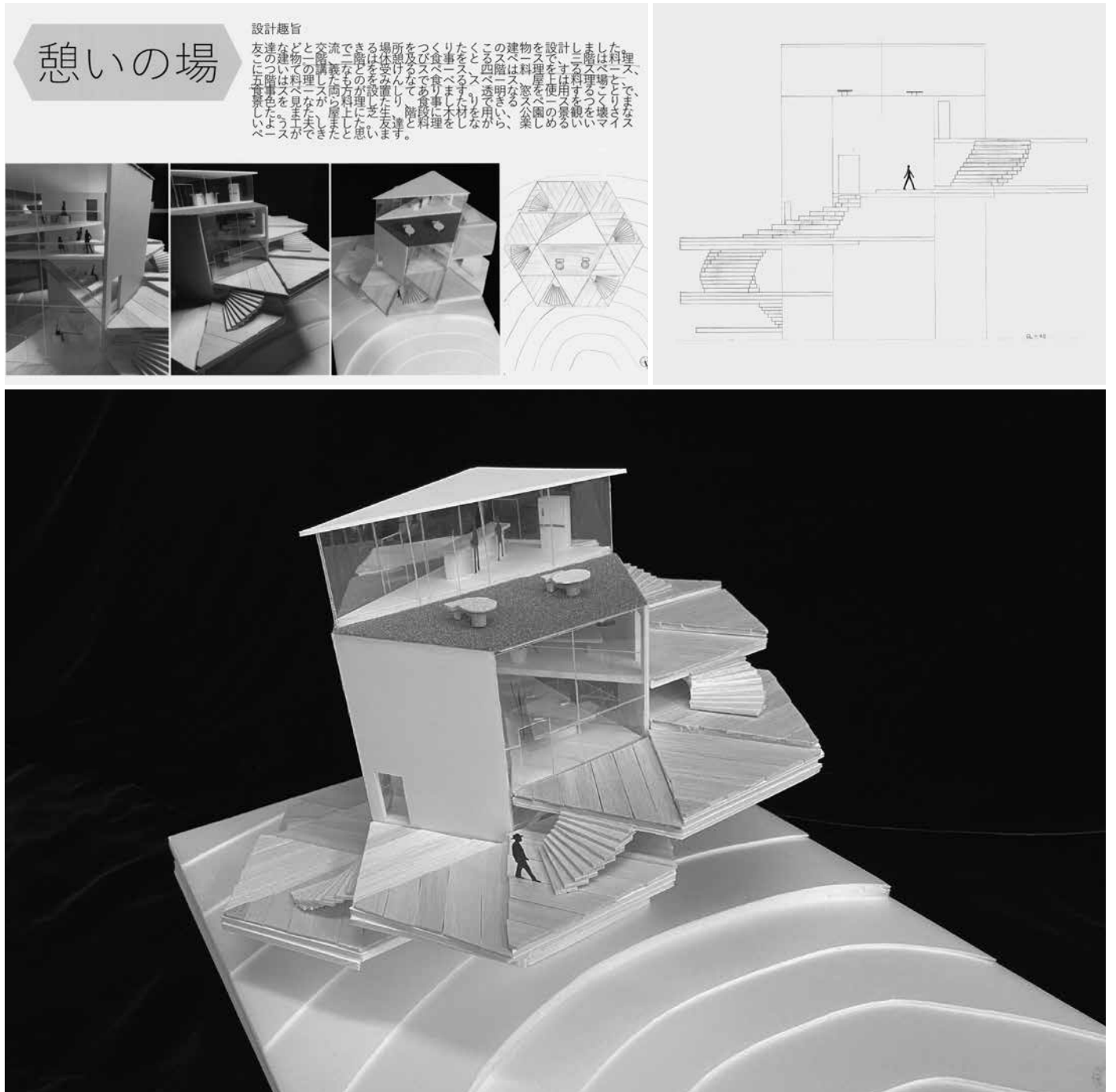
「憩いの場」

■コンセプト

友人との交流の場所としてこの建物を設計した。この建物では、1・2階は休憩および食事スペースであり、3階は料理のレクチャーを受けるスペース、4階以上は調理や食事とともに楽しむスペースとしている。外壁には大きな開口部を設けることで、景色を眺めながら料理や食事を楽しむ場とした。屋上には芝生、階段にはウッドデッキ

■講評

本課題では、文字通り自分のための空間でありながら、それぞれにテーマを想定して自分以外の誰かとつながる空間を提示することが求められている。大野案は食事という生活の一部をテーマに、他者との交流を作り出そうとしている。料理を習う、つくる、みんなで食べる、くつろぐなど、食事に関連する行為を段階的に捉え、その行為ごとに割り当てた空間は吹抜けを介して



憩いの場

設計趣旨
 友人との交流の場としてこの建物を設計した。この建物では、1・2階は休憩および食事スペースであり、3階は料理のレクチャーを受けるスペース、4階以上は調理や食事とともに楽しむスペースとしている。外壁には大きな開口部を設けることで、景色を眺めながら料理や食事を楽しむ場とした。屋上には芝生、階段にはウッドデッキ

2年生（前期：デザイン演習Ⅰ、後期：デザイン演習Ⅱ）

【担当】 佐藤 信治
小林 直明
菅原 遼
安藤 亮
奥村梨枝子
小野 和幸
玉上 貴人
筒井 紀博
長谷川洋平
森田 敬介
山田 晶子

デザイン演習Ⅰ（前期）

第2課題

「環境と住空間を考える
一大横川沿いに建つ住宅」
（出題：玉上貴人、奥村梨枝子）

【課題趣旨】

社会的な背景を踏まえて現代の家族像や生活スタイルを念頭に、周辺環境を考慮した住宅設計を行います。敷地は江東区門前仲町付近、江戸時代の埋立地に造られた運河の大横川に面した古くからある街区を設定しています。都心で利便性が高いと同時に、富岡八幡宮や深川不動尊の門前町など江戸の下町風情や足跡を残した地域です。大横川護岸沿いの散歩道とレベル差を有しながらも視覚的なつながりを持っています。敷地をA～Cから選択し、その特性を捉えた計画をしてください。

【学習目標】

現代の家族像や、その暮らし方について考察／住空間のスケールや基本寸法を習得／エスキースからプレゼンテーションまでのプロセスを学ぶ／製図記号等の図面表記を習得／住宅としての機能だけでなく空間の魅力を考察／現地調査を通じて敷地の特性を読む

【敷地条件】

〈敷地A〉江東区永代2-1-6周辺
準工業地域、建ぺい率：60%、容積率：300%、その他：第3種高度地区、準防火地域、下町水網地域

〈敷地B〉江東区牡丹1-16-3周辺
商業地域、建ぺい率：80%、容積率：500%、その他：防火地域、下町水網地域

〈敷地C〉江東区門前仲町2-1-4周辺
商業地域、建ぺい率：80%、容積率：400%、その他：防火地域、下町水網地域

〈敷地A～C共通事項〉

- ・最高高さ制限10m以下
- ・構造は自由
- ・地盤は良好

【設計条件】

- ・家族の生活スタイルを各自設定する。

- ・家族構成は2～6人程度、年齢や性別、職業などの属性は各自設定する。
- ・キッチン、ダイニング、リビング、風呂・洗濯室、主寝室、個室、便所、その他を適切に計画する。
- ・動線を熟考して計画する。家事動線に十分配慮する。収納を適切に設置。
- ・駐車スペース（最低1台）を家族構成に応じて適切に計画する。
- ・家族の距離感や関係に配慮する。気配が感じられる距離を取り入れる等。
- ・現地調査を実施し、敷地の特性や方位を踏まえた計画とする。
- ・内部と外部の境界について意識する。
- ・延床面積120㎡～200㎡程度とする。
- ・階数制限なし、最高高さ制限厳守。

デザイン演習Ⅱ（後期）

第1課題

「街のアートミュージアム」
（出題：小林直明）

【課題趣旨】

門前仲町エリアの、都心のオープンスペースである都市公園に隣接した計画地において、街のアートミュージアムを計画するものである。タイトルに「街の」とつけているのは、街の顔となり、地域とつながりを持つ建築の提案を求めるためである。アートミュージアムが街にどのような影響を与えるのか、選定した展示コンテンツにふさわしい空間の質はどうあるべきか、敷地の特性を読み取り、具体的なイメージを膨らませて図面を描いてほしい。

【計画敷地および周辺条件】

計画地面積：2,365.02㎡

- (1) 敷地形状、接道条件、周辺状況等は添付資料敷地図を参照。
- (2) 現況は区立牡丹町公園として利用されており地盤の起伏が3mほどある。設計においては更地とする。
- (3) 隣接する古石場川親水公園との関

- 係を考慮。敷地内切土・盛土可能。
- (4) 用途地域：準工業地域、建ぺい率60%、容積率300%、準防火地域。
- (5) 電気・ガス・上下水道完備、地盤良好。

【計画建物設計条件】

- ・延床面積：約1,000㎡とする。
- ・構造形式は自由。階数は地上2階建て程度、必要によって地階も可。
- ・隣接する公園との関係性を活かした外構計画をすること。
- ・車いす来客用兼作品搬出入用として、駐車場1台分を設けること。
- ・駐輪場を10台以上設けること。
- ・広場、テラス、中庭、水盤、東屋、屋上庭園等、適宜自由に設けてよい。

第2課題

「地域と繋がる都市型集合住宅」
（出題：山田晶子、奥村梨枝子）

【課題趣旨】

古石場川親水公園沿いの敷地に、都市との関係性を配慮して集合住宅を計画するものである。「地域がつながる」ということはどういうことか。各住居内部の間取り、住居同士の関係、共有スペースのありかた、何をどうつなげていくのか等、さまざまな視点で考察してほしい。

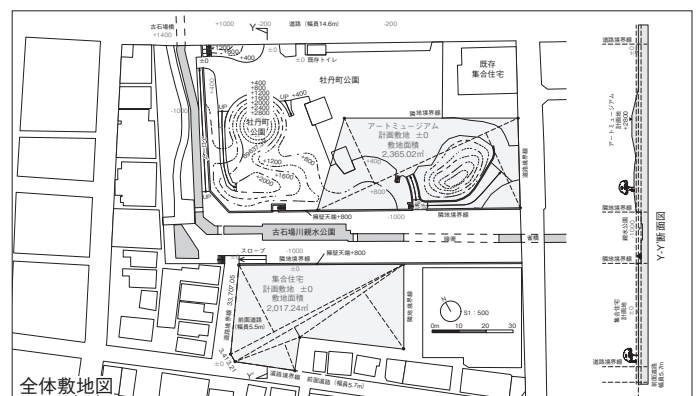
【計画敷地および周辺条件】

計画地面積：2,017.24㎡

- (1) 敷地は、添付資料敷地図参照のこと。
- (2) 敷地条件は準工業地域（建ぺい率60%、容積率300%）。防火地域。
- (3) 電気・ガス・上下水道などは整備されている。地盤は良好である。
- (4) 現存する敷地内の建物は、更地として計画する。

【計画建物設計条件】

- (1) 鉄筋コンクリート造、地上3階建て以上5階建て程度の中層集合住宅。
- (2) 住まう人は計80人とし、80人のための新しい暮らしを提案する。
- (3) さまざまな住戸タイプの集合としての80人、または1人暮らしが80住戸と共用部としてコモンスペースの設置など、集まって暮らすことの意味を考えた提案とする。
- (4) 住戸形式はフラットタイプのほか、メゾネット、トリプレット等、立体的な住戸形式としてもよい。
- (5) 入居者同士の交流や、広く地域に開放できる利用方法を提案する。
- (6) 共用エントランスには、メールコーナーを設ける。
- (7) 共用部として、管理員室・ゴミ保管庫・ポンプ室などを設ける。
- (8) エレベーターを必ず設置する。
- (9) 延床面積を算定すること。外気に有効に開放され、屋内的用途に供しない部分は延床面積に算入しなくてよい。



ことで、人々が徐々に集うような住宅を設計した。

伊藤ひかり

「中庭のある家」

■コンセプト

本計画は、住宅や道路等に囲まれた計画地の特性を考慮し、住宅の中心部に中庭を設け、中庭を囲むように諸室を配置することで、住民のプライバシーを確保するとともに、周辺環境から自然（光や風）を取り込むための特徴的な開口部を設計した。また、大横川沿いには近所と関わるスペースを設け、親しくなるにつれて中庭へと引き込む

■講評

本課題では3つの候補地から敷地を自由に選択できる条件であったが、伊藤案が選択したB敷地は住宅を計画するには好条件とはいえなかった。北西以外の3方が高い建物に囲まれていることから、採光は期待できず、プライバシーが確保しづらい敷地だった。

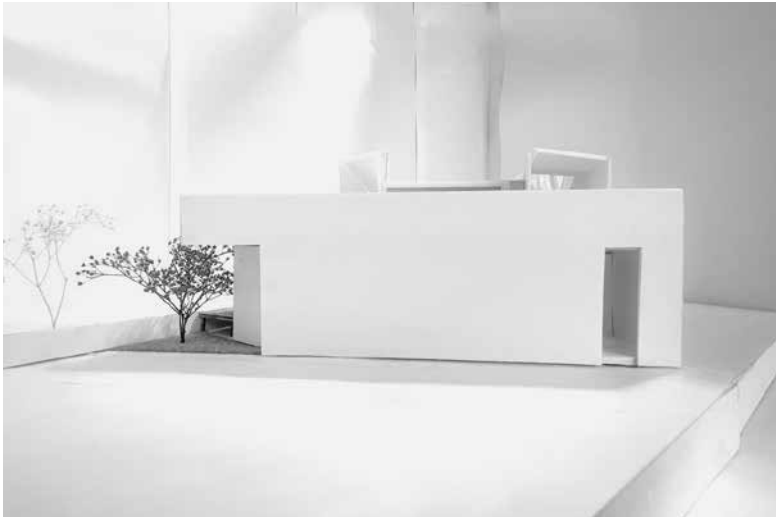
伊藤案は中庭形式を採用することでこれを巧みに解決している。基本的な採光は中庭から確保し、1階は外壁に開口部を設けず、2階のリビングルームと寝室は開口の向きや袖壁と庇の形状操作によってプライバシー性や取り

込む景色をコントロールしているのだ。

遊歩道側に開放したテラスは河川に親しみ、行き交う人々との交流を促す場である。中庭はダイニングルームや祖母の部屋に面し、客人を招き入れる縁側となる。最も親しい友人は2階のリビングやドッグランテラスへと招き入れられる。

マッシブなボリュームに穿たれた彫りの深い入口はこうしたプライバシー性の異なるレイヤーをもっていることを示唆するかのように惹きつけられる。

一見周囲に閉ざしているようにみえて適度に街に開かれたこの家は、過度に主張せず自然とこの場所に馴染んでいくのではないかと期待させてくれるのである。（玉上真人）



デザイン演習 I 第2課題
環境と住空間を考える
 一大横川沿いに建つ住宅

榎本 彰

「A house with a bar remnant of the War of the Roses」

■コンセプト

設計した建築物は夫婦で営むバーを中心とした住居である。1階にバー店舗、2階3階が居住エリアとなっている。家族構成としてはわが子が独り立ちをし、子育てが一段落した夫婦が2人で暮らしているというものを想定した。

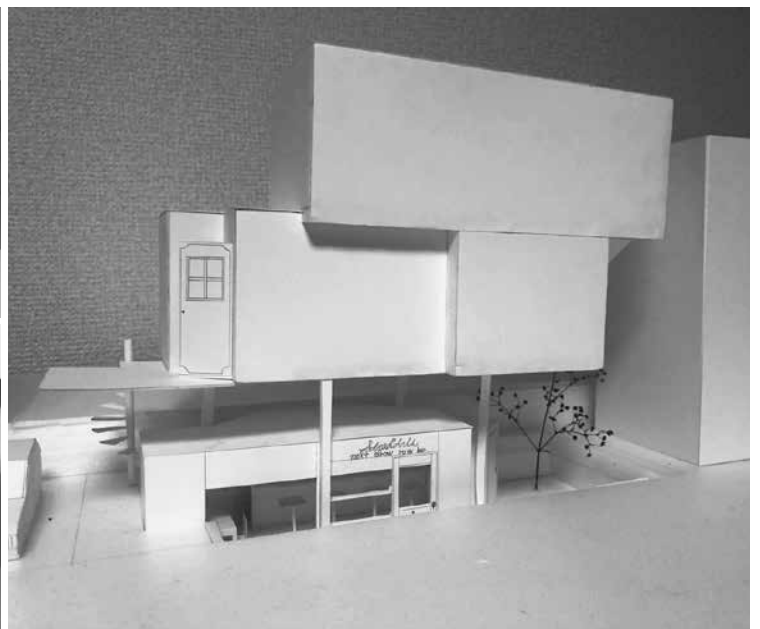
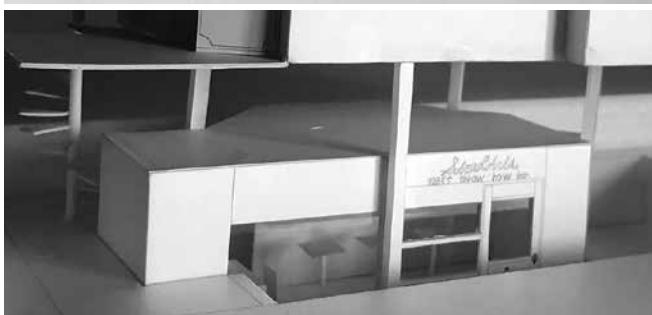
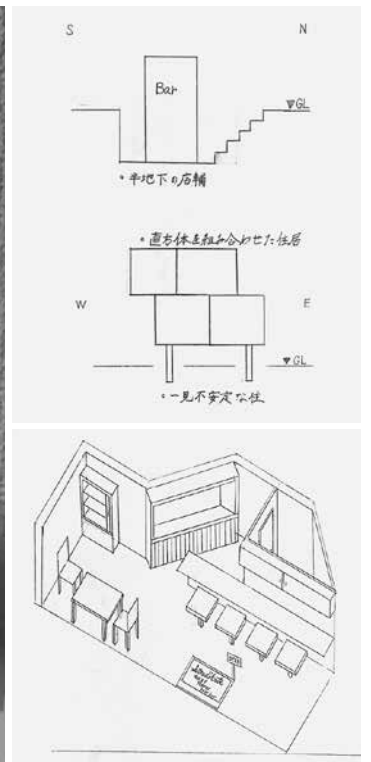
バーのコンセプトは狭い店舗ながら

も長くいても居心地の悪さを感じないこととダーツの楽しさを感じられることである。また、外部からの視線を極力受けまいよう1階にある店舗部を半地下の構造にした。夫婦の居住区に関しては、一日の半分以上、しかも夜間をバーで過ごすため日中は寝ていることが多いと考え、生活に必要な最低限な部屋のみを設計し、寝室に窓は設けないことにした。その影響で建物内が暗い印象になってしまうを防ぐため、設けることができる窓は極力大きいものにした。

■講評

この住宅は隣接する親水公園とのつながりを考慮することなく計画をしたものであった。作者は、門前仲町という地域性に着目している。このため、この家の主人をバーを経営する夫婦と

している。敷地は、親水公園とのレベル差が2.5mあるため、ここをさらに掘り下げ、そこで作られた段差の中にバーとなるボックスを挿入している。住宅は、ここは動線的に切り離されており、専用の入り口から上階へとアクセスする。この結果、食住と分離された立体的な空間性が高まる計画となった。室内は、トグロのように階段と廊下が巡っており、その隅っこに必要な空間が申し訳なさそうに置かれている。夫婦2人の住宅として門前仲町に城を構えるように造られたのは隠れ家のようなアジトである。外壁に穿れたさまざまな窓は洞窟にある明かりとりの穴であり、この案の魅力を高めるアクセントとなっている。(佐藤信治)



田中修斗

「個々との関わり」

■コンセプト

この建築は「家族が異なる部屋にいても常に関わることができる」をコンセプトとしている。

住宅内部は全体をスキップフロアで構成することで、部屋の区切りをなくし狭い敷地の中で暮らしている住民にとって空間を広く感じることができるよう工夫した。こうした空間的な工夫により、階段部分を吹き抜けにするこ

とで家族がどの部屋にいても関わるることができる。また、バルコニーやベランダを多くもうけることで自然を感じることができ、一人の時間を楽しむことができるようにした。

■講評

間口がわずか5m、奥行き20mの南北に長い特異な敷地形状。

都市特有の環境の中で、生活の質に抑揚をもたらすことのできる微かな自然をいかに読み解くかが設計する上での重要な要素となる敷地である。

田中案は敷地を緻密に分析し、敷地の持つ特性を活かしながら不要な摩擦を生じさせない素直な計画となっている。

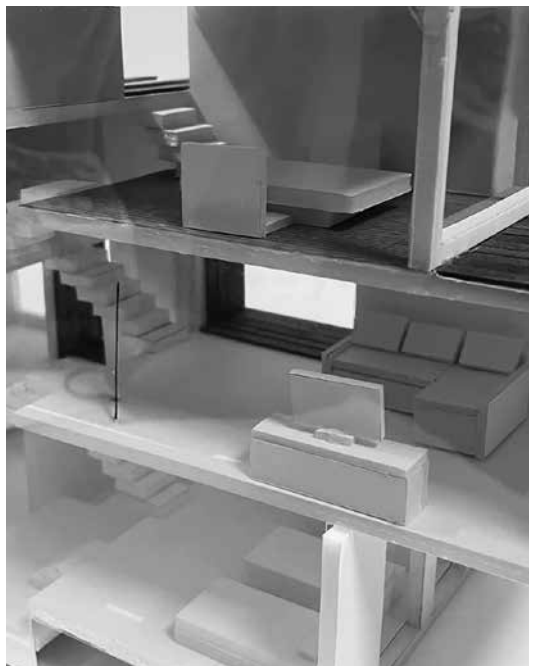
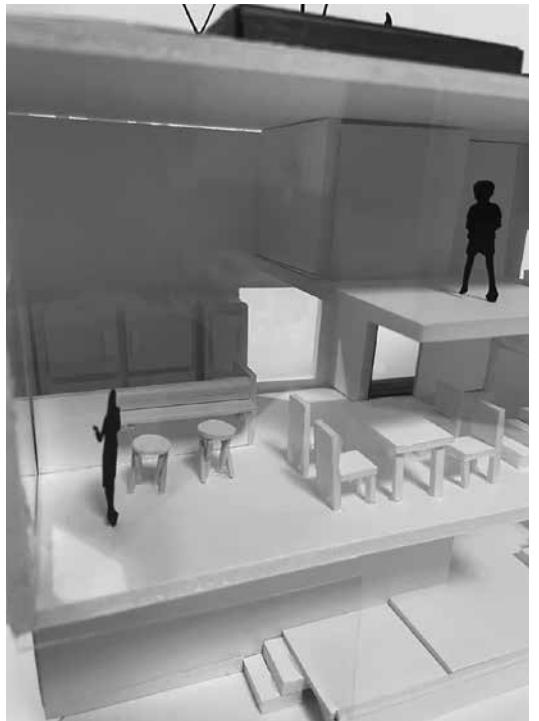
家族構成、用途から空間のボリュームを算出し、敷地中央にある高低差を活かして、まず大きなボリュームを二分している。中央に住まいのコンセプトとなる家族のつながりをもたらす吹

き抜けを配置。

そこから各部屋を機能ごとに細分化し、南面の桜並木や公園といった自然の眺望を日常空間に取り入れるべく、長手方向、短手方向おのおのに空間のすれを生じさせ、屋外空間を建築の必要ボリュームとなる立体に組み込ませている。

また、住宅の持つプライバシー性とパブリック性を考慮した各居室の配置となっていることも評価に値する。

願わくば、公園に面する1階の外構計画や道路側のアプローチのあり方などがもう少し練り込まれていると、より内外空間での意味合いも深みを増し、より魅力的な空間となるだろう。今後の成長に期待したい。(筒井紀博)



齊藤慶悟

「food cave」

■コンセプト

今回の敷地周辺の門前仲町という地域には、江戸時代に城壁の石置場としての役割とそれを運搬する水路が引かれている。また、江戸時代から根強く残る下町の食文化や「東京市深川食堂」という歴史的に大切な食堂を現存している。その2つの特性をアートミュージアムというものに落とし込んだ。形をスタディーする際に、公園と親水

公園に存在する1mの高低差を生かし、「親水公園側には水上レストランを敷地内に計画する」「公園側には開けた体験ブースを作る」というものを主軸に考えていった。その際に機能的には分割する役割を持ち、形状的には1m高低差を感じさせないようにスキップフロアと屋根のレベルを徐々に上げていくことで外部からは石が積みあがっていると感じるような表現をした。またアートテーマとしては、社会問題の一つである「食料廃棄問題」と地域の食文化を肌で感じてもらうために自らの食の盛り付けを体験してもらいその盛り付けをグループ内でシェアしながら食事してもらうような体験型アートを採用した。このようなアートミュージ

アムが門前仲町に計画されることでより歴史・社会に触れる街になってほしい。

■講評

今日の美術館展示の在り方は、一方通行の「見せる」「見る」という行為のみならず来館者も展示に直接的にかかわるインタラクティブな体験型のものが増えている。当課題の大きな問いかけである計画地における展示物やその展示方法、美術館建築の在り方に対して、斎藤さんはこの土地と文化の両方を大らかに受け止めて設計に臨んでいる。

門前仲町に根付く食文化をキーワー

ドに、盛り付けと食事体験施設の提案を展開した。盛り付け体験の場はショウケース化した豊かな展示スペースを牡丹町公園に対して大きく開くことにより街の人々に訴求し、反対に親水公園側は静寂の中で食事のひと時を限られた人に提供するという計画だ。そしてそれぞれの空間をつなぐ動線上には、ガラス、石、水といった象徴的な素材を織り込んだ建築的シークエンスの仕掛けがある。周辺環境に対するボリュームという意味では課題は残るが、この土地の要素をあるがまま受け止める姿勢には作者の懐の深さのようなものを覚えると同時に、その柔軟性な思考により共感性の高い提案になっていると感じる。

(奥村梨枝子)

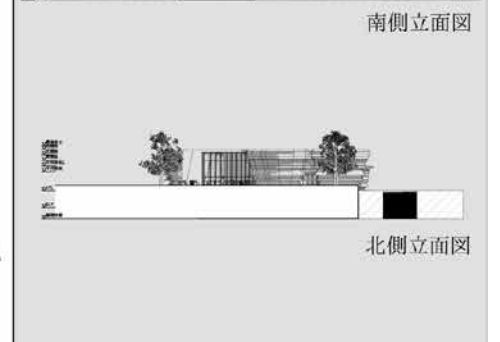
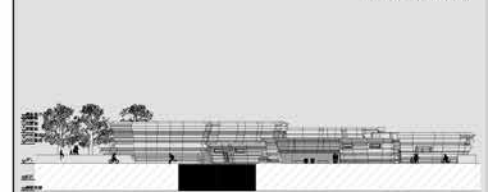
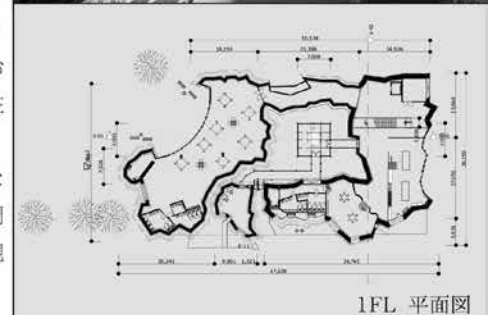
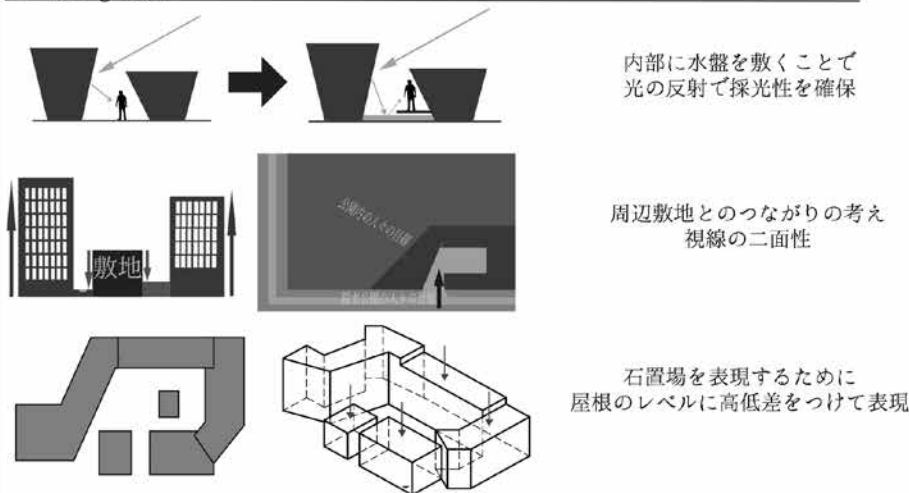


1. Concept

今回の敷地である牡丹町公園の近隣には幼稚園と老人ホームが存在しており、そのため公園利用者の年齢層の幅が大きくなっている。また、門前仲町という江戸時代から食文化が盛んであったことから、今なおこの地域には食が根付いている。他にも門前仲町駅の近くには昭和7年まで「東京市深川食堂」という食堂が存在しており現在では「深川東京モダン館」として今なお地域住民に慣れ親しまれている。江戸時代には、古石場という地域に江戸幕府の石置場が存在していた。

このことから子どもから高齢者までが楽しめるような形でありなおかつ歴史を感じれるようなものにするため、アートのテーマを食の盛り付けという体験型にすることで老若男女問わず門前仲町の歴史を間接的に楽しく触れてもらい、建物の形状を石のような形にすることで古川親水公園が古くに石置場として使用されてきた歴史をよみがえらせる働きをする。

2. Diagram



若松瑠苒

「繋がりと広がり
～街のマンガミュージアム～」

■コンセプト

繋がりから広がるというワードをテーマに計画を行った。マンガという誰もが同じ目線で楽しめるものを通じて、大人と子ども、牡丹町公園と親水公園、近年移り住んできている海外の方と日本を繋ぎ新たなコミュニティや空間が広がっていく場を設けたいという想いのもと提案した。

空間デザインとしては、牡丹町公園から古石場川親水公園へと直線的に通る視界の抜けを作るとともに、5つのマンガが内部から外に開いていくことでミュージアム内部に引き込み、そこから広がっていくような動線とした。また開いた単行本にはそれぞれ異なった役割と機能があり、各マンガ独自の世界観を楽しむことができる。

機能としては、メインの展示に加えカフェやショップ、マンガの貸出スペースがあり、マンガを借りて親水公園やエントランスホール、外部の階段状の空間などでマンガを読んでリラックスできるといった利用を考えた。

親水公園については、利用者が物語の主人公になれるような空間とするた

め親水公園のデザインにマンガのコマ割りをイメージしたデザインを採り入れ、非日常を味わえる空間を演出した。

■講評

この課題の計画地は、区立牡丹町公園と古石場川親水公園に隣接している。牡丹町公園では親子連れで遊ぶ姿もあれば、親水公園のベンチでのんびりと過ごす高齢者もいるこの地域。幅広い年代の人々が街のこの一角を利用している。しかしながら、敷地調査時に世代間のつながりや、計画地と牡丹町公園、親水公園の連続性の乏少を目の当たりにしたことを起点に、その解決策提案として若松さんのデザインは始まっている。これを日本の誇るべき表現

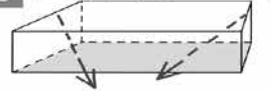
の1つであり、世代や国籍をも超えて共感を得る「マンガ」を介し、人々と2つの公園をつなぐという明快なアイデアである。

マンガ本が開くような具象的な造形からは人々の流れのいざないを、コマ割りのような展示室の配置、またそれが能動的に親水公園側まで自然と流れ出していく様子は、親水空間の水のゆらめきとマンガの中の非日常が重なり合わせるといった意図がしっかりと読み取れる。またどのシーンにおいても、ヒューマンスケールを逸脱しておらず、ここにいる誰もが主役となり、人を中心に建物とランドスケープを捉えた建築に対する強い想いを感じる。

(奥村梨枝子)

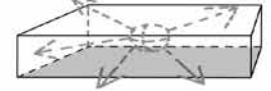


6 ダイアグラム fig.1



牡丹町公園と古石場川親水公園を繋ぐために公園方向から親水公園へと直線的に通る視界の抜けから構想を始め

fig.2



次に利用者を内部に引き込み中心から広がっていくような動線計画とし、建物全体に動きを加えた。

fig.3



最終的に、マンガが開くようなデザインを取り入れ人を引き込みつつ多方面へと繋がり広がっていく空間とした

1 マンガの持つ力 2 物語が始まるそして繋がる

漫画という誰もが同じ目線で楽しめるものを通じて大人と子供、牡丹町公園と親水公園、近年移り住んできている海外の方と日本を繋ぎ新たなコミュニティや空間が広がる場を設けたいという想いの元、漫画ミュージアムを提案した。

中央広場については、マンガの映像やアニメーションを流して人を引き込む場とした。

定期的にはマンガの紹介イベントや感想・考察を共有し合うイベントを設けることで新たなコミュニティ形成をはかる空間利用を考えた。



3 物語の主人公へ 利用者＝主人公

展示スペースはコマ割りのように分けることで、次の部屋に進むと全く違った世界観を演出できるように計画した。

利用者が物語の主人公であるような非日常空間が味わえる場とし、自ら物語を創りだして行くようなデザインとした。

4 マンガの世界へ入り込む

展示スペースはコマ割りのように分けることで、次の部屋に進むと全く違った世界観を演出できるように計画した。



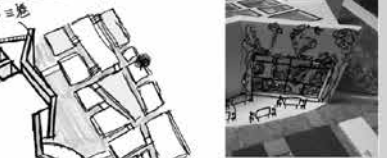
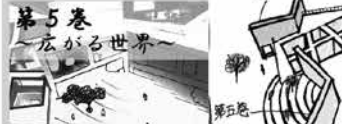
5 織りなす五つのストーリー 第3巻～五感で味わう～

第4巻～外界からの誘致～



カフェスペースがあり、企画展示の内容によって世界観が大きく変わる。

第5巻 広がる世界～



第1巻～始まりの扉～



第2巻～川の中の物語～



親水公園に向けて広がり公園と繋ぐ役割。

若松瑠冴

「個から集へ。そしてあふれる。
 ～1からひろがる集合住宅～」

■コンセプト

近年、リモートワークや海外からの移住などにより1人暮らしの人が増加し、コミュニティが広がりにくい環境となった。これを変える橋渡しとなるように、今回は1人暮らしの人をメインに人と人をつなぎ、輪と輪をつないで形成されたコミュニティが自然と溢れていくような空間を形成したいとい

う思いのもと提案した。

1階は銭湯施設のあるパブリックスペース、2階から4階が住戸のあるプライベートスペースとなっている。またコミュニティ形成の場として、1階と2階に交流スペースがあり、そこで生活の知恵や趣味を共有するような住民間の交流を促す催しを定期的で開催できるように計画した。また内部には吹き抜け空間があり、開放感を味わえる空間とした。

今回の課題の最大の特徴は前回課題の計画敷地と近接している点であると捉え、前回課題の繋がりをテーマとしたマンガミュージアムとの連続性を生み出すため、マンガミュージアムはマンガの単行本、親水公園にはマンガの

コマ割り、そして今回の都市型集合住宅にはマンガの吹き出しをイメージしたデザインとし全体的に統一感のあるテーマで計画を行った。

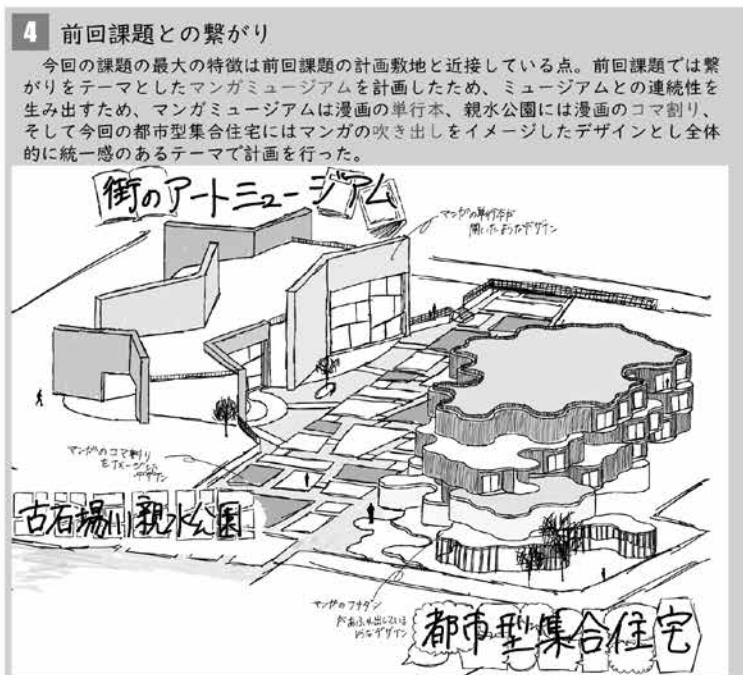
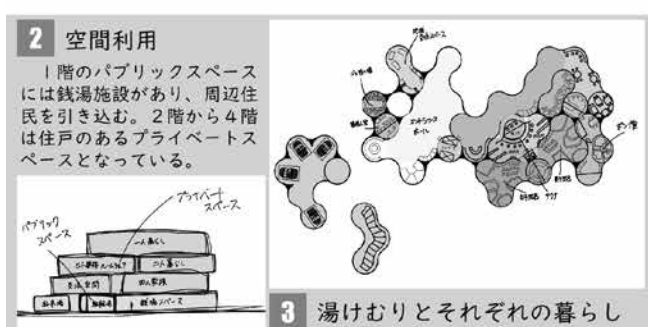
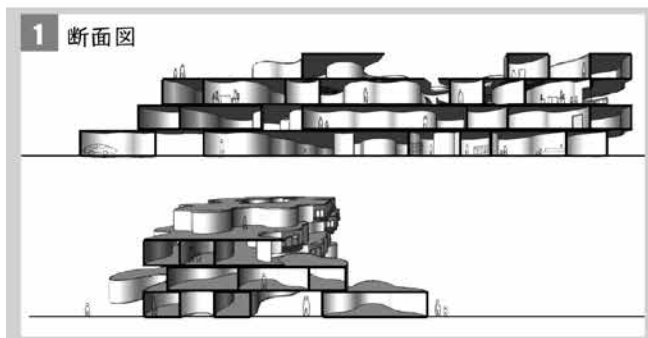
■講評

円を空間単位とし広さの必要に応じて複数連ねることにより、1人暮らしから家族世帯までの住戸、ここで暮らす人々の交流の場、さらに地域住民も立ち寄れる銭湯スペースを1つの建築にまとめた案である。円という裏表のない造形を上手に操り、ぶくぶくと有機的、能動的に広がる泡の如く自ずと空間が広がり、その空間のあちこちに息づくおのこの生活の営みが想像できる。さまざまな人を受け入れる受け

皿のような建築だ。

多様な価値観が肯定されつつあり、またコロナ禍を経験した現代社会において、集合住宅の価値の在り方は大きく変容したであろう。本案は、そんな今を捉えた1つの回答となっている。個を尊重しながら、自然なつながりの中で集い暮らす場の提案は、多様性の受容と自発的コミュニティの形成への作者の想いが素直に読み取れる。

また本案は前課題のアートミュージアムから始まり、今回の集合住宅、それぞれに水辺の空間を引き込む親水公園改修案、に至る地域に対して横断的な提案である。地域における建物という鳥瞰的な視点を持ち、真摯に取り組んだ連作となっている。(奥村梨枝子)



菊池康太

「栽培される住宅 ～人々が創り出す新しい集合住宅の形の提案～」

■コンセプト

人々のコミュニティが形成されるのは道路であると考え。今回の設計では、集合住宅内に1本の大通り（廊下+階段）を通し、どこの住戸にアクセスするにも、同じ道を通るよう設計した。今回の敷地特性としては、計画敷地の北側に牡丹町公園と古石場川親水公園が立地していることが挙げられる。

採光を気にせず2つの公園に対して開いた建築にするのか、あるいは南側に開いた建築にするのか、計画段階で迷いながらも南側に開く建築とした。大通りを人々が集まる空間とするためには、隣接する2つの公園との空間的魅力的な差別化をする必要があると考えたからである。ハニカム型のポートやフレームを用いることで、隣地の建物への視線を制限し、大通りと天窓の目地を揃えることで、空へと吸い込まれていくような空間を演出した。また、大通り沿いには、あえて機能を限定しないクリエイティブスペースといった広場的空間を設け、住民による創造的な場とした。常に変化し続ける空間とすることで、住民にとって刺激的な空間

となり、持続的なコミュニティの形成が可能となる。

■講評

菊池君も示すようにこの案の特徴は、「道路（廊下）」の空間を豊かにすることでコミュニティを生成させようという試みで、「廊下」を「通り」にすることである。これは菊池君の普段の生活の「気づき」がスタートとなっている。

「大通り」と称する大階段とクリエイティブ空間は、商業施設を思わせるボリュームで違和感があるが、全体をまとめる空間で、住戸とは一定の距離を置くことで、住民だけではなく利用

の意図が感じられ、さまざまな活動が想像される。各戸への廊下もタテヨコに建物を貫通・縦わせ周辺状況に合わせてハニカム型外壁で巧みにプライバシーを守りながら、光と風の抜ける空間創り出している。

集住の「廊下」を「通り」にする試みは珍しいものではないが、外壁のデザインを含め廊下や階段を肥大化させる単純な操作だけで、「通り」をつくり上げており、ボリュームの問題を解決すれば、具現化可能な提案といえる。

大階段⇄クリエイティブ空間⇄公園、各戸⇄廊下の空間について菊池君の「気づき」をビジュアル化させることで、より魅力的な提案になると思われる。
 (安藤 亮)



栽培される住宅

～人々が創り出す新しい集合住宅の形の提案～

隣接する公園との空間的魅力的な差別化

大通りからそれぞれの一軒家に入って行くイメージ

集合住宅
空

古石場川親水公園 牡丹町公園
水 緑

廊下で
遊ぶ建築

視線制限による空間的魅力的な増大

ジムとしての利用

クリエイティブスペース

持続的なコミュニティの形成

茶の間としての利用

2階平面図

3階平面図

3年生（前期：デザイン演習Ⅲ、後期：建築計画及び演習）

デザイン演習Ⅲ（前期）

第1課題

「海の駅」

（出題：佐藤信治、勝又 洋）

【課題意図】

海の駅とは、国土交通省により登録された、「海から、誰でも、いつでも、気軽に、安心して立ち寄り、利用でき、憩える」船舶係留施設である。離島振興策からスタートして、当初は大型のヨット、モーターボート等の利用環境整備や情報のネットワーク化・提供を目的に設置が推進された。誰でも利用できる船舶係留施設、施設の予約受付案内担当者の配置、公衆便所の設置の3点が必要最低登録要件となっている。このような行政的解釈から「海の駅」とは、休憩施設と地域振興施設が一体となった施設であり、単体としての機能に加えて海の駅ネットワークの構築が図られた結果、以下の3つの機能が浮かび上がってくる。

- (1) 休憩機能 海路利用者が24時間自由に利用できる休憩施設の提供
- (2) 情報発信機能 来館者に対してその地域の文化・名所・特産物などを活用したサービスの提供
- (3) 地域連携機能 それぞれの地域（町）の核となり、海路を介した地域（町同士）連携の促進

計画地：みなとみらい

「山下ふ頭周辺地区」

課題は、漁村等の地域振興型ではなく、むしろ海上交通の起点としての都市機能の一部を包括する施設といえる。設定敷地エリアは陸上で約8,800㎡。隣接する山下公園との関係性を踏まえ、海上から都市景観を意識した、新たな都市の結節点として、賑わいを演出することのできる施設計画を求める。

【設計条件】

- (1) 敷地条件
敷地形状、接道条件、周辺状況は、

別添図面を参照。電気・ガス・上下水道は整備されている。地盤は軟弱であり、杭基礎とするが、耐圧盤下の表現は不要。敷地設定範囲外への提案については、各班ごとの指導による。

(2) 建築条件

構造形式は自由。下記程度の規模であれば、建ぺい率・容積率の考慮は不要。基本的に隣地および道路境界より1m以上セットバックさせる。

(3) 計画諸元

- ① 建築諸室：延べ面積約2,000㎡（各室面積の±10%を許容範囲とする）
・客用部門（計1,450㎡）：玄関ロビー（200㎡）、休憩ラウンジ（100㎡）、レストラン・カフェ（300㎡）、物産販売店舗（400㎡）、展示スペース（250㎡）、来館者用化粧室（80㎡）、廊下・階段・客用EV（120㎡）
・管理部門（計550㎡）：事務室（170㎡）、会議室・応接室（50㎡）、宿直室（15㎡）、給湯室・従業員トイレ（15㎡）、管理エントランス・廊下・階段・人貨用EV（100㎡）、倉庫（100㎡）、機械室（100㎡）
- ② 屋外施設：アプローチ、広場、散策路、植栽などを建築と一体のランドスケープとしてデザイン。来館者用駐車場は、周辺施設との共用も検討可能だが、専用駐車場として大型車用5台、身障者用1台、サービス用5台程度の駐車スペースを確保すること。

【提出物】

- (1) 表紙：作品タイトル、設計趣旨（テキスト・ダイアグラム、パース、スケッチ、模型写真等で明快かつ視覚的に表現）
- (2) 配置図（縮尺1/500）：建築物は屋根伏とし、外構計画を表現
- (3) 平面図（縮尺1/200）：各階平面、室名は凡例をつけて略号も可。1階平面図には周辺の外構も記載
- (4) 立面図（縮尺1/200）：4面すべて、影や素材等を表現
- (5) 断面図（縮尺1/200、1/300）：2面

以上、水域と建物との関係がわかること（南北、東西）

- (6) 模型（縮尺1/200）：模型提出のほか、模型写真2カット以上を表紙にレイアウト
- (7) 内観パース：手描きでもCGでも表現方法は自由。1カット以上

第2課題

「水族館」

（課題担当：佐藤信治、鶴田伸介、小平純子）

【課題趣旨】

第1課題に引き続き、海の駅の隣接敷地に水族館を計画します。横浜港は歴史的にも近代日本の発展の要所であり、この一帯もかつては貨物船と保税倉庫など港湾施設が集まっていました。今もなお歴史ある風景を継承し、老若男女が集まり、新たな文化や価値を生み出す地点として、横浜を代表する観光スポットとして存在しています。

このエリアにふさわしい魅力的な水族館とは何でしょうか。社会の中での「水族館」という施設の在り方を考察し、都市型である敷地の特徴を捉え、「新たなシンボル」となりえる施設を提案してください。

【課題のポイント】

- (1) 敷地条件の把握 立地、敷地の大きさ、施設規模、既存動線の位置を把握し、計画概要を捉える。
- (2) 水族館機能の把握 観客スペースと管理スペースの関係性。
- (3) 水族館機能の検討 教育、研究、展示、アミューズメント機能の関係性。
- (4) コンセプトの創出 説得力のあるコンセプトに基づく海と陸を結び新しい水族館の創出。
- (5) コンセプトの表現 コンセプトを具体化する水際空間の設計、屋外展示を含む造形性と表現力。
- (6) 地域再開発的配慮 敷地に隣接す

る第1課題の海の駅と後期課題の宿泊施設との連動性。

- (7) プレゼンテーション 上記各段階で何を考え選択したか、過程と結果を表現する。

【計画諸元】

- (1) 敷地面積：約10,685㎡
- (2) 延床面積：約5,500㎡
- ① パブリック部門：約3,000㎡
（観覧室、レクチャールーム、レストラン+カフェ、ミュージアムショップ、休憩ロビー・休憩ラウンジ、エントランスホール+廊下、化粧室）
- ② 管理部門：約2,500㎡
（展示水槽、作業室、飼育室+研究室、荷解きスペース、事務室、会議室、館長室、宿直室、給湯室+従業員化粧室、更衣室、管理エントランス+廊下、機械室）
- ③ 屋外施設：
（導入施設、駐車場施設、その他のランドスケープ）

【提出物】

- (1) 図面表紙
配置図：縮尺1/500
各階平面図：縮尺1/200
立面図（2面以上）：縮尺1/200
断面図（2面以上）：縮尺1/200
- (2) 模型および写真
① 模型 縮尺1/200
② 写真 キャビネ判4点程度とする。
- (3) 図面提出仕様
A1判横使い、左綴じ。コンセプトおよびゾーニング図、面積表並びに写真を貼ったものを表紙とし、レイアウト、着色は自由。図面表現はCADを基本とし他の表現との併用も可とする。

建築計画及び演習（後期）

第1課題

【担当】 佐藤 信治
小林 直明
穴澤 順子
川久保智康
勝又 洋
桔川 卓也
小平 純子
鶴田 伸介
光井 純

「都市型リゾート機能を有したホテル」
(出題：小林直明)

【課題趣旨】

第1課題に引き続き、同じ計画地内の隣接敷地に「都市型リゾート機能を有したホテル施設」の提案を求めるものです。敷地北西側の大さん橋は国際客船ターミナルであり、山下ふ頭では国の政策である観光立国を実現させるための一環として、横浜市によるIRの再開発計画が進められていましたが一時中断しています。しかし、今回敷地も含め国内外の観光客誘致も期待されるエリアといえます。

リラクゼーション&ホスピタリティをどのようなデザインおよび機能・用途で感じさせ、周辺環境および歴史に呼応し、かつ海と自身が設計した海の駅、水族館との相乗効果をどのように図るのが問われます。

【設計条件】

- (1) 計画地 敷地面積：約18,957㎡
・敷地形状や接道条件、周辺状況等は別紙図面参照および現地調査による。
- (2) 計画内容
・延床面積：22,000㎡程度、建物の高さは、31m内とするが、さらなる高層、一部客室コテージタイプ（平屋・メゾネット）も可
・一部海側に張り出した施設計画、または敷地内に海水を入り込ませたラグーン形成も可
・構造形式は自由。木耐火構造集成材または木とS造・RC造とのハイブリッド構造等も可
- (3) 計画諸元
*各部門、各室面積は参考例とし、適度な設定を行うことを可とする
*駐車場50台、サービス用5台（屋外および屋内・地下階の複合も可）
- ①宿泊エリア：8,500㎡
ツイン・ダブルルーム100室程度、スイートルーム（コテージも可）10室、通路、階段、リネン室等

- ②パブリックエリア：9,300㎡
ロビー・共用スペース、レストラン、ショップ、宴会場・会議場（室）、ジム・スパ
- ③管理エリア：4,200㎡
裏方サービス諸室、機械室、廊下・その他

【提出物】

- (1) 図面
配置図：縮尺1/400、各階平面図：縮尺1/200、客室平面図・パース：縮尺1/50、立面図（2面以上）：縮尺1/200、断面図（2面以上）：縮尺1/200
- (2) 計画概要（表紙）
①計画コンセプトに合致したタイトル。
②設計趣旨は簡潔に分かりやすく、ダイアグラム、フロー図などを交えて、ビジュアルに表現。
- ③各階の床面積（部門別）および延べ面積を表としてまとめる。
- (3) 模型および写真
①模型は、全体：縮尺1/200。
②写真は、キャビネ判4点程度。

第2課題

「マスタープランとランドスケープ」
(出題：光井 純、穴澤順子)

【課題趣旨】

計画敷地全体を扱います。海の駅と水族館、後で設計するホテルとをマスタープランによって一体的な開発としてまとめ上げてください。さらにはランドスケープデザインを加えることによって魅力ある屋外空間をデザインして、海の駅と水族館そしてホテルとが、あたかも1つの街のように相乗効果を生み出すことを目指してください。

【課題のポイント】

- (1) 車輻動線と人の動線を明確に分離し、安心して歩ける開発とする。
- (2) 客動線とサービス動線、観光バスの動線を整理してわかりやすい交通計画を作り上げる。
- (3) 駐車場は、海の駅、水族館、ホテ

- ルそれぞれに配置する。
- (4) 屋外空間においては、樹木の粗密感に配慮しながら、樹木のないエリア（開放的な広場など）と樹木の密なエリア（樹木に囲まれた心地よい木陰空間）を作り上げる。散歩道やジョギング空間にふさわしい小路の曲線形を考える。また、ベンチ、水景、四阿（あすまや／東屋）を適度な距離に配置して歩いて楽しい空間を作り出す。
- (5) 建築空間とランドスケープ空間を一体的に連続した空間としてデザインすることによって、より記憶に残る空間を作り上げる。建築内部からの風景を考えること、そしてまた、ランドスケープ空間と建築を一体的に考慮した街の風景を作り上げること。
- (6) 水際への人のアクセスを促すために、歩行者動線や親水空間の魅力を作り上げる。所々に木陰休息施設を設けることで快適に人を歩かせる工夫を行う。
- (7) マスタープランづくりではわかりやすい骨格を作り上げることが必要である。空間の軸線距離の分節を図り溜まりの空間となるノード空間の、空間と空間のつながりを

デザインするシークエンス、人の移動とともに視線の抜けを演出するビューコリドール（ビスタライン）の手法などさまざまなデザイン手法を駆使して魅力ある外部空間をデザインする。

- (8) 相模湾への眺望、伊豆半島や三浦半島の眺望、また富士山の眺望を借景としてしっかりと利用する。

第2+α課題

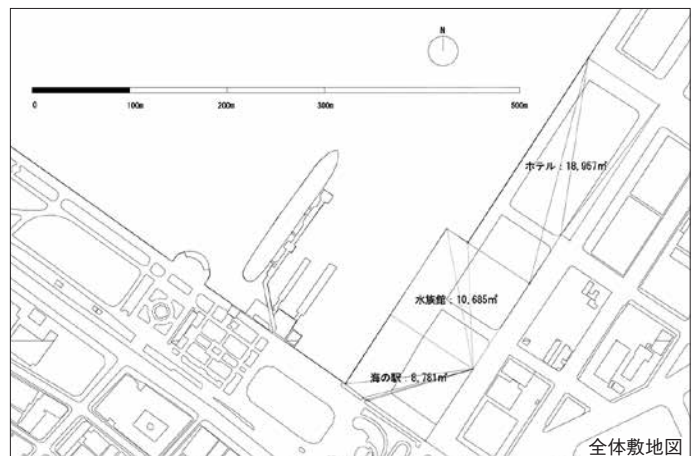
「プレゼンテーション」
(出題：光井 純)

【課題趣旨】

年度を通じて学習したことを総括する学習として位置づけ、これまでのすべての課題の成果をひとつのプレゼンテーションとしてまとめて説明する技術を学ぶための演習です。

【課題の想定】

課題敷地のマスタープランおよび三施設の建築の設計者の立場となり、みなとみらい「山下ふ頭周辺地区」を開発して環境の充実を図り集客を図りたい開発者に対して、デザインプレゼンテーションを行う設定とします。



櫻井彩音

「WATER GATE ~水を浄化し、
緑の潤いあふれる、憩いの広場へ~」

■コンセプト

地球は水の受け皿である。それは人々の生活において日常に感じられにくいものとして存在しているため、海や川というものを認識できず汚染してきた。海の美しさを再認識し訪れる人や船が吸い込まれていくような、海と緑と人とが絡み合う新しいものを生み出したい。

この建築は地球の縮図として計画敷地に隆起させることで、都市で暮らす人々にリアルときれいな水を対比させている。この建築の特徴は、地下に濾過装置があり、柱になっている部分から海水を汲み上げて、屋上に淡水化した水をはることである。また、もう一方の柱から排水して周囲の海をきれいに戻す。そうして出来上がった屋上空間では、海をきれいにすると同時に緑豊かな落ち着いた空間が出来上がる。

巨大なこの海の駅は、環境装置として海をきれいにするだけでなく、みなとみらいのどこから見ても見つけることができるので横浜を象徴する新しいシンボルとなるだろう。

■講評

「海の駅」とは、交通の結節点であると同時に、人と人が出会う憩い場であり、情報発信の拠点である。この建築は、海洋環境の問題と向き合い「海の水をきれいにしたい」という設計者の想いが込められており、独自性の高い新たな街のシンボルを提案している。課題で与えられた条件を充足するだけでなく、自ら課題を探索し創造する力を高く評価したい。これは混沌とする現代社会において、信頼される設計者像にふさわしい姿勢であり、皆さんにもぜひ見習っていただきたい。

海辺に立ち上がるボリュームは些か

大きいと思われるかもしれないが、海側から見たときの目的地としての存在感を考慮すると程よいかもしれない。建築そのものが海水を浄化する環境装置となっており、屋上の浄化された水と緑に囲われた憩いの場は、みなとみらいの風景を一望できる展望台となる。地上の水際ラインを内側へと引き込み船を出迎え、海と陸をつなげる視線と風の抜けを確保している。地下のレストランや展示スペースでは、天井の水盤から差し込む光が揺らめき、まるで水中を泳ぐ魚のような体験ができる。各層ごとに水と人との関わり方がデザインされており、訪れる人々が自由気ままに過ごすことができる多様な居場所を生み出している。 (勝又 洋)



WATRE GATE
~水を浄化し、緑の潤いあふれる、憩いの広場へ~

RF:屋上の水上庭園

みなとみらいを一望できる、美しい水と緑に囲まれた憩いの場



時間や季節によって変化する木漏れ日や景色を楽しむ。

GL:船の通う潮風広場

訪れる人が自由気ままに過ごすことのできる憩いの空間



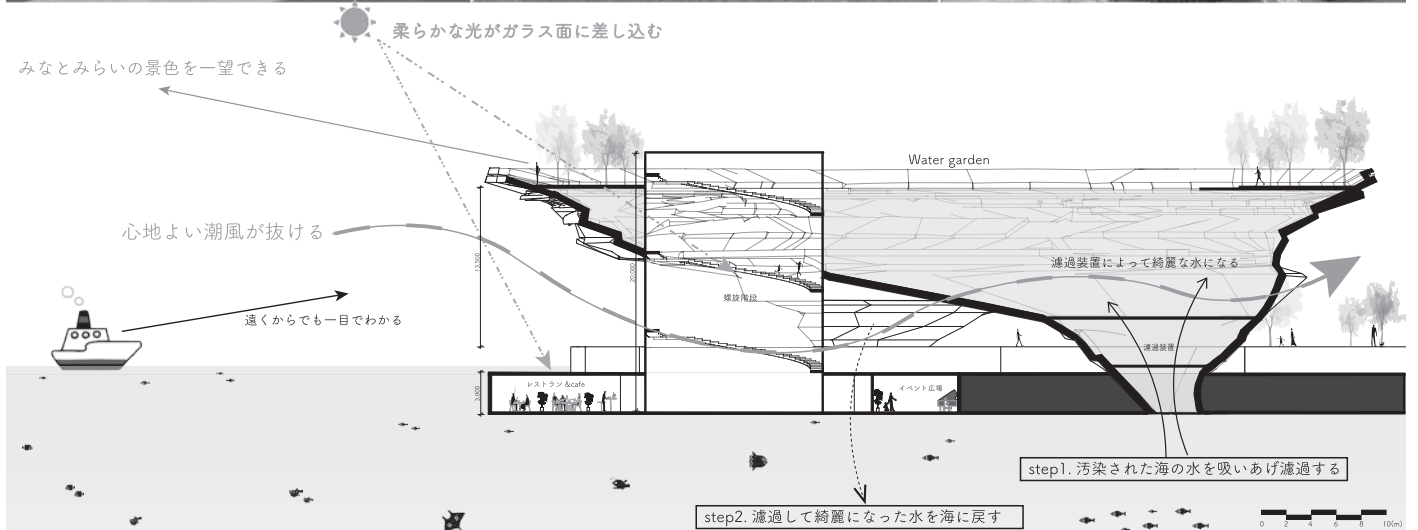
心地よい潮風と、柔らかな日が差し込む快適広場。

BF:海中ギャラリー

水中に泳ぐような感覚で、海の食やみなとみらいの文化を体験するスペース。



地上とのズレで生まれる海のカフェ。日光が反射し幻想的な空間が生まれる。



富永玲央

「浮揚する大地」

■コンセプト

さまざまな人が行きかうみなとみらい。海から来る人、公園から来る人、水族館から来る人、多種多様な方向から訪れてくる人に新たな行き場を与え、充実した体験を与えることができる海の駅を提案する。

計画地は山下公園や第2課題で設計する水族館に隣接しているため、公園からの動線、海からの動線、水族館か

らの動線のようにさまざまな動線が敷地の内部に行き混じっている。

私はこの敷地を動線の交差点であると考えた。

この敷地には、船に乗るために訪れる人、水族館に行くために訪れる人、休憩や買い物をするために訪れる人などさまざまな目的を持った人々が違った方向から訪れてくる。

敷地周辺には公園や水族館、景色の良い展望台などさまざまな観光スポットがあるのにも関わらず、利用者はこれらに目もくれず目的地へと直進する。

敷地内で各方向からの動線を複雑に混ぜることで、動線が交差する箇所が生まれる。この箇所が起点となり、人々に新たな選択肢を与える。

■講評

3年生の設計課題では、連続した敷地に海の駅、水族館、ホテルなどの幾つかの施設を関連付けて計画していく。今回の計画地は横浜港、山下ふ頭の一角。コロナ禍ではあったが、今後増加するだろう観光客を受け入れる魅力的なマスタープランが必要となる。横浜港内外からの海上交通を睨みつつ、計画地から山下公園を介して元町や関内など横浜の中心街へのつながりを前提に全体計画を進めていく。この一連のプロジェクトで最初の課題である「海の駅」は、水上バスの発着所やクルーザー等船舶の寄港を想定し、海上交通や地域交流の拠点施設としての機能が

求められている。

富永君の案ではこの計画地を、街からの人の流れや海上交通の引込みを意識して「交差点」と位置付け、そこに水上バスの発着所、広場、カフェやレストラン、展示スペースなどを立体的に結びつけようとしている。それらは一枚の布のような構造体を纏い、造形的にも強化されていく。それはやがて、さらなる「切込み」により大地のような局面屋根となり、より複雑に上下階に伸びて緩やかな動線にもなっていく。コンセプトの明快さと、それを上手に利用して増幅させた造形力、スタディーから建築デザインへの展開のさせ方、どれを取ってもバランスが良くできた。秀逸である。(川久保智康)



浮揚する大地

様々な人が行きかうみなとみらい。
海から来る人、公園から来る人、水族館から来る人、多種多様な方向から訪れてくる人に新たな行き場を与え、充実した体験を与えることができる海の駅を提案する。



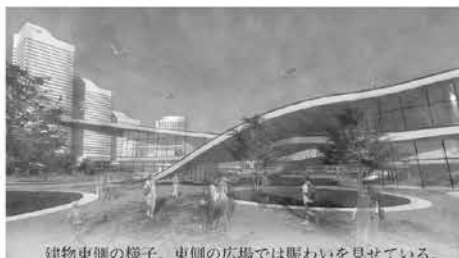
南側立面図



断面図



船乗り場はまるで洞窟のような空間が広がる。



建物東側の様子。東側の広場では賑わいを見せている。



みなとみらいを一望できる展望デッキ

門谷采実

「共存ノチ共生」

■コンセプト

今回新たな水族館を設計するうえで、人と生き物が同じ空間に存在する「共存」から、お互いに補いながら生きていく「共生」へ転換していくことを水族館のような生き物と触れる場で行うべきだと考えました。従来の水族館が生き物を取り囲み鑑賞するという人間が主体的な構成になり、生き物が窮屈な世界に閉じ込められていると感じま

した。そこで人工物でありながら魚の憩いの場として存在する人工漁礁からインスピレーションを受け、魚の隠れ家、そして憩いの場を空間として考えることによって魚にとって住みやすい環境となり、人間が魚の本来の姿を見られるように促しました。人工漁礁が人間の領域にも空間として広がっていくことにより、人間が魚のように漁礁の中を巡ったり、魚と出会えると考えました。水族館の構成としましては、人工漁礁を模した立方体の枠組みを軸に諸室を配置しました。来館者によって水族館を回るルートが変化するようにし、魚が人工漁礁の間を泳ぎ回るといふ本来持つ動きを建物のすれの形成に用いました。

■講評

伝統的な水族館の構成に比べ、共存および共生をテーマにしており、人と生き物とさらに自然とが互いに補完しながら共に生きていくことをコンセプトとしています。建築空間的には内部空間と外部空間の交錯共有も図られています。人工漁礁をインスピレーションにして、魚の隠れ家や憩いの場を空間として考えることで、魚にとって住

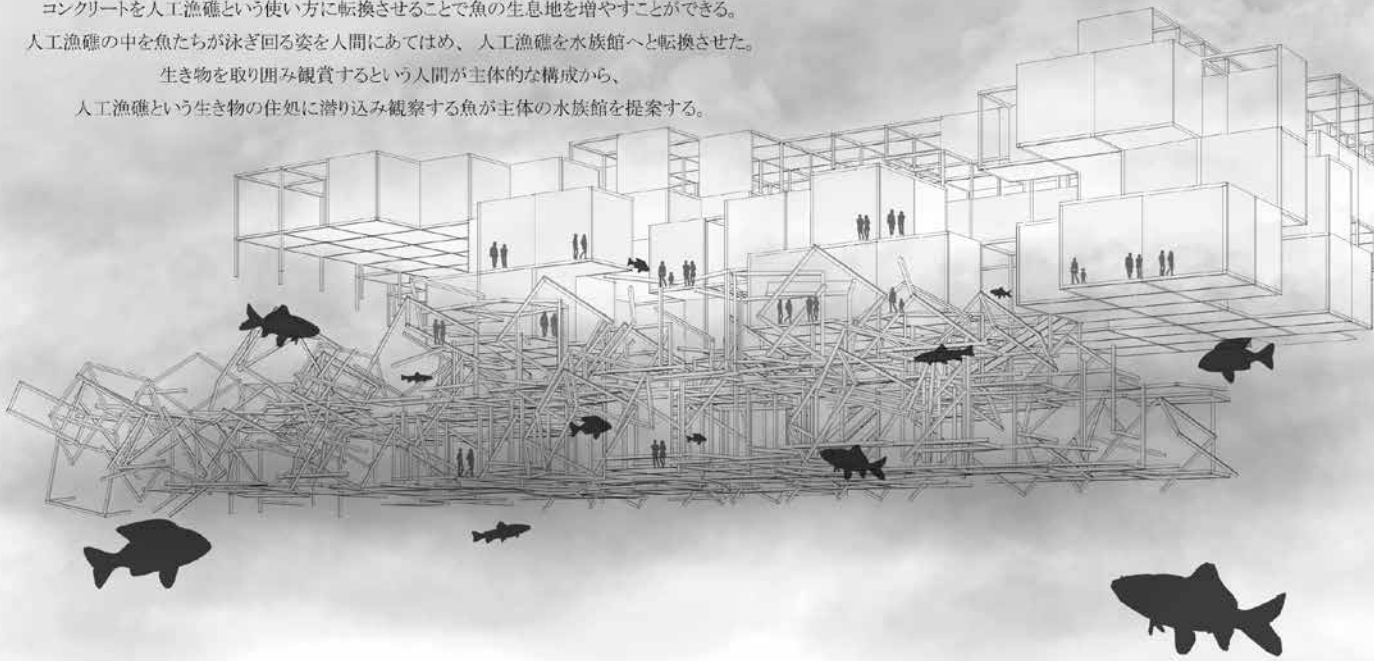
みやすい環境を作るという視点も興味深いです。来館者によって水族館を回るルートが自由に変化するように設計されている点については、より多様な視点で魚を観察することができる可能性があります。建物の形状を人工漁礁の枠組みを模した立方体の構造フレームにすることで建物自体が魚の動きを表現し、水族館全体が魚にとって自然な環境を作り出すことができるかもしれません。共存、共生をテーマにした設計や人工漁礁を利用した発想など、新たな視点やアプローチが見られる設計案であるといえます。また、来館者体験の多様化や魚の動きを建物に反映する試みも注目されます。

(小林直明)

共存ノチ共生

(漁礁) (魚と人)
- 住処での共存が生物の共生へと繋ぐ水族館 -

現在埋立地により魚の生息地が減少しているが、コンクリートを人工漁礁という使い方に転換させることで魚の生息地を増やすことができる。人工漁礁の中を魚たちが泳ぎ回る姿を人間にあてはめ、人工漁礁を水族館へと転換させた。生き物を取り囲み鑑賞するという人間が主体的な構成から、人工漁礁という生き物の住処に潜り込み観察する魚が主体の水族館を提案する。



1. Site ~海に広がるコンクリート~

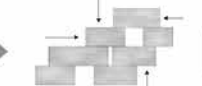


かつて港湾が広がっていた横浜の沿岸線は横浜港開港、そして街の発展により埋め立てられてしまった。計画地は山下埠頭という埋立地の一角であり、西にはみなとみらい、南には中華街そして前方には海が広がっている。

2. Diagram ~すれを形成し、空間へ~



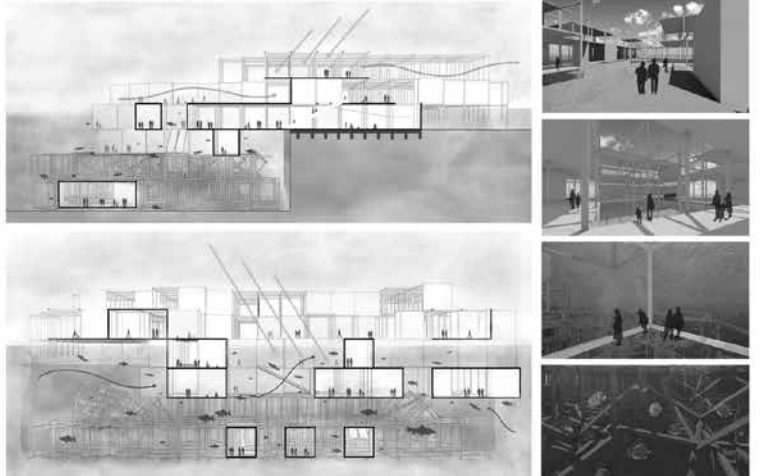
現在の水族館の形として、建物1つに収められており、さらに水槽の中に収められている。



魚が人工漁礁の間を泳ぎ回るといふ本来持つ動きをすれの形成に用いる。そして空間を生む。



人と魚が交わり合う。海の生物の本来の姿を導き出すことで魚と人の共生へと導く。



富永玲央

「海に潜る岩礁」

■コンセプト

水族館は水槽といった箱の中に魚を閉じ込め、それを眺めながら鑑賞する。もっと魚や海と触れ合うことはできないか、水槽の境界をなくすことはできないか、と疑問を持った。しかし、水槽という境界線の存在は大きく、これを完全になくすことはできない。そこで、大きな水槽の中に人の空間を作り、人と水槽の存在を反転させる。水族館

における「眺める」という機能を「泳ぐ」に変えることで、魚と対等の立場になり、より魚と触れ合うことができる。水槽内には人の通ることができるチューブが配置してあり、人々はチューブに潜りながら魚を鑑賞する。チューブ内は天井高が低い箇所や高い箇所があり、海の中の狭い空間や広い空間を表現している。そのため、水槽内も狭い空間や広い空間が生まれる。狭い空間を住处にする魚や、広い空間を好む魚など、魚たちは自分の好きな場所に集まる。このチューブを移動することで、実際の海を見ているかのように鑑賞することができる。

■講評

今回の課題である「水族館」は、展示や研究という観点では博物館や美術館に近い建築プログラムであるが、展示物が生物であるところがそれらとは大きく異なる。餌やりや日常メンテナンスのスペース、餌の調理や水槽内の水質を確保するための諸室も必要となる。この課題では展示方法の新しさを探ることはもちろんのこと、管理側の構成についても理解を深める機会としてほしい。

富永君は人間と魚の見る見られるの関係に着目して、大きな水槽の中に人間と魚と一緒に存在し、その境界を意識させないような展示空間を提案している。その複雑な構成はダイバーが岩

礁の隙間をすり抜けて、その先へと進んでいくような感覚で人間と魚を等価に取扱うことで魚とより近い関係となり、海の中を泳いでいるような臨場感あふれる展示空間を計画することができた。彼の課題指導を何度か担当したが、空間が具体化するプロセスで、ここまで苦戦したことはなかったのではないだろうか？ それだけ水族館の展示空間の難しさや面白さを実感してくれていたら幸いである。そして彼が辿り着いた提案は、海中から起想する特徴的な展示空間であり、その表現力も高く評価できる。管理部門の構成には研鑽を積む必要があるものの、前作を超えて成長していて頼もしさを感じる。

(川久保智康)

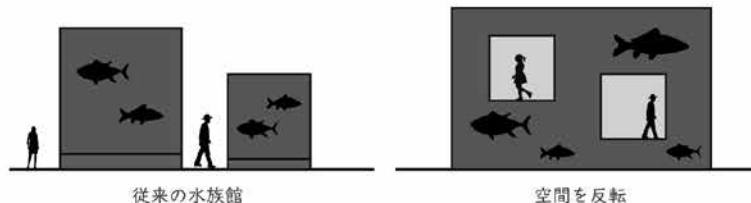


海に潜る岩礁

見るではなく泳ぐ水族館

Concept

従来の水族館は水槽といった箱の中に魚を閉じ込め、それを眺めながら鑑賞する。これだと本来の生き生きとした魚を見ることができない。もっと魚や海と触れ合うことはできないのか。水槽という境界をなくすことはできないのか。と疑問を持った。



水槽内を泳ぐように移動する。



様々な角度から見る大水槽



館内は海に潜ったような空間が広がる。

富永玲央

「Yokohama Drift」

■コンセプト

みなとみらいには遊園地、ミュージアム、横浜中華街など、さまざまな観光施設が存在する。

しかし、みなとみらいには駐車場が少なく、来客者はほとんどが電車やバスなどの交通機関を利用して訪れている。その結果、来客者の範囲が狭まり、地方から観光に訪れることが難しい状況にある。

そこで、車での訪問を容易にするために、車好きが集まれる施設を提案する。

車好きがこのホテルに集まり、SNSなどで拡散することで、ホテルやみなとみらいの知名度が上がり、みなとみらいへ車で行くというハードルを下げることができる。

敷地内にサーキットコースを配置し、新たなリゾート機能を作る。

3棟の建物に巻きつくようにコースを配置することで、各部屋からはサーキットの観戦が可能となる。

日中はフリー走行などで自分の愛車を思う存分走らせ、朝方はサイクリングやランニングができるように解放し、みなとみらいの景色を眺めながら走る

ことができる。

また、カートやドリフトなどの小規模なレースのほか、一般道を含めた市街地レースも行うことができる。

■講評

近年の旅行者の増加は著しい。これはコロナ禍が明けたためであろう。世界各地に旅行者が散らばっている。日本もこの恩恵に預かるべく観光地が競い合っている。旅行で重要なのは観光のための歴史的物語や文物であるが、近年注目されているのが目的を持ったホテルである。例えば、1泊500万円を超える超高級リゾートホテルや古民家を改造した1泊1棟貸しの宿泊施設

などである。本計画案の特徴は、サーキットのパドックそのものをホテルにしているという点である。具体的には、山下ふ頭という平坦な埋立地に立体的なサーキットを設け、そのピット作業等を行うパドックをそのまま宿泊施設にしたということである。普通であればレーシングカーの爆音は居住環境としては最悪となるところであるが、マニアにとってはこれは美味すぎる子守唄となる。海に張り出したコースを部屋の窓から眺めるとドリフトしながらコーナーを攻める様子が見てとれる。まさに車マニアによる車マニアのための宿泊施設である。こうした思い切った提案が、これからの日本には必要であろう。(佐藤信治)



01 横浜みなとみらいの来客範囲

みなとみらいには遊園地、ミュージアム、横浜中華街など、様々な観光施設が存在する。

しかし、みなとみらいには駐車場が少なく、来客者はほとんどが電車やバスなどの交通機関を利用して訪れている。その結果、来客者の範囲が狭まり、地方から観光に訪れることが難しい状況にある。

02 新たな来客者

車での訪問を容易にするために、車好きが集まれる施設を提案する。車好きがこのホテルに集まり、SNSなどで拡散することでホテルやみなとみらいの知名度が上がることで、みなとみらいへ車で行くというハードルを下げることができる。



朝方



昼間



みなとみらいの景色をバックに車が疾走するメインストリート。



観客バルコニーからは横浜の景色と共にレースを観戦。



部屋のすぐ隣を走る車

八坂柗吾

「倉庫街の芽」

■コンセプト

本計画地は周辺に港湾機能を伴う倉庫街に位置している。このような倉庫街は一般の人は近寄りたがたい場所となっている。そのため、本計画ではこの倉庫街にあるモジュールを利用し倉庫街の活性化を図る。倉庫街には倉庫の特徴的な切妻屋根のモジュールや、ダンボール、コンテナといった箱型のモジュールも存在する。そしてこれらは

その土地に整うことなく雑多に配置されている。これによって作られた空間は上下左右の空間が干渉し合い、互いの関係をつなげる。本計画では植物、水環境、宿泊の機能が互いに干渉する。この場所に置換すると、植物、倉庫、海それぞれの環境が互いに侵食し合い、それらの融合した建築が生まれる。故に、この土地に種を撒くと生えた芽は建物の内部を侵食するようにして生える。そしてこの植物は海の水環境を利用しながら成長し、採れた植物を倉庫で貯蔵する。これらの過程をアクアポニックスを用いた水環境と植物の連携を行うことにより、魚のいる水環境と、植物栽培の循環させ、このホテル内部で機能が完結し、宿泊客に新たな体験

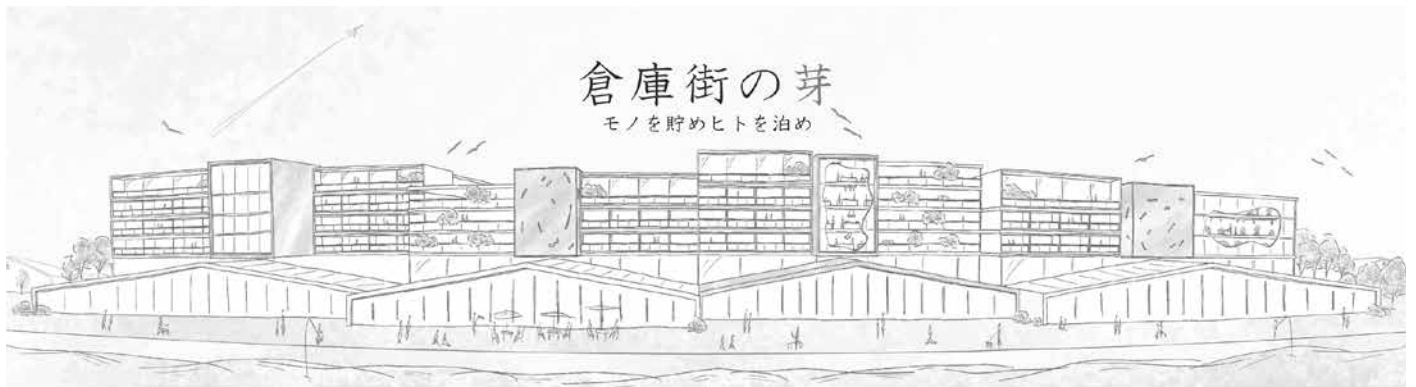
をもたらす。

■講評

山下ぶ頭郎の倉庫街であったという歴史をモチーフにしたホテルの計画案である。そのため、コンテナサイズの箱を客室の単位とし、それらをホテルの大枠に詰め込むような計画案となっている。さらに、ホテル内には、食物連鎖型の植物工場を挿入し、見た目とと

もにこれから採れたての野菜をレストランで提供することも可能となっている。つまり、このホテルはたんなる宿泊という枠を超えて、人間が生きていくための関係性を学習することのできる施設となっていることは注目されるべきだろう。

しかしながら、客室の配置は至極普通であり、あまり魅力を感じない。内部でどのように宿泊客が歩くのかといった視点に欠けているように思われる。それは、上記に記したように、倉庫のコンテナをモチーフにしたがために、外観の形状に囚われすぎたということだろう。そのことは、立面で見ると倉庫の緩すぎる破風にも表れている。
(佐藤信治)



倉庫街の芽
モノを貯めヒトを泊め

01 倉庫街の芽

concept

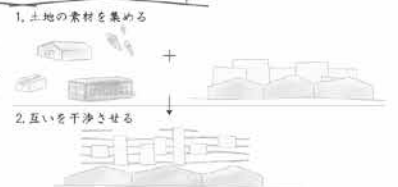
植物、倉庫、海それぞれが互いに影響し合い侵食し、それぞれの環境の狭間であるこの地に、それらの融合した建築が生まれる。この土地に生えた芽は建物の内部を侵食するようにして生える。そしてこの植物は水環境を利用しながら成長し、採れた植物を貯蔵する。これらの過程をこのホテル内で感じる新たなリゾート型ホテルを計画する。



02 箱と倉庫のモジュール

diagram

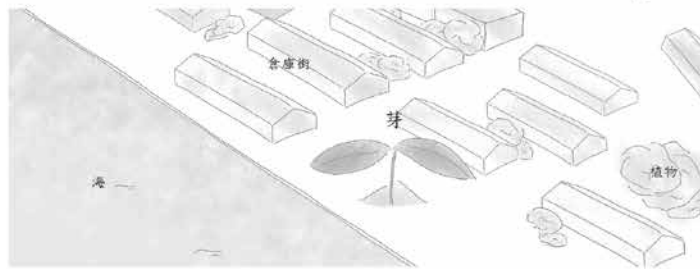
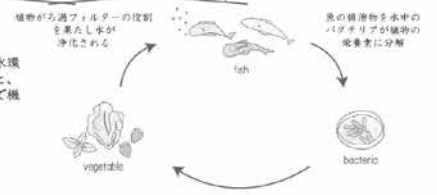
倉庫街には倉庫の特徴的な切妻屋根のモジュールや、ダンボール、コンテナといった箱型のモジュールも存在する。そしてこれらはその土地に整うことなく雑多に配置されている。これによって作られた空間は上下左右の空間が干渉し合い、互いの関係を繋げる。本計画では植物、水環境、宿泊の機能が互いに干渉し、運動した新たな空間体験を創り出す。



02 アクアポニックスを利用した栽培

plant

本計画では、アクアポニックスを用いた水環境と植物の連携を行う。魚のいる水環境と、植物栽培の循環ができ、このホテル内部で機能が完結するようになっている。



客室 バース



客室管吹抜け バース



外部栽培所 バース



模型写真

ランドスケープと
プレゼンテーション

富永玲央・浅井駿来・柏木玲菜
「成長するみなとみらい」

■コンセプト

計画地である横浜みなとみらいは赤レンガ倉庫や横浜中華街などの観光地が点在し、回遊性の高い敷地特性を持っており、日々多くの人々が訪れている。私たちは、2015年に策定された「横浜市都心臨海部再生マスタープラン」を元に横浜を人々に選ばれる都市へと成長させるために敷地外に分散された創造、感動、活躍、先進、交流、快適の

6つの要素を自転車を使って結び、新たなネットワーク・施設を提案する。

敷地外に分散された6つの要素を敷地内に集約し、敷地内には多方面からのアクセスが可能な海の駅、先進技術と宿泊機能を兼ね備えたホテル、感動的な空間を味わうことのできる水族館の3つの施設によって構成する。3つの施設の周りには、交流を促すバスケットコート、自然豊かな噴水広場、海風が心地よい快適空間を過ごせる丘、さまざまな人が活躍できるイベントエリア、異文化交流が可能なマルシェ等のさまざまなエリアを配置した。さらに敷地内をサイクリングロードで結ぶことで横浜発祥のシェアサイクルをより身近なものにさせる。6つの要素を

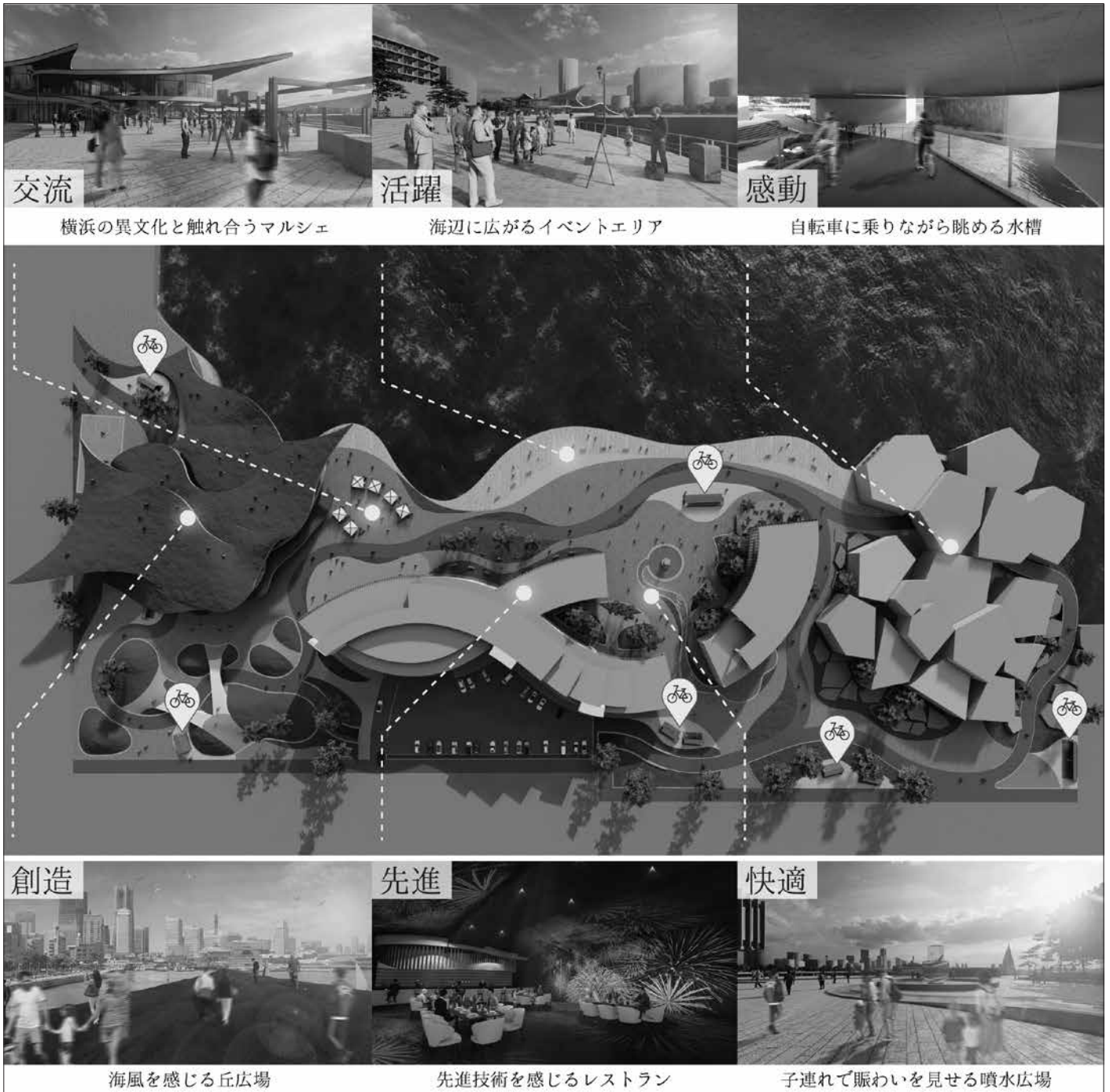
敷地内で体感し、敷地外でも感じるきっかけになるランドスケープを私たちの班は提案する。

■講評

本課題案は、横浜港の山下ふ頭の新開発計画である。この班の特徴は、かつての貨物ふ頭であった平坦地に丘のような起伏を計画することであった。さらに、この敷地内の移動には電動自転車などのパーソナルモビリティを利用することを前提に進められた。

具体的には、海の駅、水族館、リゾートホテルの組み合わせを起伏のある

丘の中に見え隠れするように連続して配置している。そのため、この地を訪れた観光客は電動自転車に乗り、先へ先へと導かれるように進んでいくことになる。敷地の各所には、電動自転車の充電スポットとなる中継基地兼休憩所が設けられ、そこから各施設にアプローチすることができる。海辺は、施設の形状に合わせて緩やかに切り取られており、その都度、さまざまな表情を見ることができる。惜しむらくは、各施設のつながりはたんなる道路となっているだけで、通過交通にしか過ぎない。また、ラージスケールとスモールスケールの中間的なスケールが欠けており、大雑把なイメージを受けるのは残念な点である。 (佐藤信治)



交流

横浜の異文化と触れ合うマルシェ

活躍

海辺に広がるイベントエリア

感動

自転車に乗りながら眺める水槽

創造

海風を感じる丘広場

先進

先進技術を感じるレストラン

快適

子連れで賑わいを見せる噴水広場

八阪柗吾・金井和奏
 ・大平梨音・玉木芹奈

「広がる波紋 交わる波紋」

■コンセプト

海外からの入り口を持つ横浜は、イベントや、スポーツ、フード、自然といった多様な文化が存在する都市であり非常に密接に他の文化を感じることのできる、異文化都市である。私たちはこの文化の交わり方を波紋が交わり合うように置き換え考える。この地における波紋の在り方として、概念的

な「波紋」は文化同士の交わり合いによる異文化への参入。形としての「波紋」は円形状の空間が重なり合う形が、計画地内だけでなく横浜全体の連続的な利用を誘発させる。本計画地では、海の駅、水族館、ホテルの施設が作り出す波紋、それらが交わり合うことによって生まれるさまざまな波紋、この連鎖によって生まれた波紋が広がっていき、次第に交わり合う。この交わり合いによって生まれた異文化の交流は互いの活動をより密接につなげ活性化させる。波紋が作り出す文化の伝達、また波紋同士がぶつかり合い文化の隔たりを緩やかにすることによって生まれる横浜の回遊性の向上。そして最終的な相対効果として横浜にいる滞在時

間を増やすことを目標としたランドスケープの計画である。

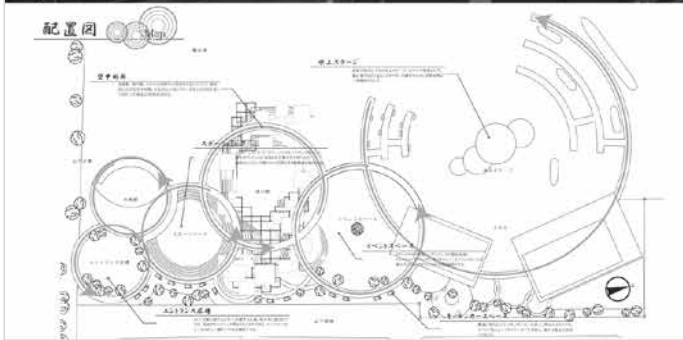
■講評

この班の特徴は、なんとといっても波紋である。山下ふ頭の敷地をほぼすべて掘削し、水浸しにした上で、そこに波紋状の通路を設け、敷地内を縦横に移動できるようにしている。また、配置計画は、山下公園側から水族館、海の駅、ホテルとなっており、海の駅が水族館とホテルをつなぐ役目を担うように配置されている。また、そのほかにもスポーツパークやイベントスペース、水上ステージなど多様な機能の施

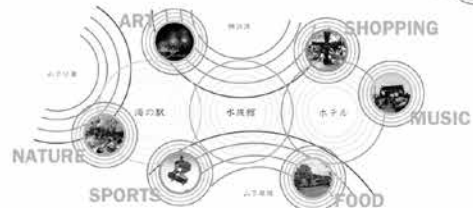
設を配置し施設全体がつながっている。

水面に小石を落とした時に広がる波紋が施設全体を通じて横浜港につながる様子が見てとれ、楽しい気分になるような計画案となっている。また、通路にはキッチンカーが横付けできるようなシステムもあり、イベント時には楽しいだろう。

しかしながら、これは他の班にもいえることだが、波紋状の通路に日除や休憩スペースなどがまったくなく、夏の暑い時期は直射日光が厳しそうだし、冬などは寒くて歩きたくなさそうにも思える。建築を計画や設計する場合は「いつか、どこか、だれか」を思い出し、皆さんが楽しめる施設にしてほしいと思う。 (佐藤信治)



01 文化の波紋の交わり



多様な文化が存在する横浜。この地に文化の水滴を垂らし、波紋を作り出す。そして生まれた波紋は広がっていき、次第に交わり合う。この交わり合いによって生まれる異文化の交流は互いの活動をより密接につなげ活性化させる。次第に、この場所でもまれた波紋が横浜全体と交わり合い文化同士の隔たりを緩やかにし回遊性を向上させる。

02 波紋の広がりと文化の伝達

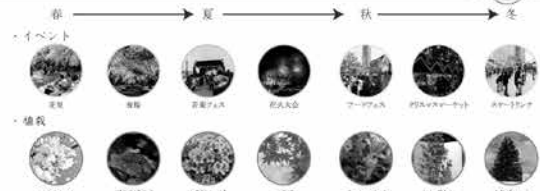


キッチンカーの利用

- 01 日本文化の伝達
- 02 生まれた波紋の活性化
- 03 コロナ禍における外食需要の変化

日本の文化を伝える。この場所で町おこしイベントの活性化、コロナ禍による外食需要の変化、といったこれらの役割を担うものとして、キッチンカーを利用する。キッチンカーの稼働として、イベントやマーケットによって定期的に発注される事がある。これらの地域に必要不可欠なものである。また横浜では、地元の市場や神奈川県内で稼働された資格を利用した地産地消のキッチンカーや、飲食店のコロナ支援として、車でキッチンカーの配置なども行ったりと、様々な意味でサポートがある。

03 文化の波紋の交わり



敷地内には、イベントスペースやスポーツ広場、水上ステージといった様々な催しを行える場所を設けており、四季に合わせたイベントを楽しむことができる。またそれに併い補給も四季の美観感じ、且節や楽しむことのできるものとしている。



櫻井彩音・鈴木 暖
・鈴木雄士・山口直也

「船で巡る新たな横浜」

■コンセプト

計画地である横浜港は、日本で初めて開港した場所としてかつてはさまざまな船が行き交い港湾物流の中心地として栄えていた。時代が進むにつれて荷下ろしの場所が横浜港の外側へと移動していき内側では船が行き交う様子が見られなくなってしまった。横浜港内側の海岸沿いには観光名所となる施設が建設されているが、海を「風景」としてとらえており親水性は高くない。そこで山下ふ頭を開発していくうえで、敷地内に水路0を引き込み親水性を高くすることで、水上からのアクセスの向上を図り開港した当時のように船が行き交う姿を取り戻すことを目的としている。

敷地内には、水上アクセスの入り口となる「海の駅」、トンネル水槽を船で鑑賞できる「水族館」、船で各コテージへ送り届ける「ホテル」の3つの主要エリアがある。それらを曲線でつなぐ水路と直線でつなぐ遊歩道を用いて巡っていく。主要エリアのほかにも、カフェや屋外ステージ、森のシアターなど乗降ポイントが設けられており、

好みの移動手段を選択し各ポイントで楽しむことができる。

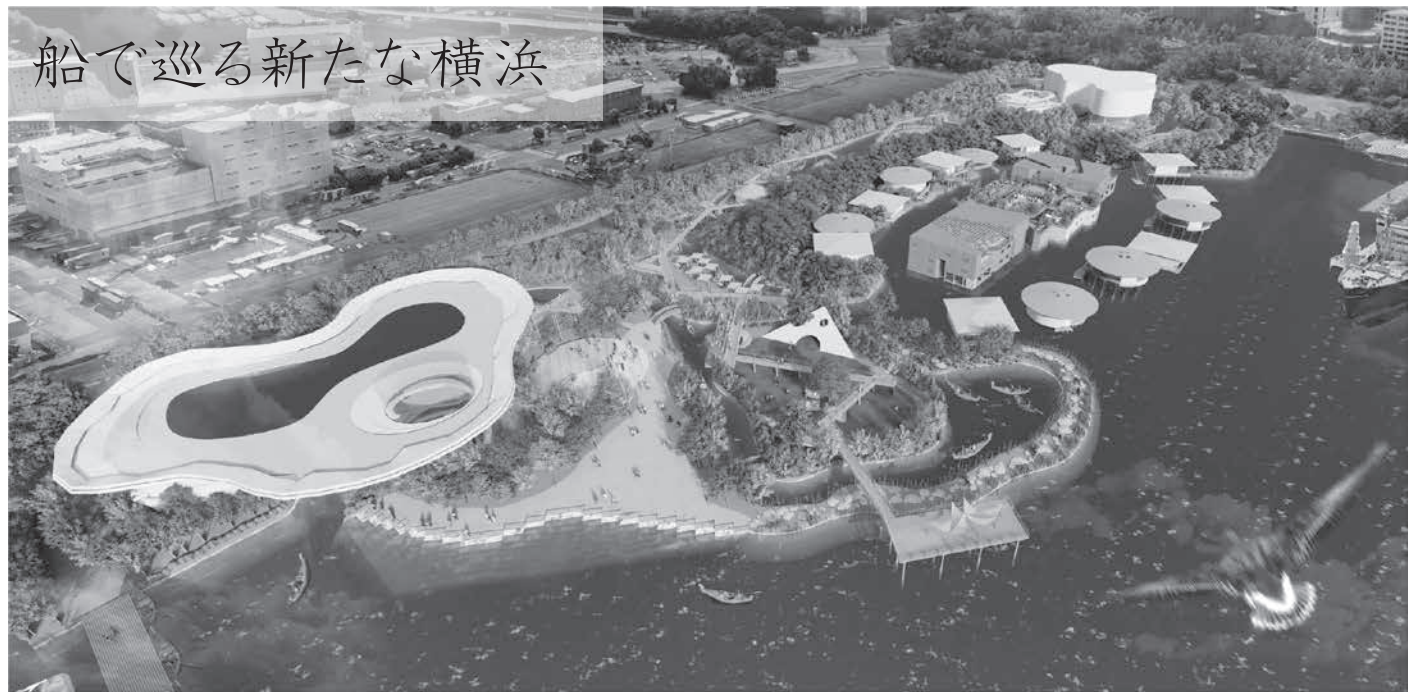
このように、横浜・山下ふ頭地区を船の利用によって再構築することでかつての横浜港の姿を取り戻すことが本提案である。

■講評

この計画案の特徴は、水際線を大胆に削って、海と陸を一体的に開発しようとしている点にある。具体的に見てみよう。施設は、山下公園側から、水族館、ホテル、海の駅と並んでいる。これには、海側に船での玄関口となる海の駅を配置しようとする意図が見てとれる。しかしながら、本計画の中心

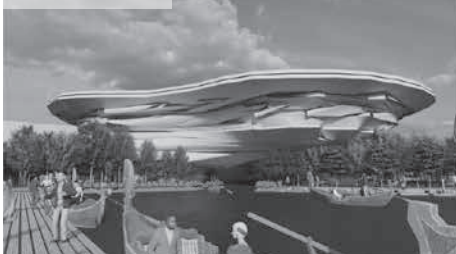
となるのは、ほぼ水没しているホテルにある。

このホテルは、主に船でアプローチすることとなっている高級リゾートホテルである。このため、客室は全室スイートルーム棟になっており、その周りに水路が配置されている。この水路は、海の潮の満ち引きによって、隠れたり現れたりするという工夫がなされている。陸側は深い森に囲まれているため、極めてプライベート性の高いホテルが形成されている。現在、日本においては特徴的なホテルはあまり存在していないが、このような大胆な計画はインバウンドによって外国人観光客を誘引するためには必要なことと考えられる。
(佐藤信治)



船で巡る新たな横浜

入口となる海の駅



目下に海が広がるホテル



トンネル水槽を船で行く水族館



水路と遊歩道が交り合い交流が生まれる



水路と遊歩道から観る屋外ステージ



夜間のイベントが行われる森のシアター



船で回遊する水路ルート、3mの高さを体感する遊歩道ルート、水と木々に囲まれた自然あふれる歩道ルートの三つをその日の気分や交通手段に合わせて選択し、カフェや屋外ステージ、森のスクリーンなどの各ポイントで楽しむことができる。

4年生（総合演習）

【担当】 小林 直明
佐藤 信治

山本 和清
寺口 敬秀
菅原 遼
桜井 慎一
吉田 郁夫

総合演習

デザイン系

「『他者』とともに生きる建築
（日本建築学会設計競技）」
（担当：小林直明、佐藤信治）

【応募要領】

「他者」に想いを巡らせ、「他者」と関わり合うことは、生きていく上でなくてはならないことである。もちろん私たちが属する地域や社会は、日々「他者」とともにあるが、「他者」を介して自らを知り、また自らが変わっていくことこそ、この関わり合いが齎す最大の価値である。では、このような「他者」とともに生きることは、果たして現代において実現できているだろうか。建築や都市は、それを後押しできているだろうか。

ところで「他者」は、もともと「自分以外の、ほかの者」（広辞苑）を指していたが、近年では自分以外の家族や自然、動植物など、自らがコントロールできない存在にも拡張して使われている。それは恐らく人間が、こうした存在をコントロール可能な対象と捉えて振る舞うか、もしくは排除してきた社会への問い直しの表れであろう。住宅は、「自己」のためにつくられ、公共施設は、「個」が「公」からのサービスを受ける場に成り下り、自然は、建築を彩る装飾に矮小化している状況に対し、家びらきやシェア、『動いている庭』（ジル・クレマン）など、様々な試みもすでに実践されているが、ここではさらにその先を考えてみたいと思う。

コントロールできない「他者」を受け入れ、そして自らも変わっていくような動的な状態を受け止める建築や都市は、いかなるものだろうか。自分にとっての「他者」を具体的に想定し、ともに生きるための建築、都市を考えてみてください。

審査委員長 千葉 学

【応募規定】

A. 課題
「他者」とともに生きる建築
B. 条件
実在の場所（計画対象）を設定すること。

C. 応募資格
本会個人会員（準会員を含む）、または会員のみで構成するグループとする。なお、同一代表名で複数の応募をすることはできない。

D. 提出物
a. 計画案の PDF ファイル
以下の①～④を A2 サイズ（420×594mm）2 枚に収めた後、A3 サイズ 2 枚に縮小した PDF ファイル。（解像度は 350dpi を保持し、容量は合計 20MB 以内とする。PDF ファイルは 1 枚目が 1 ページ目、2 枚目が 2 ページ目となるように作成する。A2 サイズ 1 枚にはまとめないこと。）模型写真等を自由に組み合わせ、わかりやすく表現すること。

①具体的に想定した「他者」を示すこと
②設計主旨（文字サイズは 10 ポイント以上とし、600 字以内の文章にまとめる）

③計画条件・計画対象の現状（図や写真等を用いてよい）
④配置図、平面図、断面図、立面図、透視図（縮尺明記のこと）

b. 作品名および設計主旨の Word ファイル

「a. 計画案の PDF ファイル」に記載した作品名と設計主旨の要約（200 字以内とし、図表や写真等は除く）を A4 サイズ 1 枚に収めた Word ファイル。なお、容量は 20MB 以内とする。

c. 顔写真の JPG ファイル
横 4 cm × 縦 3 cm 以内で、共同制作者を含む全員の写真が写っているもの 1 枚に限る。なお、容量は 20MB 以内とする。

計画系

「南船橋臨海部における隣接施設との回遊性および賑わい空間・施設の提案」
（担当：山本和清、菅原 遼、寺口敬秀、桜井慎一、吉田郁夫）

【課題趣旨】

船橋市は千葉県の北西部に位置し、東京都心と県庁所在地である千葉市中心部のほぼ中央で共に半径 20km 圏域に位置している。市の人口は約 64 万人、面積は 85.64km² で、東京湾の最奥部に位置し、海上交通・陸上交通の要所として栄えた歴史がある。船橋市の沿岸部はかつて遠浅の海岸であったが、現在はほとんど埋め立てられ、唯一、三番瀬のみが当時の名残を見せている。

船橋は江戸時代には将軍家の台所に新鮮な魚介を献上する御菜浦であり、現在でも東京湾奥部で本格的に操業されている唯一の漁港として、東京湾近海魚の水揚げや海苔の養殖が盛んに行われている。それらは、江戸前と呼ばれる魚介類で豊洲市場を通じて東京の寿司屋等で消費される高級品として取り引きされている。また、船橋港親水公園に隣接する浜町地区には、巨大商業施設の「ららぽーと TOKYO-BAY」が展開し、隣接県からの利用者も多く一大経済拠点となっている。さらに、JR 南船橋駅周辺は、2022 年 1 月に駅前マンションが竣工したほか、今後も LaLa arena TOKYO-BAY の建設や船橋競馬場のリニューアル工事を控えており、さらなる利用者の増加が見込まれる。一方で、潮干狩りで賑わう「ふなばし三番瀬海浜公園」への公共アクセスや、市内南北方向の移動手段が少なく、周辺道路の交通渋滞を引き起こす要因にもなっている。

そこで、本授業の課題として、今後の定住人口や施設利用者の増加が期待される南船橋駅周辺のうち、浜町 2 丁目地区の臨海部を対象に（右図参照）、船橋市の地域的特性を活かし、訪れた

人々に対する臨海部との回遊性を目指した賑わい空間の創出および施設提案を行うものである。なお、提案施設として、海老川または船橋港の水面を利用した着底式もしくは浮体式の海洋建築物を導入することを必須とする。さらに、船橋臨海部の拠点である「船橋漁港」「船橋港親水公園」「ふなばし三番瀬海浜公園」を一体的に結ぶ水上交通および施設整備も提案に含むものとする。

【浜町 2 丁目市有地概要（計画地内）】
・面積 4,000m²、商業地域、建ぺい率 80%、容積率 400%

・隣接する県有地、船橋港親水公園、みなとデッキ広場、北側道路向かいの JR 高架下、および海老川水門を活用することも可とするので、一体的な提案を積極的に検討すること。

【計画上の主なポイント】

- ①周辺商業施設の来訪者を導き入れる計画として検討する
- ②東関東自動車道によって分断されている計画地を一体化させ回遊性のある計画を検討する
- ③それぞれの拠点施設が持つ資質・資源を明確化し来訪者のニーズを考慮した計画を検討する
- ④地域特性や来訪者属性を考慮して計画対象地にどのような施設が必要かを検討する
- ⑤船橋臨海部の三大拠点に対して点から線にする整備計画を検討する
- ⑥各自の提案に基づいた適切な施設の規模を類次の事例を調べて設定する



安藤大翔・尾沢圭太・法橋礼歩
・藤巻拓也・森田優莉

■コンセプト

私たちは地球を他者と定め、設計を行った。

人は地球とともに生きてきた。しかし、急速な近代化による、人間本意のエネルギー消費が地球を傷つけている。これからも地球とともに生きるため、エネルギーについて再考することが必要なのではないだろうか。

本提案では少子化に伴う需要の減少

により、賑わいが減りつつある高島平団地をケーススタディの舞台とし、団地に再生可能エネルギーの発電能力とそれに付随する食糧生産能力を挿入することをを行った。

発電方法は雨水を用いた水力発電とし、発電に用いた水は団地内に設置された畑で再び活用する。これらの工夫により、今まで無意識のうちに享受していた地球からの恩恵を直接感じることができるようになり、地球環境を守ることに対する意識の向上と、団地コミュニティ再生によるさらなる地域発展、需要のなくなった団地の処理が同時に実現する。

また、将来的にはこれらの団地再構築システムが全国の廃団地へと広がっ

ていき、日本全体の地域コミュニティの再生とエネルギー生産システムの可視化が行われていく。

る。今日の太陽光発電も然り、太陽による熱で生じた温度差と地軸の傾きによってもたらされた風力発電も然りである。

本計画案は、その使い方について言及している。これからも地球とともに生きるため、エネルギーの使い方について再考することが必要なのではないだろうか、と。そのために、使用するエネルギーは、極力自前で準備できるもの、つまり重力などである。具体的には、水の位置エネルギーで電力を賄い、暑さは自前で育てる植物とミストで和らげる。それらを使うのは使われなくなった団地である。よくはまもっているが、どこかしら既視感が漂うのは時代のせいだろうか。(佐藤信治)

■講評

この班の提案は、「地球」を他者と定めている。しかしながら、本当のテーマは、エネルギーにある。元々、われわれが生きている中で、必要なエネルギーはすべて太陽からもたらされたものである。石炭は二畳期に繁茂した植物の化石であり、石油はかつての動物性プランクトンの化石からできてい

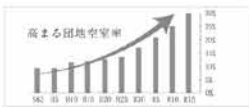
01 他者=エネルギー -地球と共に生きる家-

-時代背景-

私たちは地球と共に生きてきた。しかし、急速な近代化による、人間本意のエネルギー消費が地球を傷つけている。これからも地球と共に生きるため、エネルギーについて再考することが必要なのではないだろうか。



人口減少により、人口増大期に建設された団地の需要が低迷し、日本各地で取り壊しが相次いでいる。団地に新しいエネルギー供給システムを導入することで、過去から未来への住まひの転換を促す。



02 東洋一のマンモス団地 -高島平団地-

-団地背景-

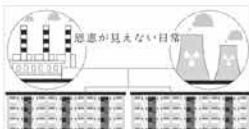
東京都板橋区に位置する高島平団地。かつては都心に近い団地として人気を博したが、少子化に伴う需要の減少により賑わいが減りつつある。



03 団地×発電 -地球からの恩恵を感じて生きる-

-現状-

かつては、生産する場所が生産圏内にあり、地球からの恩恵を身近に感じられた。しかし、都市化が進み、生産者と消費地の距離が生じている。供給元がどこなのか、どうやって作られたのかわからない。特にエネルギーなどのインフラは顕著である。



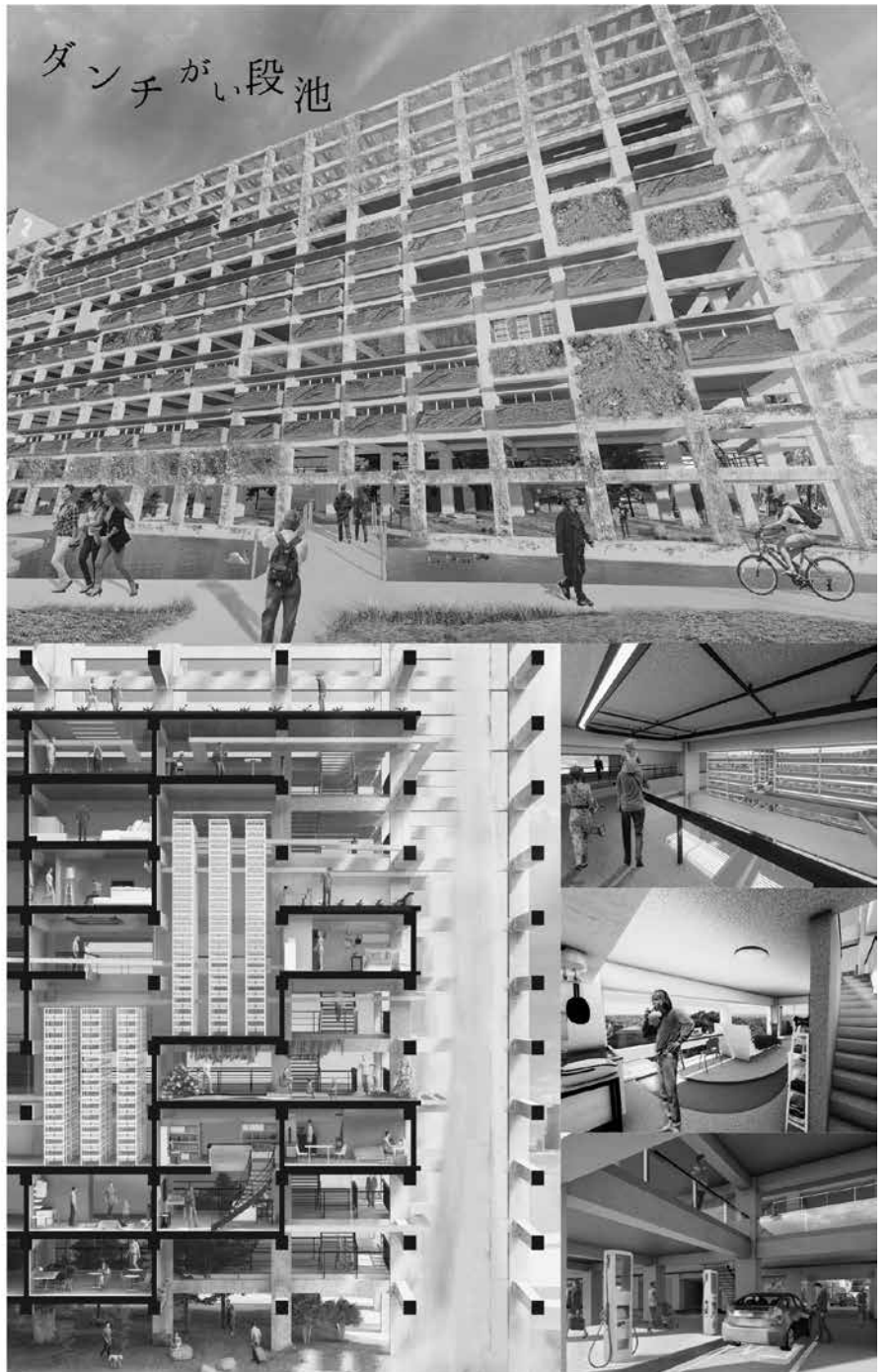
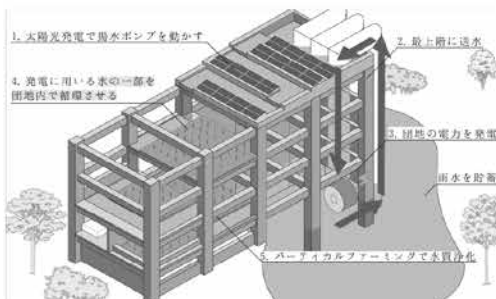
団地に発電システムを導入することで電気の生産地を街中に作る。また、この発電は再生可能エネルギーを用いる。地球からの恩恵を可視化し、発電に用いる水の一部を団地内の「畑」で活用することで電気に留まらず食糧の生産地としても機能させる。



04 団地内で水を循環させ、発電する -だんだんシステム-

-概要-

発電システムは水力発電を取り入れる。雨水を貯蓄、ポンプで最上階に送水することで発電を行う。ポンプの電機は団地の屋上に設置する太陽光発電で担い、夜間は、昼間の太陽光発電で余剰になる分を蓄電池に蓄えて活用する。循環する水の一部は「だんだん畑」に送られ、畑田の菜園で水が灌漑を繰り返し、自由落下していく。



三谷翼空・梅澤秀太・大木貴裕
■コンセプト

本提案は、廃線という社会から見放された「使われなくなった他者」を用い、まちを分断するように敷かれた負の遺産をまちと人がつながる遺産として呼び起こす。廃線という制御できない事実を受け入れたうえで、建築を介し、かつて場所と場所のみをつないだ線路が人と人、人と文化をつなぐ結節点として生まれ変わる。敷地は北海道小樽市小樽駅周辺廃線決定地。2030年

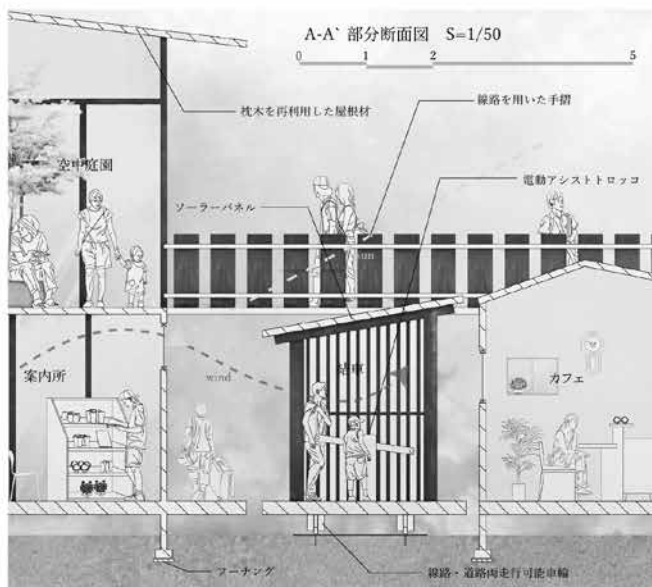
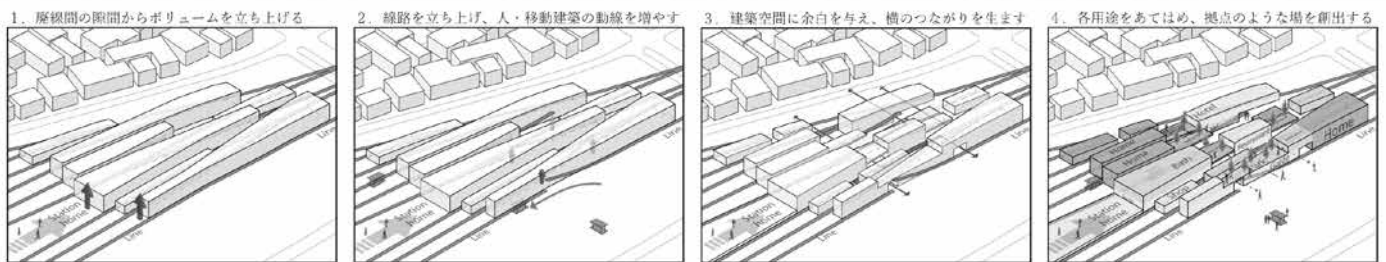
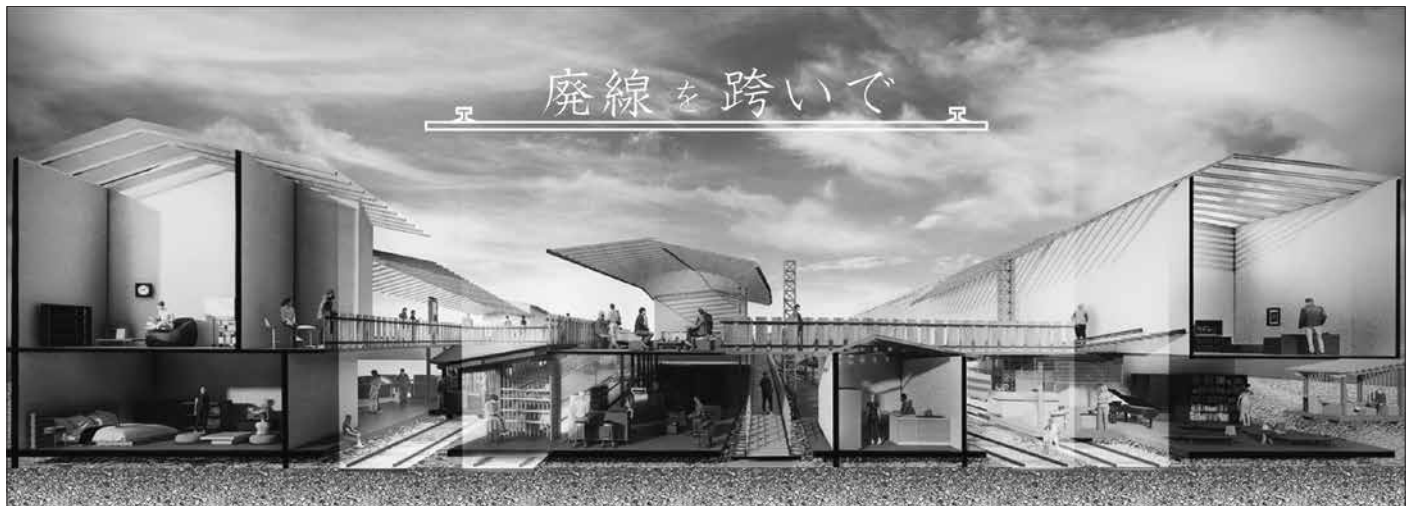
の北海道新幹線札幌延伸に伴い、小樽-長万部間の函館線の廃止が決定した。国内有数の観光都市であり、年700万人の観光客が訪れる小樽市。しかしそれと同時に、観光スポットがパターン化し、多くの観光資源が廃止に進んでおり、小樽の観光文化が消えようとしている。この建築は駅に延長する形で建築空間が立ち上がり、観光客と市民の生活動線が廃線上で絡み合う。交差する動線上に観光的移動建築「結車」がゲリラ的に現れ、思いもしい人との出会い、文化との出会いを誘発する。ここを拠点に観光客・市民・文化をつなぐ場が廃線上に立ち並び、かつて場所と場所をつないだインフラが人と人、人と文化をつなぐインフラと

して蘇る。土地の個性を失いつつある地方において新たな可能性として廃線がまちを紡ぎだす。

対してのアンチテーゼともいえる。過去の既存ストックと、小樽の歴史性、観光地としての地域特性を結び付ける役割も担っている。また、建築の動かない不動産という概念を鉄道敷きに沿って動き、さらに鉄道敷きを脱しても移動できる機能を備えたことで、建築だけでは成り得ない空間の流動性まで展開している。これは、現時点での空間、人、物等の融合を促すだけでなく、時間の概念もつなぎ合わせることでできている提案である。提案内でも言及されている「人と文化をつなぐ結節点として生まれ変わる」は正にその通りであり、建築が社会に与える影響力を改めて感じることができる提案作品ともいえる。(小林直明)

■講評

「使われなくなった他者」という課題のなか、廃線を負の遺産として捉えるのではなく、地域特性を生かし、時代に寄り添う利用につなげた提案であることが高く評価できる。2030年の北海道新幹線札幌延伸に伴い、小樽-長万部間の函館線の廃止が決定したことに



総合演習 デザイン系
Last Resort
 水害が常習化した未来の棲家

金 指遥・柴崎海奈
 ・鈴木晶美子・山田莉央

■コンセプト

人生100年時代といわれる社会。私たちが考える「未来」は異常気象や現在以上のさまざまな災害が起こると想定する。そのため、未来を「他者」と捉え、共に生きる建築を考え未来の建築を再編していく。「他者」と共に過ごすことは、コントロールできないモノの変化をありのまま受け入れること。私たちは、コントロールできない「他

者」を「未来」とおき、これからの世界を考える。

現在の問題が加速した未来。それは、高齢者の増加や地球温暖化などの社会問題が重度になった未来が考えられる。そこで、私たちは地球温暖化による洪水や浸水などの災害が常習化した世界を「未来」と設定した。

現在の建築では災害が常習化した未来には太刀打ちできないが、今の段階から予測し対応すれば未来でも生活できる建築を作ることができると思う。

災害により「ディストピア」と化した世界を「ユートピア」と思える世界に変えられるような建築を提案する。

深い悲しみと大きな傷を残す災害が私たちの生活になじみ、日常になる。

それが「災害が常習化した未来と共に生きる」ということではないだろうが。

■講評

本計画案は、2022年度支部共通事業日本建築学会設計競技のテーマ「「他者」と共に生きる建築」において提出されたコンペ案である。

本計画において、「他者」として捉えたのは、「未来」である。未来はまだ来ていない何かである。何が起こるのかわからない、現状ではコントロールも予測もすることができない。つま

り、今のわれわれにとっては、赤の他人と一緒にであり、つまり、これが他者という定義である。

その定義に則って考えられたのが、ディストピアで生きる未来のわれわれである。この世界は、現状のまま政策が突き進んでしまったために、環境破壊によって水面が現在より大幅に上昇してしまった未来を想定している。そこで生き延びるための、シェルターとしての住宅を提案している。本来、住宅はカッパドキアの岩窟状に見られるようにシェルターであった。出会いたくない壊れてしまった未来としての「他者」でも、こうして付き合えば共に生きることができる。そうならないことを祈るばかりである。(佐藤信治)



01 「未来」を「他者」と捉える

「他者」の定義
 「他者」と共に生きることは、コントロールできないモノの変化を受け入れること。私たちが考える「未来」は異常気象や現在以上のさまざまな災害が起こると想定する。そのため、未来を「他者」と捉え、共に生きる建築を考え未来の建築を再編していく。

時間と共に生きる
 時間と共に生きることは、コントロールできないモノの変化を受け入れること。私たちが考える「未来」は異常気象や現在以上のさまざまな災害が起こると想定する。そのため、未来を「他者」と捉え、共に生きる建築を考え未来の建築を再編していく。

02 現在の問題が加速した未来を考える

現在の問題点
 日本65歳以上の人口は2020年時点で総人口の28.8%を占める。今後も65歳以上の人口は増加傾向が懸念されている。今後、生活圏の減少や生物多様性、資源気候の悪化、伝染病の増加などが考えられている。

水害が常習化した世界
 地球温暖化による洪水や、浸水が頻発。これらの災害が常習化した世界を「未来」として捉える。そのため、それらの災害に耐え、暮らしやすい未来の建築を提案する。

03 ユートピアからディストピアへ

現在はユートピア
 今現在、都市計画と自然環境を調和させる水害を発生させるものはない。適切な避難経路が確保されている。災害が頻発している。これは普通に生活が出来ていない。つまり「ディストピア」である。

近未来はディストピア
 「未来」では自然的な水害が起こると想定される。しかし、高齢者は移動が困難で、避難を繰り返さなければならない。つまり「ディストピア」である。

未来はユートピア
 「未来」はディストピアになる。未来は、今のディストピアを克服し、新しい未来を築く。未来は、今のディストピアを克服し、新しい未来を築く。

04 水害が多発するであろう地区

敷地の現状
 敷地の現状は、水害が多発するであろう地区。水害が多発するであろう地区。水害が多発するであろう地区。水害が多発するであろう地区。

05 未来への過程

街への融合
 街への融合は、未来への過程。街への融合は、未来への過程。街への融合は、未来への過程。街への融合は、未来への過程。

発電機能
 発電機能は、未来への過程。発電機能は、未来への過程。発電機能は、未来への過程。発電機能は、未来への過程。

心臓
 心臓は、未来への過程。心臓は、未来への過程。心臓は、未来への過程。心臓は、未来への過程。

01 一般的な住宅

02 3層の住宅

03 水害が常習化した未来

回る外壁

変わる風景
 外壁は、未来への過程。外壁は、未来への過程。外壁は、未来への過程。外壁は、未来への過程。

発電機能
 発電機能は、未来への過程。発電機能は、未来への過程。発電機能は、未来への過程。発電機能は、未来への過程。

外はディストピア、内はユートピア
 外はディストピア、内はユートピア。外はディストピア、内はユートピア。外はディストピア、内はユートピア。外はディストピア、内はユートピア。

鱗のしくみ

水害を受け
 水害を受け、未来への過程。水害を受け、未来への過程。水害を受け、未来への過程。水害を受け、未来への過程。

内観 遠見

内観 近見

内観 遠見

内観 近見

敷地配置図
 敷地配置図は、未来への過程。敷地配置図は、未来への過程。敷地配置図は、未来への過程。敷地配置図は、未来への過程。

敷地配置図
 敷地配置図は、未来への過程。敷地配置図は、未来への過程。敷地配置図は、未来への過程。敷地配置図は、未来への過程。

敷地配置図
 敷地配置図は、未来への過程。敷地配置図は、未来への過程。敷地配置図は、未来への過程。敷地配置図は、未来への過程。

Funabashi Water Settlement

市川忠樹・久野祐璃・柴田将樹
・杉山 隼・星 知里

■コンセプト

本計画は、目指すべき未来像を船橋市における「関係人口の増加」としたものである。そのために、商業都市である南船橋の分断された「地元住民」と「来訪者」が交流できる施設を計画した。昨今、わが国における消費の傾向は、「モノ消費」ではなく「コト消費」に傾いている。以上より、本施設は臨海部であり「モノ消費」が主流と

なっている南船橋に、水辺を活かした「コト消費」を主として行うことができる施設とする。本施設では3つのゾーンで、それぞれの趣旨に合わせた体験や経験を定期的に入れ替えることで多様なコンテンツを提供し、新たな趣味や生活との出会いを創出することを最大の魅力とし、都市近郊における希少な体験、経験を求めた利用者の集客を狙う。本計画で整備する空間を交流拠点として、地元住民には船橋市に対する愛着と誇りを、来訪者には多面的な消費の展開を見せる船橋市のファンにすることで、市の目指すまちづくりに貢献できると考える。

■講評

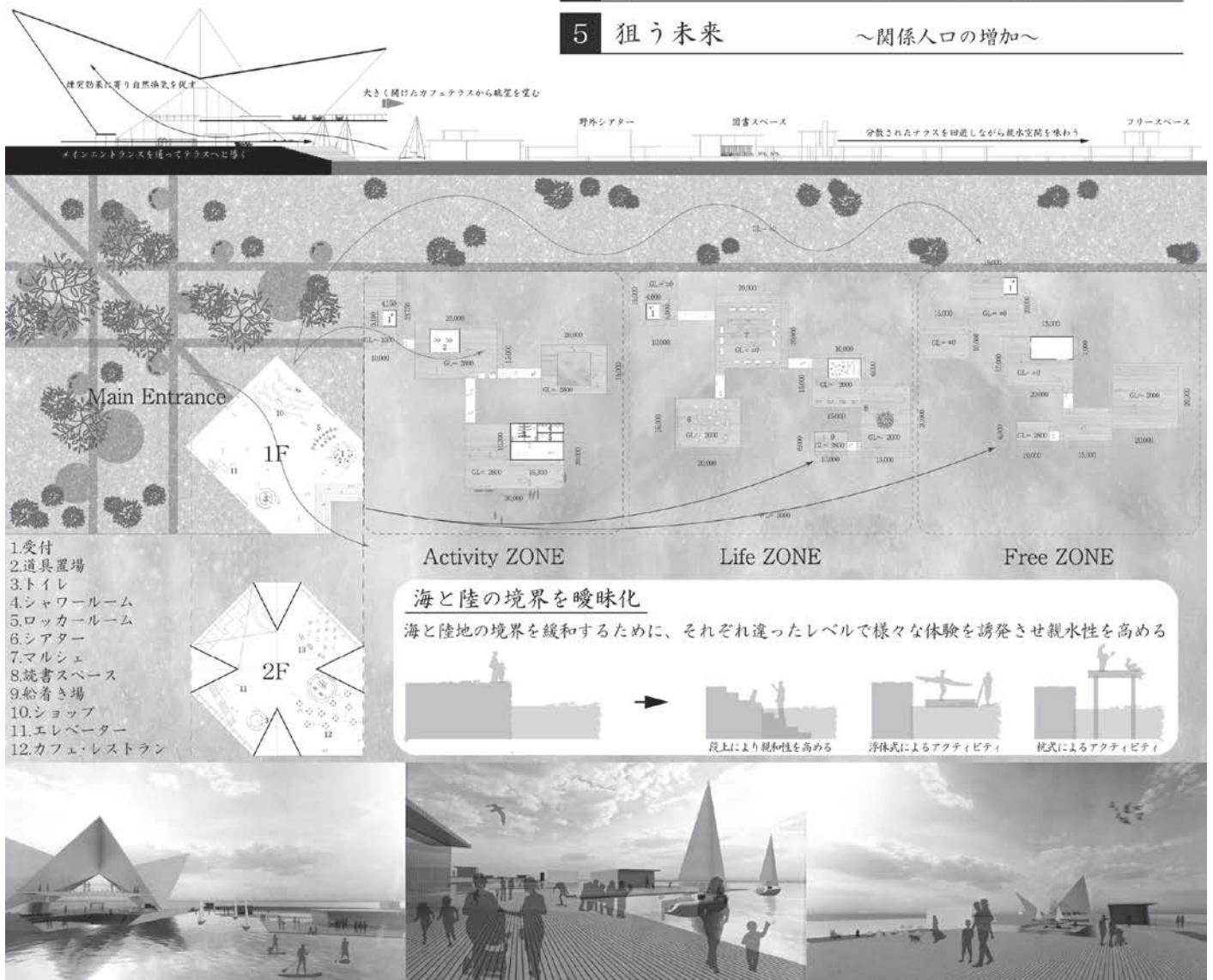
南船橋駅周辺は、住宅開発により「常住人口」が増加するとともに、LaLaアリーナやアイスパークの建設により「来訪者」の増加も見込まれる地域である。この作品は、混在する両者の交流を促すことで、長期的に地域とかかわる「関係人口」の増加につなげるという提案である。計画面では、船橋市の原風景との調和を図った外観の交流施設を水辺に計画し、地域の魅力づくりを具体的に示した点が評価のポイントである。

「関係人口」を増やすための施策としては、地域のファンになってもらう必要がある、という点に着目し、水辺で「コト消費」できる計画となってい

る。計画地を3つのゾーンに分け、アクティビティ、ライフ、フリースペースゾーンとし、それぞれの趣旨に合わせた体験を提供することで、新たな趣味や生活との出会いの場を目指している。施設計画としては、エントランス機能として南船橋のシンボルとなる船をモチーフにした施設を配し、日常とは異なる空間への入り口としている。そして、3つのゾーンは、陸域と水域の境界を曖昧にするために、境界部を階段状にし、水上テラスを設けて親和性を高め、浮体式としたアクティビティ施設や、杭で高低差を設けた施設を配している。非日常空間で交流を深めていく施設計画は魅力的で、その表現も含め秀逸である。(吉田郁夫)

Funabashi Water Settlement

「水辺」での新たなライフスタイル



- 1 進化する町 ~新事業による賑わい創出~
- 2 今後の更なる増加 ~住民と来訪者~
- 3 消費の動向 ~コト消費の場を提供~
- 4 体験のコンテンツ ~新たな生活や趣味との出会い~
- 5 狙う未来 ~関係人口の増加~

坂本みさき・嶋田健太
・野口凜太郎・平山 玄

■コンセプト

本計画の対象敷地となる船橋市は人口が約64万人であり、政令指定都市を除く市の中においては日本最大の地域で、商都「船橋」と呼ばれるほど商業が盛んである。とくに卸売りや小売業の収入が1兆円を超え、飲食店従業者は17,321人であり飲食業に強みがあることが読みとれる。また、食品を扱う工場が多数立地する影響なのか、船橋

市民が取り組んでほしいものとして「市内企業の製品や技術力のPR」というデータが出ている。このようなことをふまえて「食」をテーマに船橋市の魅力をより知ってもらえるような施設を計画する。

事業内容のテーマは“船橋市内に工場を有する施設のPR”と“船橋産品ブランドとの垣根を越えたコラボレーション”の大きく2つに分けられる。前者では、誰もが一度は口にしたことがあるような商品を実際に作るといった体験をとおして多くの人に企業の存在を認知してもらうことを試みている。後者では、船橋市が地域活性化のために厳選した船橋産品ブランドと市内の個人経営の企業や他の企業とのコラボ

をとおして、人々の興味とともに新たな魅力を引き出そうと考えている。

■講評

計画地の南船橋駅周辺は、ららぽーとやIKEAが立ち並ぶほか、駅前マンションの竣工、千葉ジェッツふなばし本拠地のLaLa arena TOKYO-BAYの建設が行われるなど、船橋市における賑わい空間の核の核としてさらなる発展が見込まれる。

本作品は、周辺開発に伴う将来的な訪問者数の増加と、工場地帯に近いという立地を活かし、市内に工場を有する食品会社のPRを行い、市の産業理解やウォーターフロントに立地する工場地帯へ親近感をわかせることを狙っ

た提案である。

海上に設置された施設では、この施設だけで楽しめる市内食品会社の試作品や、船橋産品ブランドとのコラボ商品を味わえるほか、利用者自身がオリジナル製品を作ることもできる。また、計画敷地対岸の景観デザインにも着目し、海の景観と食を同時に楽しめる工夫も計画している。

わが国のウォーターフロントの多くは工場地帯であり市民利用が制限されてしまうが、海辺の新たな施設として企業は新たな製品をアピールでき、市民も産業に対する理解や親しみを得ることができる本計画は、市全体の産業価値を高めることにも貢献できる提案として高く評価できる。(寺口敬秀)

fooDrop FUNABASHI

食を通して船橋を知る



建築計画

建物それぞれの形は「葉」をイメージした。
いくつもの葉 大海 あらゆる食 新たな発見・満足感

1つだと単なる葉だが、繋がりあうことで1つの大きな海を形成する。同様に、食が集まり企業同士が連携することで、新たな魅力を創出する。そんな思いをこめた建物の形状となっている。
建築と施設全体は、両船橋の広場、あるいは公園かのように目的がなくても気軽に立ち寄れるような人々との交流が生まれるような計画



Plant Food Pr

～船橋市内に工場を有する企業のPR～

本計画において中核・エントランスとなる施設。船橋市内に工場を有する企業を多入し、ここでしか食べられない食べ物・ここでしかできない体験を提供する。1F・2Fではそれぞれテーマを持ち、また、無料・有料と変化を持たせ、来訪者にあらゆる角度から興味を持ってもらう計画とする。

1F 試作品を一足お先に

本計画では、京葉コンビナートに工場を有する企業の試作品を販売しようと考えている。具体的には、その場で食べる・お土産として買える・テイクアウトしてテラス等で食べるものを工場社員の方を交えて販売しようと考えている。工場が多いことは、来訪者や住民にプラスのイメージをよめるには言い難いが、試作品販売を通して、企業イメージ・工場イメージの向上に繋がると考える。

2F 自分だけの〇〇をつくらう

<p>クラフトスライスチーズ モロゾフ株式会社</p> <p>step1: 好みの味の生地づくり step2: 好きな形にカット</p>	<p>アルカディア モロゾフ株式会社</p> <p>step1: クッキーの形づくり step2: トッピング選んでのせる</p>	<p>お茶づけ海苔 株式会社永谷園フーズ</p> <p>step1: 具材選び step2: パッケージ仕様を選ぶ</p>
---	--	--

Products Food Pr

～船橋産品ブランドとの垣根を越えたコラボレーション～

今回は、船橋セレクション認証品の8つ他の船橋市内の企業と掛け合わせ、新たな魅力を創出する。また、船橋市を拠点とした新規参入企業や既存の企業の新商品の試験運用の場として活用してもらい、個人経営者等のサポートを行う。

<p>B館</p> <p>RUDDER BLEND × ドトールコーヒー コンフィチュール × 船橋市のパン屋「葉っ娘」</p>	<p>C館</p> <p>黒酢米小松菜米糠 × 船橋市の稲庭 船橋にんじん × 船橋市の黒酢 すりおろしドレッシング × 船橋市の黒酢</p>
<p>D館</p> <p>クラムチャウダー × 株式会社エフピコ ホンビノス貝徳煮 × 船橋市の酒屋</p>	<p>E館</p> <p>三番瀬産青混ぜ後海苔 × 株式会社ニナレイ 船橋三番瀬量中 × 株式会社ナリイ</p>

夕方になると夕日に照らされ景観を楽しめる
海辺による、水の流れ・風の音・海の香り、食事による、味わい・舌触りといった五感を通して癒やしを得られる展望スポット



Plant Food Pr



Products Food Pr



A館の3階の人・テラスの人と視線の高さは異なるものの、同じ空気を感じ交流を図ることができる



卒業設計

【担当】 小林 直明
佐藤 信治
安藤 亮
小野 和幸
桔川 卓也
田中 克典
玉上 貴人
長谷川 洋平
鶴田 伸介



雪を纏う価値とは。

石黒敬太

身の回りにある変えようのない事象や環境。時にそれらは負の捉え方をされる「負の価値観」と変貌し、一生をその状態で終える。これらの価値観の思考をやり直し、「楽の価値観」になるよう利用・変換していくことで、このままいくはずであった未来を少しでもいい方向に変えていきたい。本計画では、札幌市特有のさまざまな負の価値観を変換していくとともに、「雪」を題材に、都市に水循環を促し中心と

なる設計を提案する。

01 身の回りの価値観の再創出

「負の価値観」とは、今まで正常に捉えていた思考・価値観が何かをきっかけにマイナス思考へとつながり「楽」と捉えられない状況と定義する。「楽」とは、人がどんな角度からでも前向きな印象で捉えた価値観と定義する。さまざまな人の考え方・いろいろなものが存在する現代で楽しさを求めることは、今後流れていく人生に微量ながらも付加価値を与えてくれるだろう。

02 実体験からの思想とは？

降雪地帯では雪というのは変えることのできない環境であり、その中で成長していくに連れ雪の価値観は変わっ

てしまう。幼少期では雪で遊ぶ「楽」な価値観を持つ。しかし、大人になると交通の妨げ、雪かきなど雪は段々と負の価値観に変換されていく。他にもさまざまなあるはずの変えることのできない環境を負のまま行くのではなく「楽」に変えたい。

03 負の価値観の変換×建築＝？

人は成長していく過程で新たな環境に身を置き、多くの物との関わり合いが増すことで考え方・価値観が少しずつ変化する。新たな環境によって変えることのできない事象が負の価値観に変わった時、その価値観を楽に変換しそれを表現し伝えられる建築を提案したい。

04 思想を広げるためのターミナルの設計

「そこで終わらせ、そこから始まる」という意味を持つターミナルを都市に建築することでより多くの人が負の価値観を見直し改善していくことを理想とする。

05 新たな地産地消論

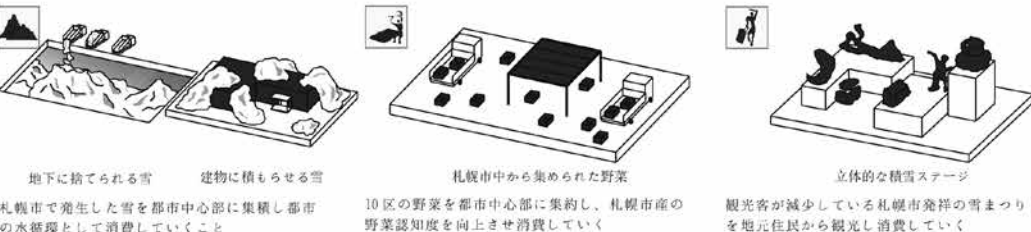
負の価値観の変換は「地産地消」と直結する。都市は多くの閑いや特有な地域での変えられない環境からさまざまな負が生みだされる。その都市が抱える問題はそこに住まう市民に直接影響するため、負の価値観はその都市周辺に大きな影響を及ぼしているといえるだろう。必然的に影響を受けている特有な環境を理解している市民が価値観の変換を行う必要がある。そのため都市特有な負はその環境下である都市

雪を纏う価値とは。

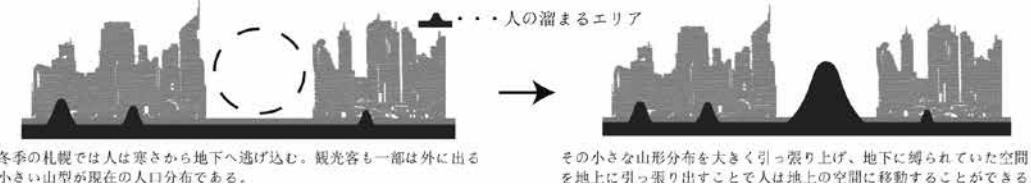


外部機能 地下から建物にかけて札幌市の雪を集積するための上げ、降った雪が都市の温度を調整する。 内部機能 高時マルチエとして札幌市の野菜が認知されていく空間。冬季に蓄えた雪を夏季の冷房に活用。 冷房機能

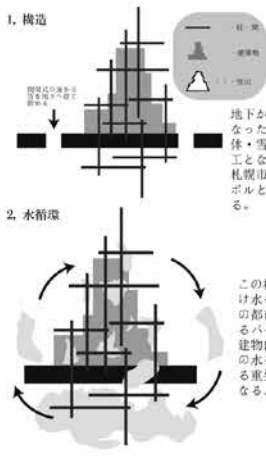
問題からアプローチする設計提案



地下から吸い上げるゾーニング



柱・梁の特徴



全体で消費していく、都市で生みだされた負を都市自身で楽に持っていく。

06 計画敷地：北海道札幌市中央区大通西1丁目～12丁目「大通公園」

人口約195万人が住む札幌市は、観光客も多く集まる地域でもあるが、最大の特徴として「積雪」が挙げられ、人が多く繁栄している都市での大量な積雪は世界でも珍しい。令和3年度の降雪量は479cmにものぼる。

07 敷地が抱える地産地消問題

07-01 「雪」からなる地産地消

地球温暖化の影響で年々問題になってきている短期間で多くの雪が積雪する災害「大雪」。それとともに札幌市近郊では住宅地化や夏のコスト管理を理由に「雪堆積場」が閉鎖されている。

都市の雪を郊外に運搬することになると人件費・ダンプカー数などの問題に加え、都市での雪捨てが間に合わず交通渋滞を起こし都市機能が麻痺する問題が上げられる。

07-02 「野菜」からなる地産地消

4割を超える販売農家が直接市民に販売するなど、直接販売をする販売農家が増えている一方で、市民の5割しか札幌産の農産物を購入していないのが現状である。今後、都市にある有利性を活かして、生産物を市民に積極的に販売していく視点が重要となる。

07-03 「観光」からなる地産地消

コロナ禍で衰退した観光客数も徐々に回復の傾向にあるが、コロナ禍以前の観光客数に到達するにはまだ時間がか

かる。さらに、札幌市の「雪まつり」では、年々地元住民の来客がマンネリ化の影響で減少している。だからこそ、経済復旧にむけて地元住民の協同が必要となる。

08 問題からアプローチする設計提案

08-01 雪提案

札幌市で発生した雪は市の中心部である大通公園に集積することで、地方への雪捨てを解消し効率よく雪を消費することを可能とする。渋滞や雪捨てをなくし、都市機能麻痺の解決策へつながる。札幌市で発生した雪を都市中心部に集積し都市の水循環として消費していくことが「雪」からなる地産地消。

08-02 野菜提案

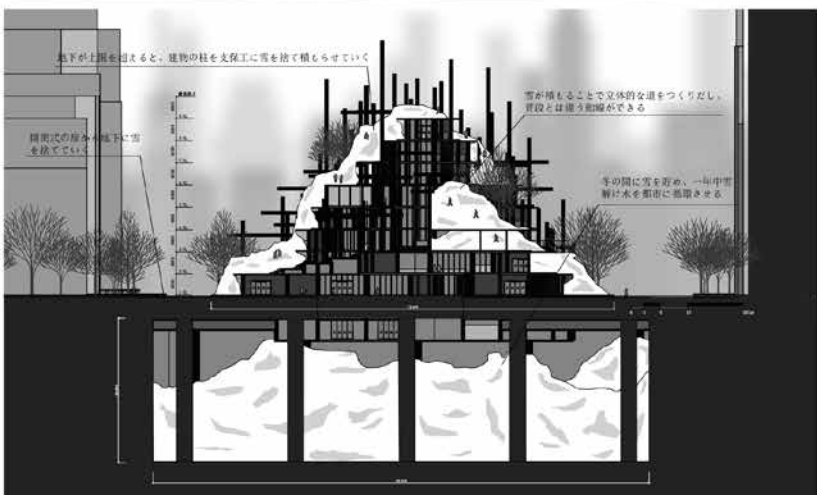
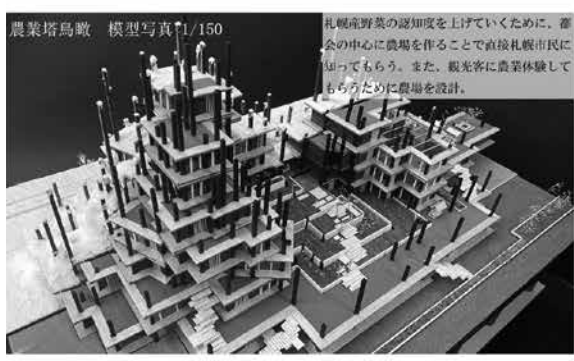
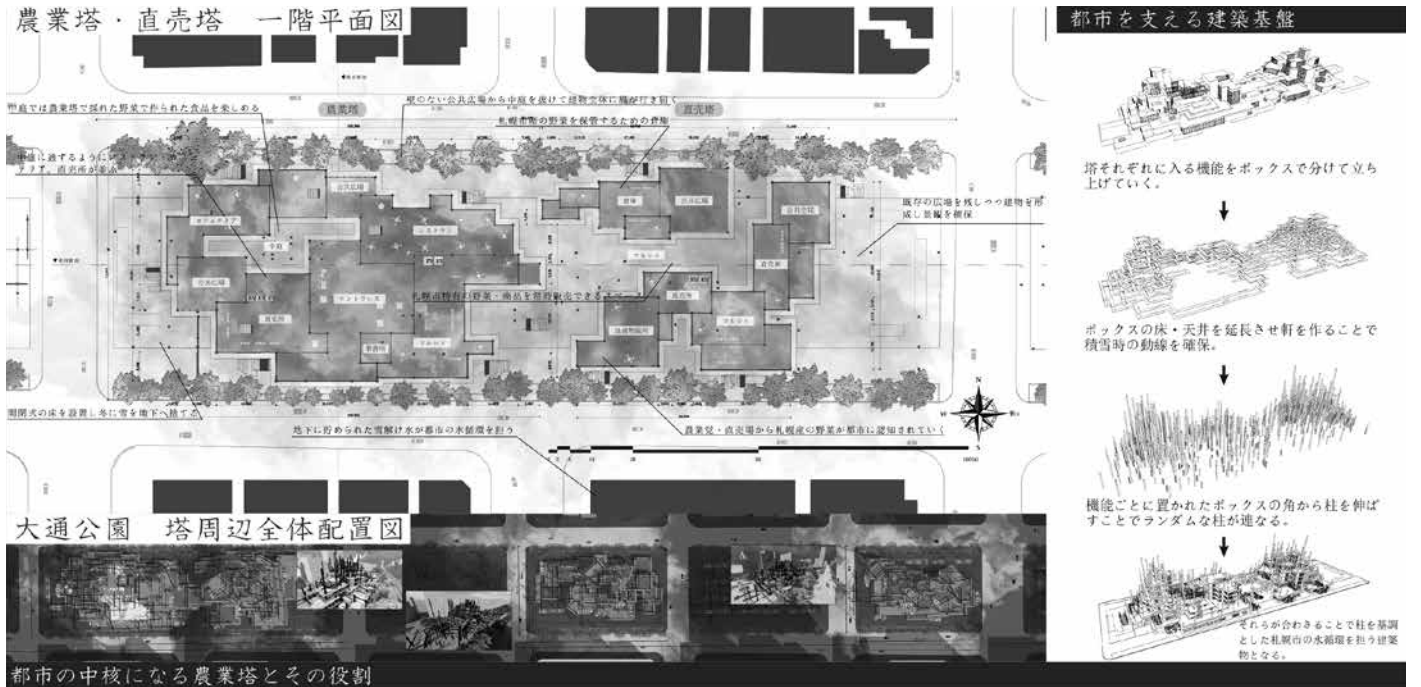
地元住民の多く集まる札幌市の中心部大通公園に直売所を常時設営できる場所を作ることによって効率よく「札幌産」の野菜認知度を上げる。新鮮な野菜を「マルシェ」をとおして都市に広げていく。札幌産全10区それぞれの野菜を効率よく新鮮なまま都市中心部の建築に集約する。

08-03 観光提案

地元住民の「雪まつり」に対する、マンネリ化を防ぐために新たな景色を提案する。今まで平面的だった積雪ステージを立体的に動かし地元住民へのアプローチを図る。札幌市の観光業を盛り上げるために、札幌市発祥の雪まつりを地元住民から参加し消費していくことで、「観光」からなる地産地消。

赤れんが卒業設計展2023 100選 /

2023年度支部共通事業 第64回全国大学・高専卒業設計展示会 出展 / 全国大学建築系学科卒業設計優秀作品集卒業制作2023 掲載



設を提案する。

1. 鎌倉大仏は幾たびの災害により「大仏殿が倒壊しては再建される」というのを繰り返していたが、津波による流失を最後に再建されることはなく現在まで500年の間露座の大仏として在り続けている。露座という言葉で粧飾されているが、その実態はただの野ざらしにされた大仏であるといえる。このまま屋外に放置され続けられれば、いずれ鎌倉の観光資源であり、国宝でもある鎌倉大仏の価値が失われてしまう。
2. 観光地として有名な鎌倉市は国内外問わず多くの観光客が訪れるが、それと同時に多くの観光問題を抱えている。

る。渋滞や混雑といった地域住民の生活が侵害されるオーバーツーリズムがよく問題として挙げられるが、それ以外に「宿泊客数が少ない」という観光経済面の問題が深刻である。多くの観光客が訪れる京都市と比較すると、鎌倉市の宿泊客数の割合は4.12%、対して京都市の割合は24.55%となっている。このことから、いかに鎌倉市の宿泊客数が少ないかがわかる。これらの原因として、鎌倉市が都心から近く狭いエリアに観光スポットが密集していることで日帰り観光が容易であること、鎌倉市における宿泊施設が少ない、といったことが挙げられる。

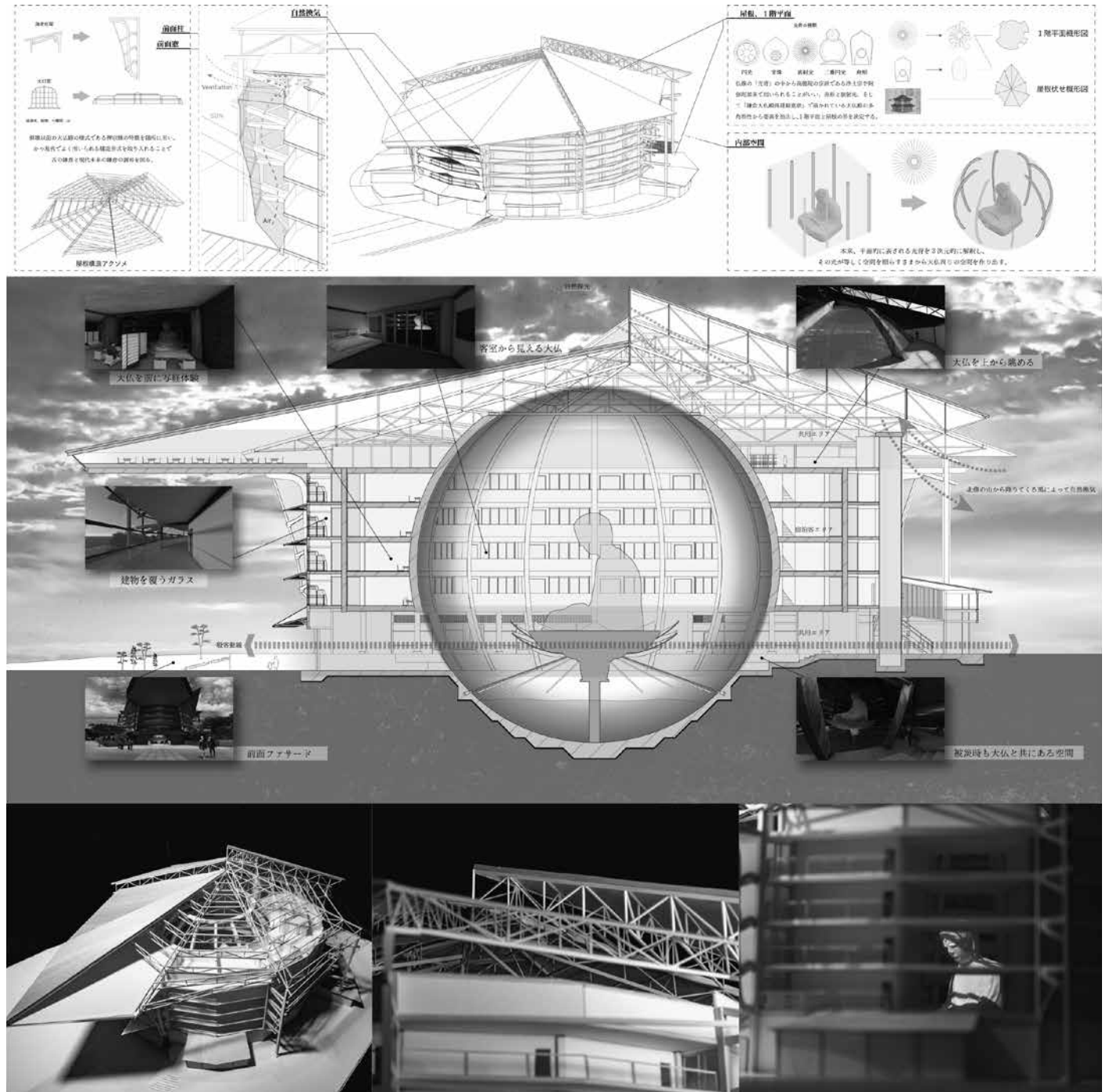
3. 鎌倉市はこれまで多くの地震や津波といった災害に直面してきた。そし

て、近い将来発生が予想される地震も多くあり常に災害の危険性を内包している街であるといえる。常に多くの観光客が訪れる街でありながら災害の危険性を内包しており、災害発生時は地域住民のみならず多くの人が被災することが容易に予想できる。そのため、観光客を含め多くの人を収容できる避難施設が必要となる。観光地では個々の観光スポットが避難場所として割り当てられているケースがあるが、多くの観光スポットは屋外であったり狭い屋内空間であることから、避難生活の場として最適な空間ではないという問題がある。

これら3つの問題を解決する手法と

して大仏殿の再建を軸とし、大仏殿に宿泊施設と防災施設の機能を挿入する。失われた大仏殿を再建し鎌倉大仏を保護、観光資源であり国宝でもある大仏の価値を後世まで残し続ける。そして再建された大仏殿は大仏のみならずさまざまなを包む器となり、宿泊機能、防災機能を預かる。大仏を囲うように再建される大仏殿に宿泊施設を挿入することで、「通常見ることのできない角度から大仏を見て過ごせる」「大仏を身近に感じながら過ごすことができる」という固有性と価値を持った宿泊施設を生み出し、鎌倉の宿泊観光客増加を促す。また、囲われた空間は大仏の保護のみならず、被災時の観光客も保護し、快適な避難場所を提供する。

第35回千葉県建築学生賞 奨励賞



梅澤秀太

われわれの生活に急激に根付いたデジタル社会に幸せな未来は待っているのか。権力と情報には深い結びつきがある。情報発展が故に現代社会はわれわれを情報管理する方向に移り変わっている。今や日常に深く結びついている情報ネットワークにより私たちは監視されているが、デジタルの特性上見ることはできない。監視色が強まっている社会において監視権力から解放できる場を作り出す。設計コンセプトは電波を反射し圏外空間を生み出す。電波が反射、また弱まる特徴を建築的に

解釈する。起伏ある形状は電波を反射し繰り返し減衰する。これを建築的に解釈し立体トラスに置き換える。また金属も素材上電波を反射する。これは low-e ガラス（透明金属膜コーティング）に置き換える。これらを立体的に組み合わせ電波遮断を行う。対象敷地は渋谷である。本建築は渋谷の都市モデルを引き継ぐ。上層部は渋谷の資本的な用途のオフィスに取って代わり、権力の物理的な対象となるデータセンター、下層部は民主的な用途の店舗に取って代わり浴場や圏外空間の気付きの場となる広場を構築する。建築の形態は計画地周辺の電波の基地局から決定する。実際の電波の基地局の調査を行った。電波は波長の関係上情報

量が多くなるにつれて届く距離が短くなる。つまり物理的に基地局の数が増えてゆく。本建築は敷地周辺に電波基地局が多くなるにしたがって、つまり監視色が強まる社会において圏外空間が増えてゆく。またデータセンターも情報量の増加に応じて拡大する。指数関数的に増築する本建築は民主主義と監視権力のヒエラルキーの逆三角形を表す。急激に発展する情報社会において建築のあり方、価値とはなにか。建築はいつの時代も人間のよりどころを作ってきた。この建築は見えない権力から解放できる場を作るとともに徐々に姿を現す権力と見る見られるの関係を築き情報社会と向き合っていく。

赤れんが卒業設計展2023 100選 / 新潟建築卒業設計展 Session! 2023 東海林賞 / 第46回学生設計優秀作品展 出展

1. 背景

1-1 権力の移り変わり

権力の移り変わり

権力の移り変わり

2. 提案

設計コンセプト

電波を反射し
圏外空間を生み出す

2-1 建築的電波遮断

2-2 電波遮断部材構成

3. 敷地及び調査

3-1 対象敷地：過度なデジタル依存都市渋谷

渋谷の人々はデジタルに依存している人が多すぎる。発着中はもちろん公園ですらみんな公園に夢中だ。

敷地周辺の電波基地局から建築形態を決定する

電波は電波基地局から我々に出ている。敷地周辺に実際に調査を行い電波基地局の位置関係を探した。

電波基地局 敷地周辺の基地局の位置（赤が電波基地局）

実際に調査し、撮った写真

本建築は逆三角形の逆ヒエラルキーの形をしている。これは上層部の民主的用途からデータセンターのほうに監視色が強くなり情報量の増加が原因で起きている。指数関数的に増加するデータセンターは一般の人々の目に明らかになる。もしかしたら一日で目に見て分かる増加している目が見えなくなる。

『圏外建築』

- 監視権力からの解放 -

断面図

最高高さ=71.100

電波反射部材は連続性確保されており階数階数が増えるにつれて電波の透過率が低下し、電波が遮断される。

ナバーの影が内部に落ちる。ナバーが影を落とすことで内部空間は明るくなる。

ナバーの水準装置で温まった水を浴場へ送る。都市型データセンターとしての環境配慮。

4.300

スポーツ広場

男子浴場 女子浴場

ポップアップ

カフェ

エンドランスロフト

カブネ

内部空間

デジタル依存の舞台装置

デジタルデバイスはスマホからARグラスに移り変わるように人間に装着できるものになっている。浴場もデジタルで浴槽の日がいつか来るだろう。本建築は浴場という現在デジタルから離れた魅力ある用途を予備策として電波から守る。

反抗と贖罪

～壊れゆく地球で生きていく人類の道標となる建築～

大木貴裕

近年、廃止されてきている火力発電所は私たちの日常を辛抱強く支え続けていた。それは、社会に電気を与え、人類の発展に貢献している。しかし、

し、人類に都合のいい社会では地球を破壊する面から嫌悪されることで社会とのつながりを失い、無縁の空間になる。罪を押し付けられ、廃止される火力発電所は人類に反抗し、地球に贖罪する。火力発電所の気持ちを提案に落とし込むことで、人類に使い潰されたものが自然史博物館として、壊れゆく地球の尊さを伝え続けながら、起き続ける。

01 廃止される火力発電所

地球温暖化や施設の老朽化から廃止される火力発電所。社会に電気を与え、人類の発展に貢献している。しかし、人類に都合の良い社会では地球を破壊する面から嫌悪され、離される。そんな火力発電所は良くも悪くも廃止され

ることで社会とのつながりを失い、無縁の空間になる。

02 廃止される品川火力発電所

品川火力発電所は都市に電力を供給する施設であり、都市を陰ながら支えている。最小の面積で周辺環境、街並みに調和した外観になっている。また、品川区は古来、交通の要所として栄え、街に多種多様な様相を見ることができる。さらに、目黒川の通勤、通学利用やリニアモーターカーの開通、羽田空港からのアクセスの良さなどから、さらなる発展が予想される土地である。

03-1 火力発電所の反抗

火力発電所は効率性、経済性、安全性を重視し作られる。また、人類を支

え続けた火力発電所は社会から閉ざされ、離される。そして、人類に使い潰され、地球を破壊した象徴として、捨てられる。

03-2 反抗

火力発電所は自らの殻を破り、骨組みだけとなる。さらに、効率的な空間を否定するかのように不完全に区切られ、開かれる。さらに効率的な空間を強化と細分化を繰り返し、機能を失った配管が増大した空間をつなく。

03-3 贖罪

反抗した火力発電所は、自然史博物館に姿を変え、壊れゆく地球の尊さについて伝え続ける。それは、人類が壊れゆく地球とともに生きるための道標となる。

第54回毎日・DAS 学生デザイン賞 入選 / 赤れんが卒業設計展2023 100選



転がる石灰石、秩父の森を利用する

川内俊太郎

提案の舞台は埼玉県秩父市です。市内は大部分を山が占めるため、稲作には向いておらず戦前から養蚕業が盛んでした。その後、養蚕業は衰退し、石灰石採掘とその加工が主要な産業となってきました。そんな秩父市の問題点はブラックボックス化、鉱山の寿命、

採掘量の減少の3つです。また、経済の低迷を理由に採掘量は年々減少し、それに伴うように秩父市自体も衰退、生産人口が急激に減っています。

これらの問題を解決する建築提案の敷地として菱光石灰生川工場を選定しました。

石灰石加工工場群が渓谷に沿って並んでおり、普段は工場関係者と登山客しか立ち入りません。そのため、この工場を開いてブラックボックス化を解消しようと考えました。次に雇用を増やしつつ、石灰石産業に代わる産業を成長させるため、林業のための施設として地域の良質な木材を知ってもらうための見学体験施設と材木加工工場を合わせた施設を提案することにしまし

た。そして、現状の石灰石加工工場はブラックボックス化されているため、主に生産される4種類の製品について製造ラインと最終的な製品を見学できる4つの見学塔を提案することにしました。

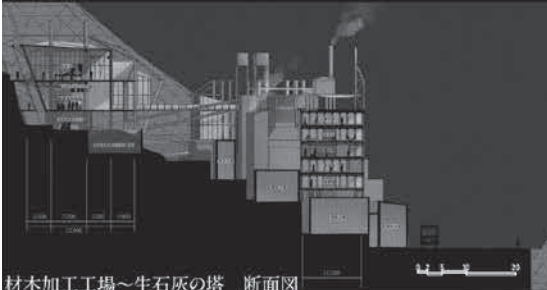
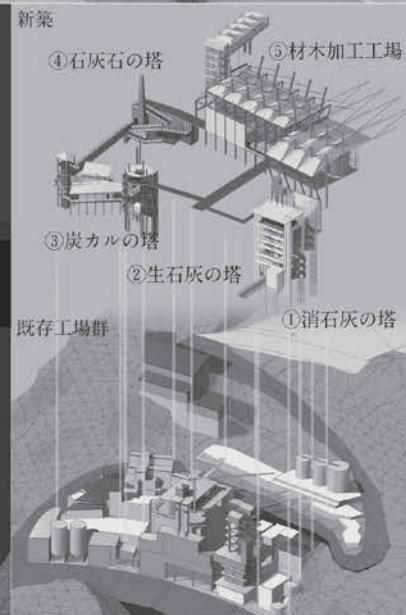
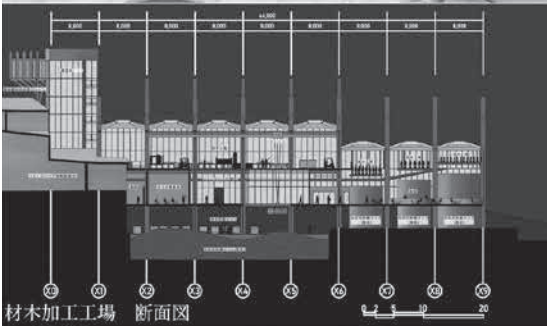
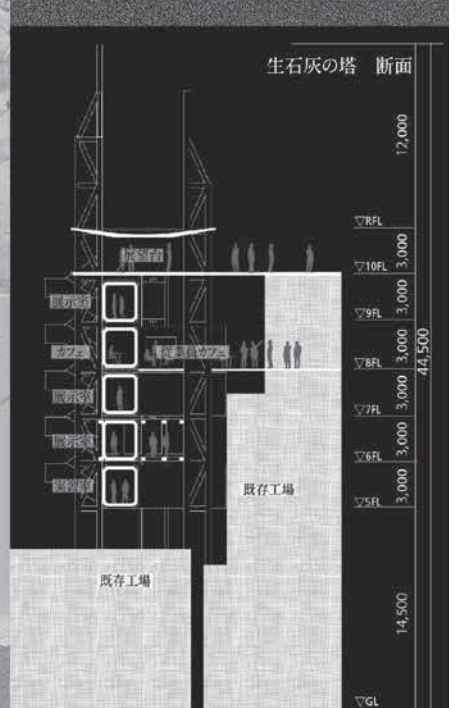
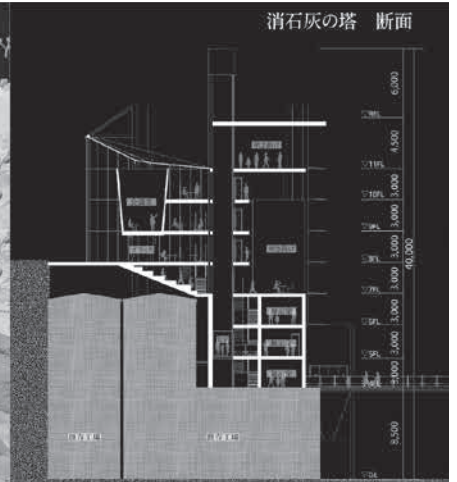
それぞれの塔はそれぞれの生産プラントの上に立ち、最終的な製品や生産工程を連想できるような意匠にしました。生石灰の塔は石灰石の粉末を焼成した生石灰の製造工程、最終的な製品の展示とカフェとしての機能を持ちます。意匠は生石灰を原料に使う金属と紙、そして生石灰を作るための炉の煙突を意識しています。炭カルは炭酸カルシウムの製造工程とその加工品の展示、ニワトリ小屋としての機能を持

ちます。炭カルは主にニワトリの飼料に使われているため、畜舎をイメージした意匠です。石灰石の塔は主に石灰石を原料とするセメントの製造工程とその加工品の展示、材木加工工場からの木質チップで発電するバイオマス発電機としての機能を持ちます。セメントは建築物に使われるため、コンクリートの力強さを意識した意匠です。材木加工工場の1階は既存の石灰石貯蔵庫を残しつつ材木を乾燥するためのエリア、2階は体験工房と林業のための実習室、食堂、3階は製材工場が入っており、将来的な拡張ができる構造になっています。最上部は展望台になっており、武甲山とその採掘面を望むことができます。

第35回千葉県建築学生賞 特別賞・市民賞

転がる石灰石、秩父の森を利用する

～石灰石加工工場に対する材木工場と見学塔の挿入による産業の変化～



【担当】 佐藤 信治
小林 直明

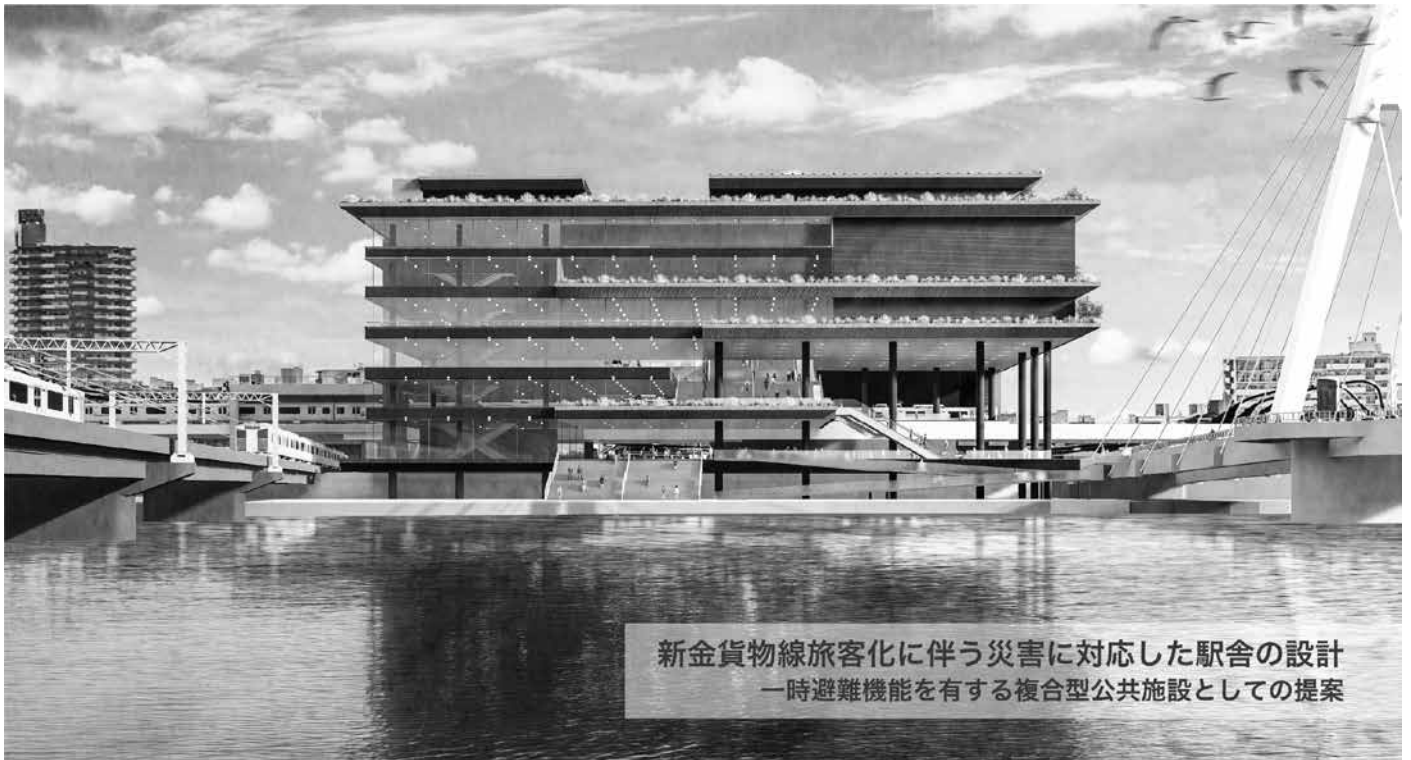


修士設計

新金貨物線旅客化に伴う 災害に対応した駅舎の設計 —一時避難機能を有する複合型公 共施設としての提案—

葛飾区は東京北東部に位置し人口45万人の区である。区内に荒川、中川、江戸川が流れ、23区で最大規模の水郷公園である水元公園もあり、水と緑に恵まれた土地である。自然からの恵みを得てこれまで発展してきたことは紛れもない事実であるが、この土地は海拔0mの上であり洪水に対する脆弱性を抱えている。その脆弱性の1つとして避難所が洪水発生時に大きく不足するという問題が挙げられる。現在、葛飾区は洪水発生時の避難人口を避難所の収容可能人数が大きく下回っている。さらに、現在区から避難所として指定されている小中学校が児童の現状に伴って統廃合が進む可能性もあり、この問題はよりいっそう深刻化する

中村正基



新金貨物線旅客化に伴う災害に対応した駅舎の設計
—一時避難機能を有する複合型公共施設としての提案

01. 駅舎×避難所

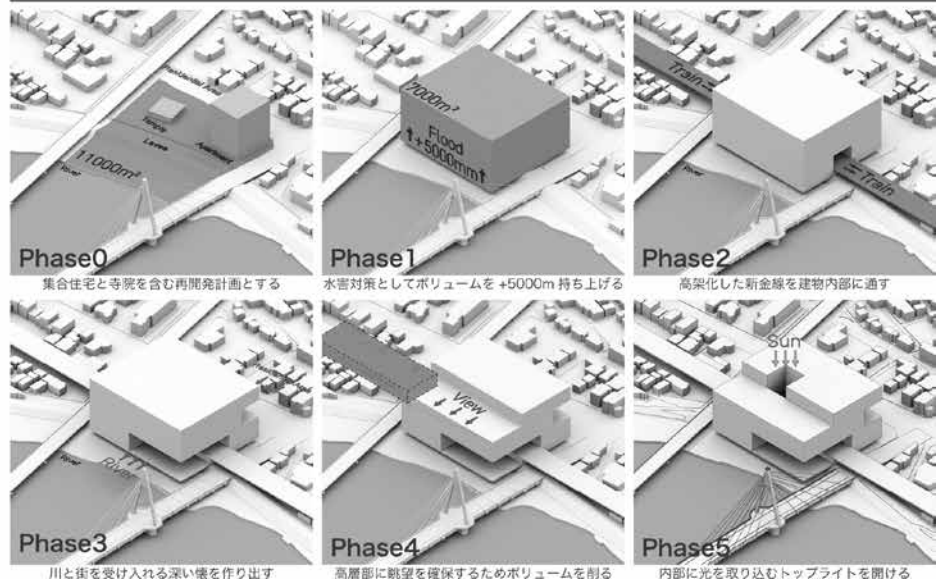
01-1. 駅舎を避難所とするメリット



01-2. 一時避難機能を有する複合型公共施設



02. 建築ダイアグラム



る可能性も孕んでいる。これからの避難所はこれまでの小中学校をベースとした避難所だけでなく、別の公共性の高い機能をベースとした避難所が求められるのではないかと考える。

それに加えて避難所に求められる性質として日常的に活用されるという性質も兼ね備える必要がある。令和元年台風19号では葛飾区と江戸川区で避難所へ避難した避難者数は約3万人で、人口比で考えると5%以下という状況であった。小中学生以外に活用されない建築物を避難所に指定しても人々の生活の一部でない施設への避難には高い障壁があるというのが実情である。このことから避難所は特定の人々が活用する施設ではなく、老若男女問わず利

用する施設を避難所にすることが求められると考えられる。

一方で、葛飾区の抱えるもう1つ問題として南北交通の脆弱さがある。葛飾区は東西方向へ総武快速・緩行線や京成本線など多くの公共交通機関が通じているが、南北方向には路線バスしか通じていない。その路線バスも路線の大部分を片側1車線の道路を運行する影響で慢性的な遅延に悩まされている。それを改善すべく現在葛飾区では新金貨物線の旅客化という計画が進行中である。新金貨物線とは総武快速・緩行線新小岩駅から常磐快速・緩行線の金町駅を結ぶ貨物線である。かつて、新金貨物線は多くの貨物列車が運行されていたが、現在は1日数本の運行に

留まる。新金貨物線の旅客化では現在空きのある線路を活用し、新駅を整備した上で旅客列車を運行することで南北交通のアクセスの改善を目指す葛飾区区立の計画であるといえる。

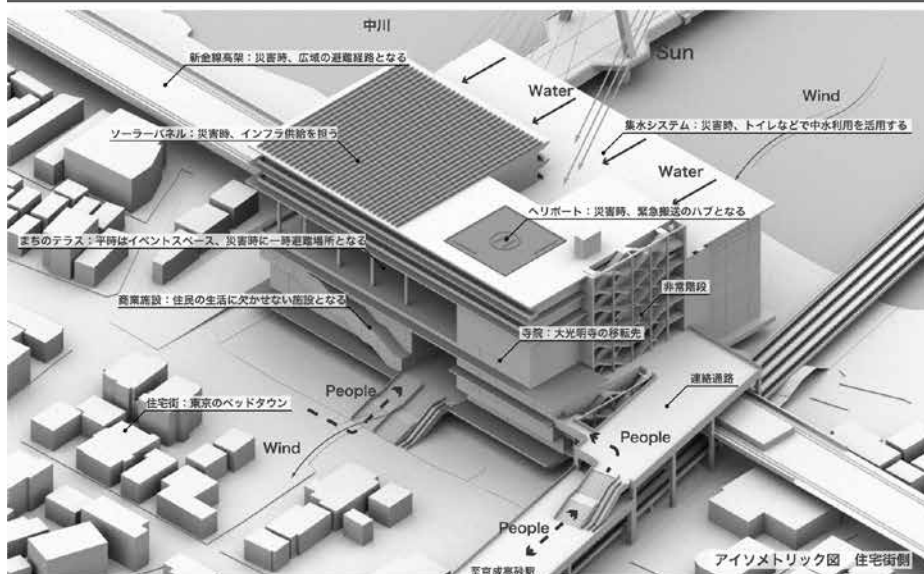
以上の状況から、避難所不足と南北アクセスの改善という2つの現状を踏まえ、解決策として考えられるのが「駅舎」を避難所として計画することである。東京で暮らす中で、電車を活用せず生活することは不可能であり、誰しもが駅舎までの経路は知っているだろう。

新金貨物線の旅客化によって生まれる新駅舎に災害時には避難所として使える空間と日常的には、建築を身近にすることで避難に対する障壁を下げる

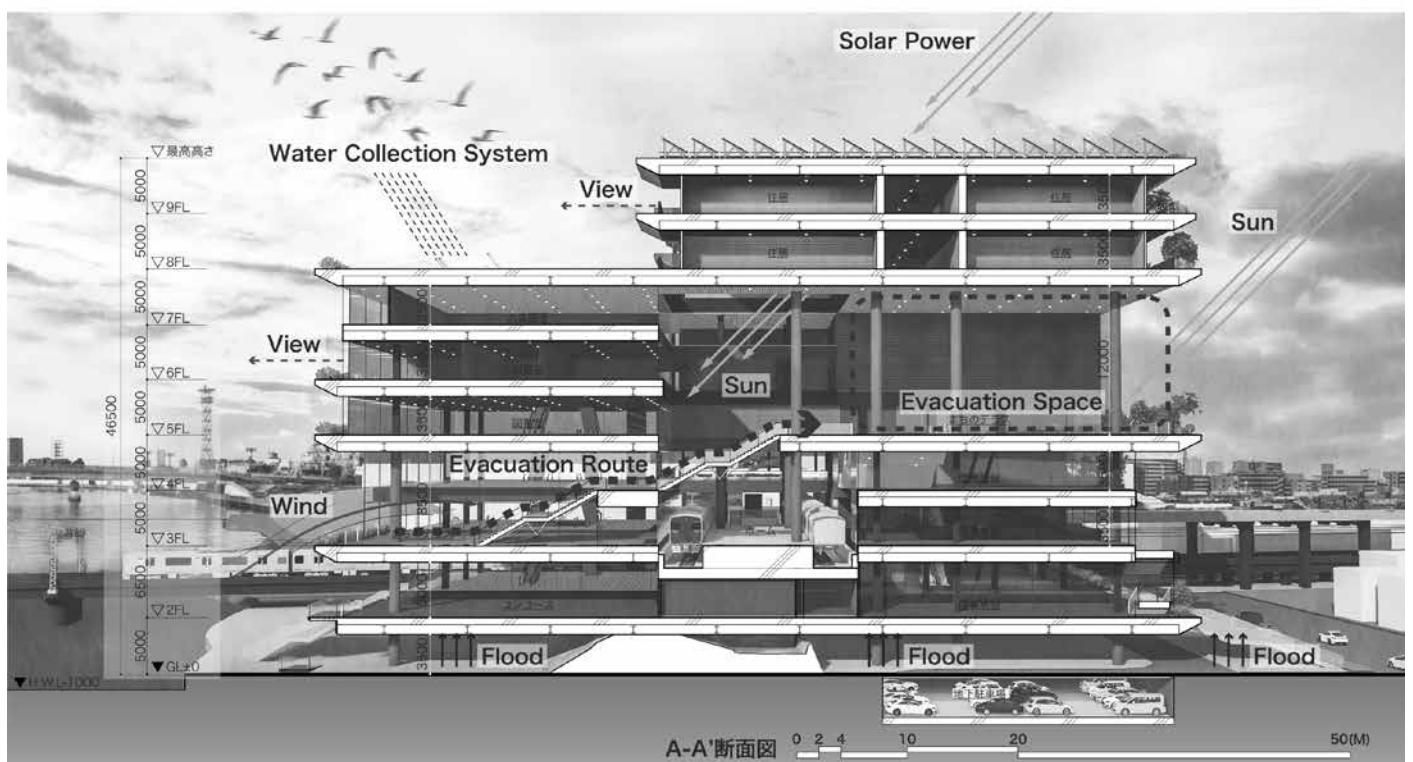
街になくなくてはならない公共機能を挿入することで、災害時に避難所を必要とする地域住民にとって身近な建築となることを目指す。

建築デザインとしては、洪水時は高い場所へ逃げる必要があることから階段が外部から見えるデザインとした。高いところへ逃げることで、災害時の切迫した状況の時でも誰もが安心して逃げることで避難所というものを目指している。また、建築の面する中川と住宅街に対して、大きな軒下を持つ半屋外空間を作ることによって街に対して建築を溶け込ませることを目指し、また多くの避難者を受け入れることのできる空間を作り出した。

03.建築アイソメトリック図



04.パース



修士設計

横浜かわまちターミナル 計画

—横浜市石川町における陸上と水上をつなぐ複合型駅舎の設計—

港町として広く人気のある神奈川県横浜市は、江戸時代末期に開港されてから海によって世界とつながり、今も異国情緒漂う雰囲気には多くの人が集まる。市の調査によると、横浜を訪れる目的として一番多いのは観光で、街並みや夜景が広く認知されている。

そんな横浜市は2013年に掲げたマスタープランの中で、集約型都市構造への転換を目指し、今後縮退していくと考えられる都市を想定したコンパクトシティの形成に取り組むとしている。横浜市においてコンパクト化を進める上での重要な視点に、駅周辺の機能集約が挙げられる。市における生活の中心は鉄道であり、その駅を拠点とした公共交通ネットワークを形成し、利便

性の高い街づくりを進めていく方針だ。しかし、市の交通渋滞は大都市の中でも多く、市民の身近な足は確保されているとは言い難い。一方、臨海部では多彩な交通手段が提供され、移動自体が楽しく感じられる回遊性の高いエリアを形成していくことが政策に盛り込まれた。加えて、市は2016年に環境未来都市計画の中で、低炭素モビリティの利活用による低炭素交通社会を目指している。

そこで、本提案では、水上交通の利用に注目した。横浜ならではの海上からの景観や、環境にやさしい交通であることから、新たな市民の足として活用が見込める。現在、みなとみらいのから大さん橋、山下公園まで横浜港を

めぐる水上バスは海を活かした観光資源となっている。一方で、横浜の街をはさむ2つの人工河川である大岡川と中村川をはじめとした運河というもう1つの水辺も存在する。これら河川の整備に対して、横浜市は神奈川県と共同で平成21年に横浜市地区かわまちづくり計画を策定し、それに伴う大岡川沿いの栈橋の整備が行われた。2020年6月には日ノ出栈橋が整備され、河川での水上アクティビティのためのインフラ準備が整えられている。また、移転した横浜市役所新市庁舎において川沿いの立地を活かしたプロムナードの整備と今後の栈橋利用の検討など、公共の建築においても、親水性に着目した水辺空間の利用が目指されている。

神林慶彦



さらに、県は中村川においても、2024年度の完成を見込んだ初の栈橋整備を2022年度よりスタートした。そして、運河に接する区である横浜市中区のまちづくり方針を見ると、水上交通のルートと導入検討が進められる発着場が計画されている。今後、市のかわまちづくり計画とあわせてさらに水上交通とその栈橋駅の整備が本格化していくことが考えられる。

そこで、今後進められる水上交通の推進とその駅の整備にあたっては、陸上と水上をつなぐ計画が重要になると考えた。本提案では、陸上と水上の結節点となる交通機能を中心とした複合施設である「横浜かわまちターミナル」を計画する。

本建築の主要機能は、水上バスの栈橋駅および駅舎、バスターミナル、商業施設、自治会等の地域活動拠点や福祉保健活動拠点、ホール、事務所、住宅、ホテル、駐車場、橋梁である。水上バスのターミナル施設を中心に、商業・文化・業務・宿泊・住居等の機能を複合した大規模施設を計画する。

敷地は中村川沿いで、JR石川町駅東側の首都高速道路のジャンクションに囲まれた三角地帯の場所を選定した。この運河沿いには2022年度から水上交通の栈橋駅が整備されることが決まっております。また、JR石川町駅前にはバス停が整備されておらず、本提案の中で整備する必要があると考えた。よって、

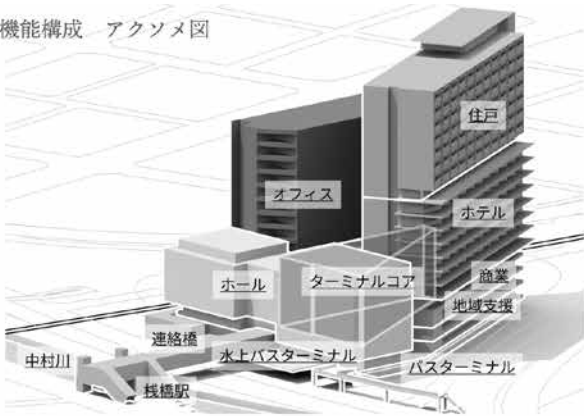
水上バスという水上交通と、鉄道とバスという陸上交通の3つの交通結節点として、本提案のターミナルは計画する。

低層部において、水上バスと鉄道、バスといった公共交通をターミナルコアでつなぎ、川の水上バス栈橋駅から地上レベルのバスと高架である鉄道駅をつなぐような結節空間を作る。さらに建築内部はコアを中心とした動線計画とした。栈橋駅を整備するにあたっては、敷地対岸の川沿いプロムナードから栈橋駅とターミナルをつなぐ連絡橋を中村川に架けた。さらに、地域活動拠点や店舗を配置し、街のにぎわいを連続させた。川に面した中層部には、ホールを有する文化施設を配置し

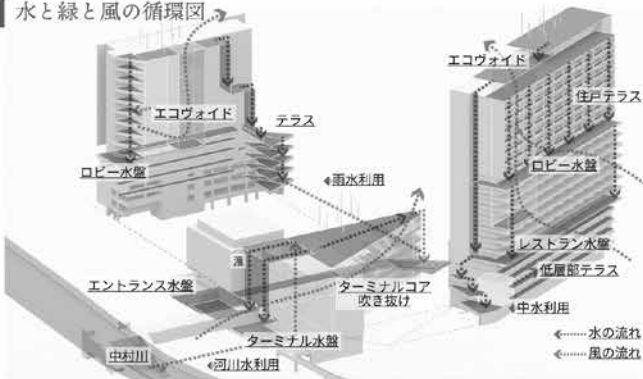
た。そして、高層部にはオフィス、住居、ホテルを設けた。また、街のスケールに合わせるため、全体を3つのボリュームに分割し、配置した。さらに諸機能に応じて各ボリュームをブロックに分割、その間に水盤を用いた庭園を計画する。そして、水盤を通る風をヴォイドや吹き抜けで受け止めることで、建物全体の環境調整に活かす計画とした。

本提案では、水と緑をデザインに取り込み、海や川といった横浜の街の魅力を創出した。さらに、陸上と水上をつなぐ結節点となる「横浜かわまちターミナル」を計画したことで、川を中心に、横浜の街に新たな往来が生まれた。

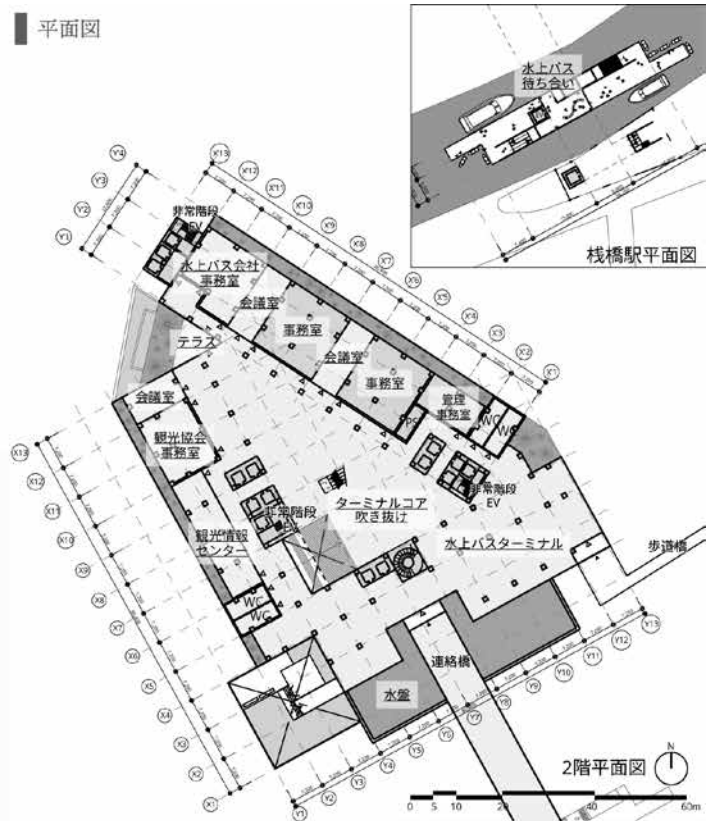
全体機能構成 アクソメ図



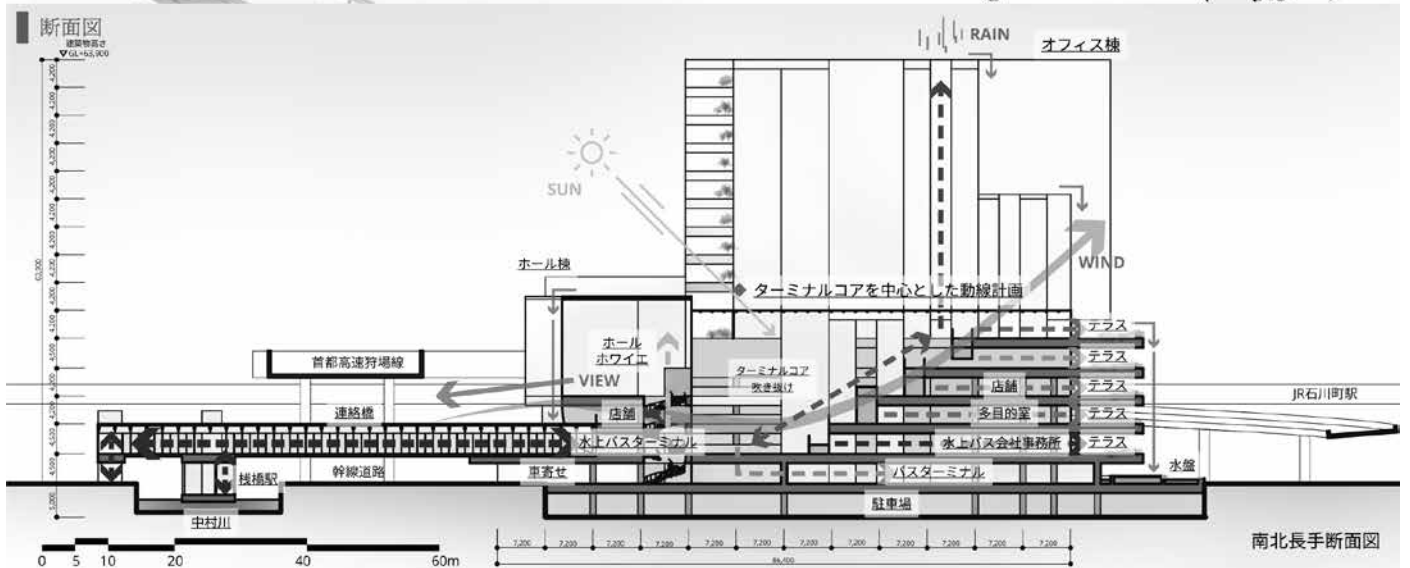
水と緑と風の循環図



平面図



断面図



備されていない。
 (2)インバウンド時により多くの訪日観光客が訪れると期待される場所。

4. 基本計画

4.1 計画敷地

都市型海洋レクリエーション拠点として期待されている高松港。瀬戸内国際芸術祭などによる国際的知名度を生かした交流拠点として、瀬戸内海の魅力を活かしたクルーズ船の受け入れ整備を行うことは、日本観光およびクルーズ市場の発展、地方活性化に貢献すると考えられる。

4.2 高松の再開発事業

計画敷地近隣で新香川県立体育館など、さまざまな再開発の検討がされている。サポート地区全体が賑わいのあ

る地区に生まれ変わろうとしている県の方針に貢献していく。

4.3 港湾施設の不足

現在の高松港は、大型クルーズ客船が入港できる岸壁は整備されておらず、市街地より離れたコンテナターミナルで誘致している。さらに、フェリー船が日常的に運行されているにも関わらず、乗船客を受け入れる施設が整っていない。

5. 建築計画

5.1 全体計画

客船ターミナル建築としての機能に加え、観光客へのサービス向上を図るため、文化施設、宿泊施設、マリナ施設を同時に計画する。地域住民の利用価値を高めるため、フェリーターミ

ナルを計画し、多目的スペース、温泉施設を付与する。さらに、南海トラフ地震を想定した浮体式計画と環境配慮型建築を同時に計画していく。

5.2 配置計画

本提案は、現在クルーズ船が寄港している岸壁を老朽化の観点から一部取り払い、浮体式客船ターミナル計画を行う。背後地の交通インフラ施設や周辺施設と人々をつなげるため、既存のデッキを延長してつなげることで、生活動線、観光動線、防災動線として機能し、高松港全体に回遊性を持たせる。

5.3 断面計画

近隣の新香川県立体育館の最高高さ27mを基準に最高高さを約20mにすることで、周囲の島々に圧迫感を持た

せない、景観に配慮したランドマークとなることを望む。

5.4 浮体式計画

瀬戸内海の潮流を防ぐため、西側を着底式とすることで波を防ぎ静穏度を確保する。東側はコラム支持型とすることで、クルーズ船から出る波の影響を受け流す。ターミナル本体はポンツーン型とし、南海トラフ地震が来た際も対応可能な防災に強いターミナルとする。

6. 終わりに

本提案は、日本観光およびクルーズ市場の発展、地域活性化に貢献することを目指した。今後の日本の観光およびクルーズ市場の活動方針に寄与することを願う。



多島美を見渡せる宿泊施設と海と親しむ親水護岸



海と街を繋げる玄関口



クルーズ船を送り出すための送迎デッキ



瀬戸内海の島々を眺めながら散歩するスカイデッキ



人々の交流を促す出入国ロビー



クルーズ船寄港時 出入国検査で賑わうクルーズ客



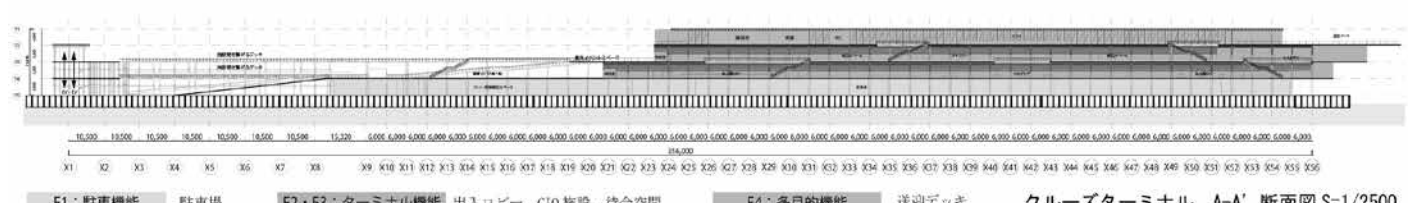
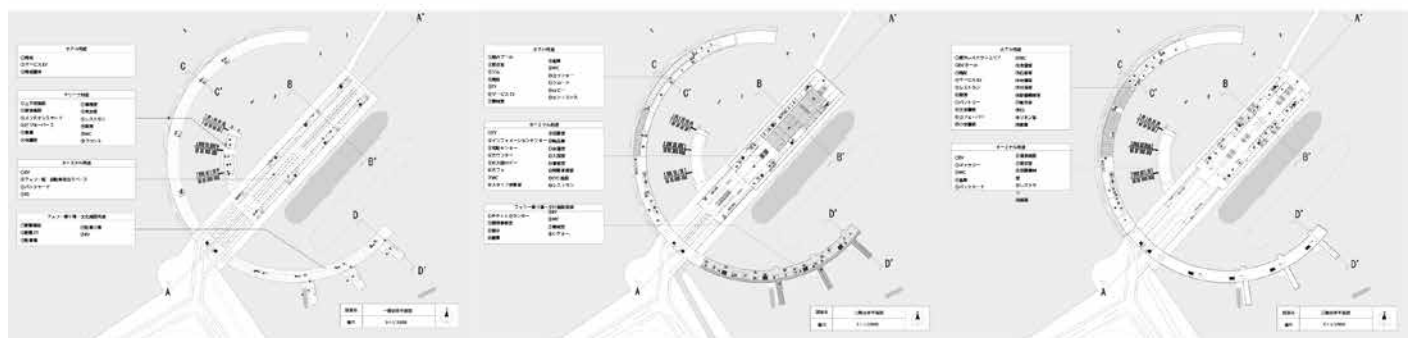
風景を眺めながら学ぶ展示空間



開口の広い待合ロビーがもたらす異なる活動の出会い



地域住民の活動スペースとして活用されるCIQ施設



F1: 駐車機能 駐車場 F2・F3: ターミナル機能 出入ロビー、CIQ施設、待合空間 F4: 多目的機能 送迎デッキ クルーズターミナル A-A' 断面図 S=1/2500

■コンペ受賞歴一覧

日本一 36作品 (卒業設計 23作品、建築学会コンペ 1作品、その他のコンペ 12作品)

日本二 24作品 (卒業設計 2作品、建築学会コンペ 5作品、その他のコンペ 17作品)

日本三 12作品 (卒業設計 1作品、建築学会コンペ 5作品、その他のコンペ 6作品)

その他受賞数 406作品

年度	卒業設計(●)/修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
昭和52年	●第10回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・最優秀賞「金の卵」賞/石渡孝夫(建築学科海洋コース) 日本一		
53	●第11回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・最優秀賞「金の卵」賞/富田善弘(建築学科海洋コース) 日本一		
54	●第12回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・最優秀賞「金の卵」賞/小林直明(建築学科海洋コース) 日本一		
56	●第14回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・最優秀賞「金の卵」賞/吉本宏 日本一 ・同入選/松本康治		
57	●第15回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・建築部門賞/稲村健一 日本一	●「地場産業振興のための拠点施設」 ・支部入選/鈴木洋一	
58	●第16回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・最優秀賞「金の卵」賞/遠藤卓郎 日本一 ○(社)日本港湾協会主催マリノポリス計画コンテスト ・優秀特別賞/川口利之	●「国際学生交流センター」 ・全国入選佳作/稲村健一 ・支部入選/大久保豪、杉田祐之、花岡豊、星野博史	
59	○第17回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・入選/稲村健一		●第11回日新工業設計競技「ノアの箱船」 ・3等/遠藤卓郎、岩崎博一 日本三 ●R.I.B.A 英国王立建築家協会国際学生デザインコンペ ・入賞/中村耕史、秋江康弘、稲村健一 ●第19回セントラル硝子国際設計競技「グラスタワー」 ・佳作/秋江康弘 ●三井ホーム住宅設計競技「2×4による新しい住まい」 ・佳作/川口利之、菅沼徹、筒井毅 ●桜門建築会第1回学生設計コンクール「建築学生交流センター」 ・佳作/稲村健一
60	●第18回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・入選/富田誠	●「商店街における地域のアゴラ」 ・全国入選3等/藤沢伸佳、柳泰彦、林和樹 日本三	●A.I.A アメリカ建築家協会国際学生コンペ ・2等/秋江康弘 日本二
61	●第19回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・入選/小野正人	●「外国に建てる日本文化センター」 ・全国入選3等/小林達也、佐藤信治、小川克巳 日本三 ・支部入選/渋谷文幸 ・支部入選/林和樹、鶴飼聡(建築)、高橋義弘(建築)	●桜門建築会第2回学生設計コンクール「桜門校友クラブ」 ・1等/山崎淳一、松尾茂 ・佳作/小林達也、佐藤信治 ●第6回ホクストン建築装飾デザインコンクール「まちなかの公共トイレ」 ・佳作/小林達也
62	●第20回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・入選/海老澤克	●「建築博物館」 ・支部入選/松尾茂、横堀士郎、石川仁、鳥海清二(建築) ・支部入選/小野正人、小沢一実、渡邊俊幸	●ミサワホーム住宅設計競技 ・入選/小林達也
63	●千葉県建築三会学生賞 ・銅賞/近藤陽次 地域三 ・奨励賞/毛見究	●「わが町のウォーターフロント」 ・全国入選1等/新岡英一、橋本樹宜、丹羽雄一(建築)、毛見究、草薙茂雄 日本一 ・全国入選佳作/園部智英、石川和浩、原田庄一郎 ・支部入選/松尾茂、山本和清 ・支部入選/岩川卓也	●'88膜構造デザインコンペ ・佳作/山口明彦 ●第2回千葉ふるさと住宅設計コンクール ・佳作/川村佳之 ●桜門建築会第3回学生設計コンクール「ゲストハウス」 ・1等/山口明彦、原利明(建築)、渡辺一雄(建築) ・2等/加藤麻生 ・3等/飯田隆弘、丹羽雄一(建築)、有馬哲也(建築) ・佳作/小堀泰毅、伊藤剛 ・佳作/長谷川晃三郎、佐久間明

年度	卒業設計(●)／修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
平成1年	<ul style="list-style-type: none"> ●第22回毎日・DAS学生デザイン賞 ・建築部門賞／長谷川晃三郎 日本一 ・入選／佐久周明 ●千葉県建築三学生会賞 ・金賞／佐久周明 地域一 ・奨励賞／長谷川晃三郎 	<ul style="list-style-type: none"> ●「ふるさとの芸能空間」 ・全国入選2等／新岡英一、長谷川晃三郎、佐久周明、岡里潤 日本二 ・全国入選3等／丹羽雄一(建築)、益田勝郎 日本三 	<ul style="list-style-type: none"> ●石川県建築士会設計競技「垂直複合体」 ・1等／矢野一志、佐藤教明、菊池貴紀、廣川雅樹、安田友彦、鈴木宏佑 日本一 ●第1回横浜アーバンデザイン国際コンペ ・選外入選／長谷川晃三郎 ●第3回千葉ふるさと住宅設計コンクール「安全で魅力ある三世代住宅」 ・入選／山本和清
2	<ul style="list-style-type: none"> ●第23回毎日・DAS学生デザイン賞 ・入選／山口哲也 ●千葉県建築四学生会賞 ・金賞／矢野一志 地域一 ・銅賞／山口哲也 地域二 	<ul style="list-style-type: none"> ●「交流の場としてのわが駅わが駅前」 ・全国入選2等／植竹和弘、根岸延行(建築)、中西邦弘(建築) 日本一 ・全国入選3等／飯田隆弘、佐藤教明、山口哲也 日本三 	<ul style="list-style-type: none"> ●石川県建築士会設計競技「海に浮かぶ市場」 ・3等／川久保智康、野沢良太 日本三 ●第2回横浜アーバンデザイン国際コンペ「ウォーターフロントの再生に向けて」 ・佳作／矢野一志、佐藤教明、大坪一之、屋田直樹、佐藤滋晃、菊池貴紀、菅野聡明、門脇桂子、馬場昭光 ●BAY'90デザインコンペ (BAY'90開催記念学生建築設計競技) ・優秀賞／佐久周明 日本一 ・佳作／益田勝郎 ●桜門建築会第4回学生設計コンクール「建築家ギャラリー」 ・2等／岡里潤、寺尾浩康、馬場昭光 ・佳作／植竹和弘、白石充、根岸延行(建築) ・佳作／山口哲也、佐藤教明 ・佳作／広部剛司、佐藤岳志、菅浩康 ●第10回ホクストン建築装飾デザインコンペ「都市公園に建つフォーリー」 ・佳作／武田和之、岡里潤
3	<ul style="list-style-type: none"> ●第24回毎日・DAS学生デザイン賞 ・建築部門賞／高橋武志 日本一 ●千葉県建築三学生会賞 ・金賞／高橋武志 地域一 ・奨励賞／廣川雅樹 	<ul style="list-style-type: none"> ●「都市の森」 ・1部全国入選2等／山口哲也、河本憲一、廣川雅樹、日下部仁志、伊藤康史、高橋武志 日本二 ・2部全国入選最優秀／片桐岳志 ・2部支部入選／布川亨、八代国彦(建築)、堤秀樹 	<ul style="list-style-type: none"> ●JIA オープンデザインコンペ「都市の解体と再構築」 ・1等／佐藤教明、山口哲也、木口英俊 日本一 ・佳作／川久保智康、野沢良太 ●'91メンブレインデザインコンペ「アーバンビルとメンブレイン」 ・最優秀賞／河本憲一、石井昭博、関戸浩二、福田昌弘 日本一 ●第2回長谷工イメージデザインコンペ「現代の夢殿」 ・入選／川添隆史、渡辺千香子 ●第18回日新工業建築設計競技「都市空間の再生計画」 ・入選／川久保智康、野沢良太、花沢真哉、高山一頼、伊藤裕、森泉尚之、額村康博、布川亨、八代国彦(建築) ●第3回タキロンデザインコンペ「時代の風をはらむ都市装置」 ・3等／降旗恭子、黒田佳代 日本三 ・入選／木口英俊 ●第5回千葉ふるさと住宅設計コンクール「共働き家族のための住宅」 ・奨励賞／川添隆史 ●第2回学生のためのフレッシュデザインコンペ ・フレッシュデザイン賞／木口英俊、渡辺昇 ●1991第1回 BUFF 国際建築デザインコンペ「東京の住まい」 ・佳作／佐藤教明
4	<ul style="list-style-type: none"> ●第25回毎日・DAS学生デザイン賞 ・建築部門賞／片桐岳志 日本一 ・入選／寶田陵 ●千葉県建築三学生会賞 ・金賞／片桐岳志 地域一 ・銅賞／寶田陵 地域二 ●東京ガス・銀座ポケットパーク「卒業設計制作展」第10回記念『1993卒業設計制作大賞』 ・金賞／寶田陵 日本一 ・銅賞／片桐岳志 日本三 	<ul style="list-style-type: none"> ●「わが町のタウンカレッジをつくる」 ・1部全国入選3等／佐藤教明、木口英俊 日本三 ・1部全国入選佳作／廣川雅樹、寶田陵 ・1部支部入選／山口哲也、河本憲一 ・1部支部入選／木口英俊、高橋武志 ・2部支部入選／関谷和則、石渡義隆 ・2部支部入選／平崎彰、望月喜之 	<ul style="list-style-type: none"> ●盛岡・水辺のデザイン大賞 ・専門部門佳作／佐藤信治、河本憲一、廣川雅樹、伊藤康史、日下部仁志、高橋武志、伊藤賢 ●奈良・TOTO 世界建築トリエンナーレ ・佳作／川久保智康、野沢良太、永島元秀 ●'92メンブレインデザインコンペ「オートキャンプ場」 ・2等／片桐岳志 日本二 ・佳作／高橋武志、関戸浩二 ●桜門建築会第5回学生設計コンクール「わがヒーローとの出会い」 ・2等／片桐岳志、岡田和紀 ●アーキテクチャー・フェア KOBE 学生設計競技「神戸・学園東地域福祉センター」 ・佳作／吉田幸正 ●川鉄デザインコンペ'92 ・佳作／三輪政幸 ●第3回学生のためのフレッシュデザインコンペ ・フレッシュデザイン賞／佐藤教明 ●第19回日新工業建築設計競技「記憶の住む家」 ・佳作／野沢良太 ●1992第2回 BUFF 国際建築デザインコンペ「東京屋台空間」 ・佳作／竹内大介、高山一頼、宍倉尚行 ●DYNAX 第2回建築学生・設計大賞'92「〈太陽・月・炎〉の家」 ・奨励賞／竹内大介、高山一頼、宍倉尚行 ・奨励賞／石井昭博、寶田陵、西上順久

年度	卒業設計(●)/修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
平成4年			<ul style="list-style-type: none"> ●第4回タキロン国際デザインコンペ「風の道・水の道」 ・3等/山口哲也、川久保智康、木口英俊、永島元秀、布川亨 日本三 ・3等/高橋武志、石井昭博 日本三 ●1992新建築住宅設計競技「スタイルのない住宅」 ・佳作/川久保智康、高山一頼 ●「(仮称)中原中也記念館公開設計競技」 ・佳作/山口哲也、木口英俊
5	<ul style="list-style-type: none"> ●第26回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・洋々賞/吉田幸正 日本二 ・入選/関谷和則 ●千葉県建築三会学生賞 ・金賞/関谷和則 地域二 ・銀賞/吉田幸正 地域二 	<ul style="list-style-type: none"> ●「川のある風景」 ・1部全国入選佳作/片桐岳志、小野和幸 ・1部支部入選/石井昭博、林正輝、福田昌弘、山口泰永 ・2部全国入選佳作/橋本廉太郎、神蔵良隆、藤生利道 ・2部全国入選佳作/関谷和則、三輪政幸 	<ul style="list-style-type: none"> ●石川県建築士会設計競技「21世紀の公園」 ・佳作/片桐岳志 ●第4回長谷工イメージデザインコンペ「現代のさや堂」 ・入選/片桐岳志 ●JIA 東海・北陸支部第10回設計競技「磐座〜いわくら〜」 ・銀賞/田中宏、岡田和紀、澤田憲子、倉川友紀 日本二 ・佳作/岡田和紀、田中宏、澤田憲子、倉川友紀 ●新知的生産環境1993デザインコンペティション「グループによる新しい知的生産環境の在り方」 ・優秀賞/小野和幸 日本二 ●第4回学生のためのフレッシュデザインコンペ ・フレッシュデザイン賞/岡田和紀、田中宏、木口英俊、川久保智康
6	<ul style="list-style-type: none"> ●第27回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・入選/清水信友 ・入選/戸國義直 ●千葉県建築三会学生賞 ・金賞/清水信友 地域二 	<ul style="list-style-type: none"> ●「21世紀の集住体」 ・1部支部入選/小野和幸、田村裕彦、高野勇治(建築)、國武陽一郎(建築) 	<ul style="list-style-type: none"> ●まちづくりコンクール'94「都市を水からデザイン」 ・優秀賞/関谷和則、石渡義隆、館吉保 日本二 ・佳作/田村裕彦、岡田和紀、小野和幸、鳥居延行 ・特別賞/井上真樹、馬淵晃 ●桜門建築会第6回学生設計コンクール「磯野家のすまい」 ・優秀賞/小野和幸、井上真樹、小山貴雄 ●川鉄デザインコンペ'94 ・学生大賞/関谷和則、石渡義隆、館吉保 日本二 ●小山市城東地区街角広場デザインコンペ ・佳作/坪山幸王、佐藤信治、石井昭博、林正輝、福田昌弘、石渡義隆、関谷和則、館吉保、清水信友 ●新知的生産環境1994デザインコンペティション「高齢者のための新しい知的生産環境の在り方」 ・入賞/小野和幸 ●第1回ARCASIA 学生賞1994「永続性ある発展を目指した都市居住と住宅改革」 ・優秀賞/小野和幸、高野勇治(建築)、岡田和紀、山越寧(建築) 日本二
7	<ul style="list-style-type: none"> ●第28回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・入選/田村裕彦 ●千葉県建築四会学生賞 ・銅賞/浦野雄一 地域三 ・奨励賞/田中厚三 	<ul style="list-style-type: none"> ●「テンポラリー・ハウジング」 ・1部支部入選/清水信友 	<ul style="list-style-type: none"> ●JIA 東海支部第12回建築設計競技「紙〜紙で街に仕掛ける〜」 ・銀賞/井上真樹、馬淵晃 日本二 ●第9回千葉ふるさと住宅設計競技「ライフサイクルを見据えた安全で快適な住まい」 ・奨励賞/田中厚三 ●第5回BUFF 国際建築デザインコンペ「東京水空間」 ・選外優秀作品賞/広瀬倫恒 ●世界の民族人形博物館国際学生アイデアコンペ ・佳作/梶原崇宏、村松保洋 ●第3回札幌国際デザイン賞「雪の生活文化」 ・佳作/馬淵晃 ●第6回学生のためのフレッシュデザインコンペ ・作品展示/下平将也 ・作品展示/川崎拓二
8	<ul style="list-style-type: none"> ●第29回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・入選/富永恒太 ●千葉県建築四会学生賞 ・銀賞/中村武晃 地域二 ・奨励賞/小川太士 		<ul style="list-style-type: none"> ●石川県建築士会設計競技「インテリジェンスファクトリー」 ・選外優秀作品賞/小山貴雄 ●第10回千葉県街並み景観賞 ・準特選/鳥居延行 地域三 ●桜門建築会第7回学生設計コンクール「キャンパスコア」 ・キャンパス賞/田中厚三、松元理恵 ●第10回千葉県ふるさと住宅設計競技「増改築を考慮したロングライフの住宅」 ・奨励賞/田中厚三 ●第10回建築環境デザインコンペティション「東京湾内のエコシティー」 ・佳作/小山貴雄 ●第2回九州デザインコンペティション「バリアフリーデザイン」 ・協賛企業賞/小山貴雄、田中厚三、安藤亮、北田紀子、峰村亮(生産建築) ●第6回優しい食空間コンテスト「食空間デザイン」 ・入選/馬淵晃 ●第9回ゆとりある住まいコンテスト「住まいの収納」 ・1等/田中厚三 日本二

年度	卒業設計(●)／修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
平成8年			●'97GREEN DESIGNING IN YAMAGATA「地球環境にやさしいデザイン」 ・奨励賞／馬淵晃
9	●第30回毎日・DAS学生デザイン賞 ・入選／市原裕之 ・入選／針生康 ●千葉県建築四会学生賞 ・奨励賞／市原裕之 ・奨励賞／針生康	●「21世紀の学校」 ・1部全国入選2等／村松保洋、渡辺泰夫 日本二	●石川県建築士会設計競技「ヒーリング・プレイス」 ・優秀賞／富永恒太 日本二 ●第8回学生のためのフレッシュデザインコンペ ・作品展示／宮下新 ・作品展示／佐藤洋、木村太輔、村松可奈子、北田紀子 ●桜門建築会三学部建築学生交流フォーラム ・審査員特別賞／長井厚、田中啓一、寺内学、関香織、村田昌彦 ●運輸省「みんなでつくろう海洋国日本 未来のアイデア大募集」 ・学校部門 フロンティア賞／鳥居延行、若山喜信、金田岩光 ●日本大学理工学部建築学科「TEMPORARY SPACE COMPETITION(DOME COMPE)」 ・優秀賞／石川阿弥子、大野貴司、桶川嘉子、山田博栄 ●第5回秀光学生コンペティション 新知的生産環境1997「挑戦するオフィス」 ・入賞／富永恒太 ●東京建築士会第33回建築設計競技「コミュニティコアとしての小学校の再生」 ・佳作／佐藤信治、市原裕之、田中克典、長井厚
10	●第31回毎日・DAS学生デザイン賞 ・入選／大野貴司 ●千葉県建築四会学生賞 ・金賞／大野貴司 地域二		●第4回北陸の家づくりコンペ「環境共生住宅」 ・最優秀賞／田中克典 日本一 ・優秀賞／長井厚 日本二 ●第2回太陽電池を用いた創造的構築物「太陽の恵みと建築との調和」 ・奨励賞／市原裕之 ●壁装材料協会主催「第6回明日のインテリア・アイデア・コンクール」 ・会員企業賞／伊藤昌明
11	●千葉県建築四会学生賞 ・銀賞／寺田健 地域二 ・特別賞／江橋亜希子		●第5回北陸の家づくり設計コンペ「60年住む家」 ・優秀賞／塙貴宏 日本二
12	●第33回毎日・DAS学生デザイン賞 ・入選／渡邊昌也 ●千葉県建築四会学生賞 ・奨励賞／原香菜子 ・奨励賞／渡邊昌也	●「新世紀の田園居住」 ・タジマ奨励賞／青山純、岡田俊博、岡部敏明、木村輝之、斉藤洋平、重松研二、秦野浩司	
13	●第34回毎日・DAS学生デザイン賞 ・建築部門賞／秦野浩司 日本二 ●千葉県建築四会学生賞 ・奨励賞／秦野浩司 ・奨励賞／木村輝之	●「子どもの居場所」 ・関東支部入選／齋藤洋平、木村輝之	●栃都市開発技術サービス「坪井地区を対象としたエコ・テクノロジーの活用によるまちづくり計画の提案」 ・優秀賞／山端俊也 日本二 ・佳作／大工原洋充、舟岡徳朗 ●栃東京建築士会「住宅課題賞」 ・入選／羽根田治
14	●第35回毎日・DAS学生デザイン賞 ・入選／丸山貴広 ・入選／山下忠相 ●千葉県建築四会学生賞 ・奨励賞／栗田耕史 ・奨励賞／長坂悠司		●第2回仏壇デザインコンペティション2002 森正 ・審査員長特別賞／鷺淵正憲、渡邊昌也、伊藤麻也、坂元晋介 ●福山大学建築会デザインコンペティション2002 ・佳作／白砂孝洋 ●栃東京建築士会「住宅課題賞」 ・入選／清水大地 ●第8回飛騨・高山学生家具デザイン大賞 ・入選／丸山貴広
15	●第36回毎日・DAS学生デザイン賞 ・入選／川崎未来生 ●千葉県建築四会学生賞 ・奨励賞／川崎未来生 ・奨励賞／白砂孝洋		●新建築住宅設計競技2003 ・2等／川崎未来生 日本二 ●福山大学建築会デザインコンペティション2003 ・金賞／片桐雄歩 日本一 ・入選／白砂孝洋 ●栃東京建築士会「住宅課題賞」 ・入選／中村智裕
16	●第37回毎日・DAS学生デザイン賞 ・入選／永嶋順一 ・入選／佐藤俊介 ●千葉県建築四会学生賞 ・特別賞／稲垣直秀 ・奨励賞／勝又洋	●「建築の転生・都市の転生」 ・全国入選佳作／丸山貴広、鈴木貴之、塚本哲也、長坂悠司、吉田健一郎 ・東海支部入選／土井涼恵、内田真紀子	●福山大学建築会デザインコンペティション2004 ・佳作／土井涼恵 ・入賞／勝又洋 ・入賞／奥田祥吾 ・佳作／三村舞、勝間田洋子、望月菜生 ・佳作／渡辺秀哉 ●栃東京建築士会「住宅課題賞」 ・入賞／賀山雄一

年度	卒業設計(●)/修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
平成17年	<ul style="list-style-type: none"> ●第38回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・入選/鈴木啓史 ・入選/渡辺秀哉 ●第18回千葉県建築学生賞 ・優秀賞/渡辺秀哉 地域二 ・奨励賞/鈴木啓史 ○第4回 JIA 大学院修士設計展 ・出展/京野宏亮 	<ul style="list-style-type: none"> ●「風景の構想—建築をとおしての場所の発見」 ・関東支部入選/金子太亮、勝又洋、中村智裕 	<ul style="list-style-type: none"> ●9坪ハウスコンペ2005 ・佳作/金子太亮 ●TEPCOインターカレッジデザイン選手権 ・優秀賞/金子太亮、京野宏亮 日本一 ●福山大学建築会デザインコンペティション2005 ・入賞/桔川卓也 ・佳作/河原一也、信戸佑里 ●(株)東京建築士会「住宅課題賞」 ・入選/五十嵐大輔
18	<ul style="list-style-type: none"> ●第39回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・入選/桔川卓也 ●卒業設計日本一決定戦 ・日本三/桔川卓也 日本三 ●卒業設計裏日本一決定戦 ・裏日本一/桔川卓也 日本一 ●第19回千葉県建築学生賞 ・特別賞/河原一也 ・奨励賞/丹沢裕太 ●第30回学生設計優秀作品展 ・レモン賞/桔川卓也 ○第5回 JIA 大学院修士設計展 ・出展/勝又洋 ・出展/金子太亮 	<ul style="list-style-type: none"> ●「近代産業遺産を生かしたブラウンフィールドの再生」 ・関東支部入選/金子太亮、勝又洋、中村智裕 ・関東支部入選/鈴木啓史、三村舞、渡辺秀哉 ●「美しいまちをつくる むらをつくる」 ・最優秀賞/渡辺秀哉 ・足立区長賞/鈴木啓史、三村舞、渡辺秀哉 	<ul style="list-style-type: none"> ●SMOKERS' STYLE COMPETITION 2006「パブリックスペースと分煙」 ・佳作/勝又洋 ●TEPCO インターカレッジデザイン選手権「現実を虚構化する住宅/虚構を現実化する住宅」 ・最優秀作/勝又洋 日本一 ●(株)ナムラコンチネンタルホーム事業本部・(株)日本住研 第3回住まいのデザインコンテスト「わたしが暮らす家」 ・優秀賞/勝又洋、金子太亮 日本一 ●(株)東京建築士会「住宅課題賞」 ・入選/島田かおり
19	<ul style="list-style-type: none"> ●第40回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・入選/赤澤知也 ・入選/丸山大史 ●第20回千葉県建築学生賞 ・優秀賞/小松崎博敬 地域二 ・奨励賞/西村秀勇 ○第6回 JIA 大学院修士設計展 ・出展/三村舞 		
20	<ul style="list-style-type: none"> ●第41回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・建築部門賞/椎橋亮 日本一 ●第21回千葉県建築学生賞 ・奨励賞/上條経伍 ・奨励賞/爲季仁 ●第32回学生設計優秀作品展 ・出展/椎橋亮 ●第49回全国大会・高専卒業設計展示会 ・出展/椎川恵太 ○第7回 JIA 大学院修士設計展 ・出展/五十嵐大輔 		<ul style="list-style-type: none"> ●木愛の会 第1回設計競技「新しい木の建築—魅了する木造都市へ—」 ・入賞/大西慧
21	<ul style="list-style-type: none"> ●第42回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・建築部門賞/細矢祥太 日本一 ・出展/下泉宏記 ●卒業設計日本一決定戦 ・100選/鴨志田航 ●第22回千葉県建築学生賞 ・市民賞/永田陽子 地域二 ・奨励賞/永田陽子 ・奨励賞/鴨志田航 ●第33回学生設計優秀作品展 ・出展/鴨志田航 ●第50回全国大会・高専卒業設計展示会 ・出展/細矢祥太 ●全国合同卒業設計展「卒、10」 ・7選入選/大西慧 ○第8回 JIA 大学院修士設計展 ・出展/小松崎博敬 	<ul style="list-style-type: none"> ●「アーバンフィジクスの構想」 ・関東支部入選/鴨志田航、本多美月 ●「美しくまちをつくる むらをつくる」 ・最優秀賞/朽木健二 地域二 	<ul style="list-style-type: none"> ●第1回日本大学校門建築会学生設計コンペティション「未来の住処をデザインする」 ・東京ガス SUMIKA 賞/細矢祥太、益山未樹 ・佳作/細矢祥太、益山未樹 ・佳作/椎橋亮 ●第7回「真の日本のすまい」 ・日本建築士会連合会会長賞/爲季仁、鈴木啓史 日本一 ●(株)東京建築士会「住宅課題賞」 ・入選/増田佳菜子

年度	卒業設計(●)/修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
平成22年	<ul style="list-style-type: none"> ●第43回毎日・DAS 学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> ・最優秀賞「金の卵」賞/杉田陽平 日本一 ・入賞/松井創斗 ●第23回千葉県建築学生賞 ●優秀賞/杉田陽平 地域二 ●特別賞/松井創斗 ●JIA東海学生卒業設計コンクール2011 <ul style="list-style-type: none"> ・佳作/杉田陽平 ●赤レンガ卒業設計展2011 <ul style="list-style-type: none"> ・一般賞 8位/杉山洋太 ●JIA 全国卒業設計コンクール2011 <ul style="list-style-type: none"> ・出展/松井創斗 ●第34回学生設計優秀作品展 <ul style="list-style-type: none"> ・出展/古明地雲母 ●全国大学・高専卒業設計展示会 <ul style="list-style-type: none"> ・出展/杉山洋太 	<ul style="list-style-type: none"> ●大きな自然に呼応する建築 <ul style="list-style-type: none"> ・関東支部入選/大西慧、菅原遼 	<ul style="list-style-type: none"> ●ハンサムプレゼンテーションコンペ2010 <ul style="list-style-type: none"> ・アーキテクタ賞/小川雅人 ●第6回「新・木造の家」設計コンペ <ul style="list-style-type: none"> ・優秀賞/嶋真史 ●第2回文化遺産防災アイデアコンペ <ul style="list-style-type: none"> ・佳作/爲季仁、平山雄基 ●第2回日本大学校門建築会学生設計コンペティション <ul style="list-style-type: none"> ・佳作/増田佳菜子、小山勇氣 ●建築新人戦 <ul style="list-style-type: none"> ・100選/小山勇氣 ●椅子のある風景 北の創作椅子展2010 <ul style="list-style-type: none"> ・入選/永田陽子、椎橋亮 ●ハンスグロエー ジャパン パスルーム デザインコンペ2010 <ul style="list-style-type: none"> ・佳作/椎橋亮、永田陽子
23	<ul style="list-style-type: none"> ●第44回毎日・DAS 学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> ・建築部門賞/石原幹太 日本一 ・入賞/渡部亘 ●第24回千葉県建築学生賞 <ul style="list-style-type: none"> ・優秀賞/石原幹太 地域二 ・市民賞/石原幹太 地域二 ・奨励賞/渡部亘 ●赤レンガ卒業設計展2012 <ul style="list-style-type: none"> ・特別賞/石原幹太 ●JIA 全国卒業設計コンクール2012 <ul style="list-style-type: none"> ・出展/渡部亘 ●第35回学生設計優秀作品展 <ul style="list-style-type: none"> ・出展/井上彩花 ●卒業設計日本一決定戦2012 <ul style="list-style-type: none"> ・20選/菅原雅之 ・100選/渡部亘 ●全国合同卒業設計展「卒、12」 <ul style="list-style-type: none"> ・7選/菅原雅之 ●DIPLOMA 2012 <ul style="list-style-type: none"> ・学科代表掲載作品/菅原雅之 ●日本建築学会 建築デザイン発表会 <ul style="list-style-type: none"> ・部門優秀賞/菅原雅之 ・部門優秀賞/石原幹太 ●Vectorworks 教育支援プログラム OASIS <ul style="list-style-type: none"> ・優秀研究賞/菅原雅之 ●MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 2012 <ul style="list-style-type: none"> ・都築響一賞/菅原雅之 日本一 ●全国大学・高専卒業設計展示会 <ul style="list-style-type: none"> ・出展/渡部亘 	<ul style="list-style-type: none"> ●第17回北陸の家づくり設計コンペ <ul style="list-style-type: none"> ・北日本新聞社賞/杉田陽平、菅原雅之、渡部亘 ●第3回日本大学校門建築会学生設計コンペティション <ul style="list-style-type: none"> ・佳作/渡部亘 ・佳作/涌井匠、海藤航、斉藤亮介 ●キルコス国際建築設計コンペティション2011 <ul style="list-style-type: none"> ・満田衛資賞佳作/涌井匠、福田雄太 	
24	<ul style="list-style-type: none"> ●第45回毎日・DAS 学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> ・入賞/涌井匠 ●第25回千葉県建築学生賞 <ul style="list-style-type: none"> ・特別賞/涌井匠 ・奨励賞/海藤航 ●MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 2013 <ul style="list-style-type: none"> ・佳作/涌井匠 日本一 	<ul style="list-style-type: none"> ●第10回 R&R 設計アイデアコンテスト <ul style="list-style-type: none"> ・入賞/松井創斗、斎藤亮介、山川大喜、川崎将 ●FUTURE DESIGN 2012 未来エレベーターコンテスト <ul style="list-style-type: none"> ・審査員賞/田原拓、川崎将、山川大喜、善財寛之 ●建築新人戦 <ul style="list-style-type: none"> ・100選/山川大喜 ●第4回ハーフェレ学生デザインコンペティション <ul style="list-style-type: none"> ・妹尾賞/石原幹太、伊藤春樹、古江志人、遠洞躍斗 ●ALA 建築 Project 建築学生の挑戦「都市と空き地」Vol.2 <ul style="list-style-type: none"> ・優秀作品/松井創斗、堤昭文、辻普 ●第4回文化遺産防災アイデアコンペティション <ul style="list-style-type: none"> ・佳作/榎本翔太、涌井匠、杉田陽平 ●歴史的空間再編コンペティション2012 <ul style="list-style-type: none"> ・入選/杉田陽平、涌井匠、川崎将、徳永尚亮 ●平成24年度「横須賀市の海を活かしたまちづくり」コンペ <ul style="list-style-type: none"> ・最優秀賞/梅田淳、海藤航、福田雄太、涌井匠 地域三 ●企画賞、デザイン賞/伊藤春樹、斉藤亮介、中山淳雄、望月堅二 	

年度	卒業設計(●)/修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
平成24年			●キルコス国際建築設計コンペティション2012 ・永山祐子賞佳作/涌井匠
25	●第26回千葉県建築学生賞 ・奨励賞/山川大喜 ・奨励賞/川崎将		●歴史的空間再編コンペティション2013 ・入選/菅原雅之、遠洞躍斗、樋浦直紀、井出健、鶴田亜有美、中山博貴 ●建築新人戦 ・100選/出山亮 ●平成25年度「横須賀市の海を活かしたまちづくり」コンペ ・最優秀賞/遠洞躍斗、田原拓、堤昭文、岩本桃果、阿部紘樹 地域 ・企画賞、デザイン賞/山川大喜、森浩平、徳永尚亮、善財寛之、鈴木彩美、大谷涼 ●キルコス国際建築設計コンペティション2013 ・遠藤秀平賞銀賞/山川大喜、辻普、藤本幸汰、白坂真 ・古谷誠章賞佳作/菅原雅之
26	●第47回毎日・DAS デザイン賞 ・入賞/滝村菜香 ・入賞/出山亮 ・入賞/藤本幸汰 ●第27回千葉県建築学生賞 ・特別賞(JIA 全国出展)/山影悠時 ・奨励賞・市民賞2位/志萱侑太 ●全国合同卒業設計展「卒、15」 ・審査委員賞(藤村龍至賞)/山影悠時 ●卒業設計日本一決定戦2015 ・100選/山影悠時 ・100選/志萱侑太 ●福岡デザインレビュー2015 ・最優秀賞/堤昭文 日本一 ●赤レンガ卒業設計展2015 ・審査委員賞(中山英之賞)/滝村菜香 ●第38回学生設計優秀作品展 ・レモン賞/堤昭文 ●日本建築学会 建築デザイン発表会 ・審査委員賞(篠原聡子)/山影悠時 ●MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 2015 ・入選/志萱侑太 ・入選/山影悠時		●建築新人戦 ・101選/高橋翔 ●第8回 JACS 住宅設計コンペ2014 ・佳作/川崎将、志萱侑太、高橋翔 ●キルコス国際建築設計コンペティション2014 ・五十嵐淳賞(銅賞)/遠洞躍斗、森浩平、浅見花 ●第6回日本大学桜門建築会学生設計コンペティション ・審査委員賞/山川大喜、滝村菜香、斉藤賢司 ・佳作/涌井匠、遠洞躍斗、山影悠時 ●歴史的空間再編コンペティション2014 ・20選/涌井匠、出山亮、森浩平、樋浦直樹、染谷萌衣、高橋政頼 ●平成26年度「よこはまの海を活かしたまちづくり」コンペ ・デザイン賞/出山亮、井出健、宇山浩和、戸田寛康、樋浦直樹 ・佳作/志萱侑太、亀田宏樹、滝村采香、福島弘明、増田顕弘
27	●第48回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・建築部門賞/高橋翔 日本一 ●第28回千葉県建築学生賞 ・市民賞2位・奨励賞/高橋翔 ・奨励賞/重田秀之 ●第39回学生設計優秀作品展 ・出展/高橋翔 ○第39回学生設計優秀作品展 ・出展/山川大喜 ○第14回 JIA 関東甲信越支部大学院修士設計展2016 ・出展/川崎将	●日本建築学会建築文化週間学生グランプリ2015 ・入選/志萱侑太、重田秀之、高橋翔、千葉雄介、中西宏直、濱嶋杜人	●日本造園学会90周年記念全国大会 U-30国際アイデアコンペティション ・佳作/森浩平、杉田陽平、松井創斗 ●Floating City Project Architectural Design Contest ・佳作/佐藤信治研究室 ●シェルターインターナショナル学生設計競技2015 ・一次予選通過/出山亮、森浩平、蒲生良輔 ●第9回 JACS 住宅設計コンペ2015 ・特別賞(長谷川豪賞)/遠洞躍斗、滝村菜香、小貫笑美依、佐々木秀人 ・佳作/志萱侑太 ●平成27年度「よこはまの海を活かしたまちづくり」コンペ ・最優秀賞/高橋翔、千葉雄介、中西宏直、今村夏波 地域 ●公共施設オープンリノベーションマッチングコンペティション ・実施採択/川崎将 ●第7回日本大学桜門建築会学生設計コンペティション ・佳作/出山亮、森浩平、蒲生良輔 ●歴史的空間再編コンペティション2015 ・10選/出山亮 ・20選/遠藤躍斗、山影悠時、森浩平、上田紗矢香、小貫笑美衣 ・50選/川崎将、滝村菜香、高橋政頼、中西宏直、門口雅奈、蒲生良輔、濱嶋杜人 ●第13回主張する「みせ」学生デザインコンペ ・審査委員特別部門賞/志萱侑太、山本雄太郎 ●第1回学生、コンペティション「共のレシビ」 ・特別賞/山川大喜、志萱侑太、千葉雄介 ●キルコス国際建築設計コンペティション2015 ・近藤哲雄賞銀賞/志萱侑太

年度	卒業設計(●)/修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
平成28年	<ul style="list-style-type: none"> ●第29回千葉県建築学生賞 <ul style="list-style-type: none"> ・市民賞/蒲生良輔 地域二 ・奨励賞/蒲生良輔 ・奨励賞/濱嶋杜人 ●せんだいデザインリーグ <ul style="list-style-type: none"> 卒業設計日本一決定戦 ・100選/上田紗矢香 ・100選/宮嶋悠輔 ●全国合同卒業設計展「卒、17」 <ul style="list-style-type: none"> ・総合資格学院賞/上田紗矢香 ●第40回学生設計優秀作品展 <ul style="list-style-type: none"> ・出展/蒲生良輔 ○第40回学生設計優秀作品展 <ul style="list-style-type: none"> ・出展/志萱侑太 ○第15回 JIA 関東甲信越支部大学院修士設計展2017 <ul style="list-style-type: none"> ・出展/出山亮 	<ul style="list-style-type: none"> ●日本建築学会設計競技 <ul style="list-style-type: none"> ・タジマ奨励賞/宮嶋悠輔、門口稚奈、谷醒龍、濱嶋杜人 	<ul style="list-style-type: none"> ●ERI 学生デザインコンペ2016 <ul style="list-style-type: none"> ・佳作/蒲生良輔、小貫笑美依、福富大真 ●歴史的空間再編コンペティション2016 <ul style="list-style-type: none"> ・50選/佐々木秀人、新部瑠介、加藤毅三 ●都市のパブリックスペースデザインコンペ <ul style="list-style-type: none"> ・佳作/志萱侑太、金井亮祐 ・佳作/永富快、上田紗矢香、山本雄太郎 ●(社)東京建築士会「住宅課題賞」 <ul style="list-style-type: none"> ・入賞/黄起範
29	<ul style="list-style-type: none"> ●第49回毎日・DAS 学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> ・金の卵賞/黄起範 日本一 ●第30回千葉県建築学生賞 <ul style="list-style-type: none"> ・特別賞/黄起範 ・奨励賞/赤堀厚史 ○第41回学生設計優秀作品展 <ul style="list-style-type: none"> ・出展/千葉雄介 ○第16回 JIA 関東甲信越支部大学院修士設計展2018 <ul style="list-style-type: none"> ・出展/高橋翔 	<ul style="list-style-type: none"> ●日本建築学会設計競技2017「地域の素材から立ち現れる建築」 <ul style="list-style-type: none"> ・全国入選佳作・タジマ奨励賞/赤堀厚史、中村圭佑、佐藤未来、加藤柚衣 ・四国支部入選/松下知可、青木絵子、島田将武、浅野健 	<ul style="list-style-type: none"> ●建築新人戦 <ul style="list-style-type: none"> ・16選/服部立 ・100選/勝部秋高 ・100選/山本壮一郎 ・100選/笹川雄基 ●歴史的空間再編コンペティション2017 <ul style="list-style-type: none"> ・50選/重田秀之、宮嶋悠輔、金井亮祐、山本淳樹、Lunenкова Anastasia、渡辺真理恵、三枝晃、笹川雄基 ●シェルターインターナショナル学生設計競技 <ul style="list-style-type: none"> ・34選/蒲生良輔、山本淳樹 ●都市のパブリックスペースデザインコンペ2017 <ul style="list-style-type: none"> ・佳作/永富快、山本雄太郎、上田紗矢香 ・佳作/志萱侑太、金井亮祐
30	<ul style="list-style-type: none"> ●第50回毎日・DAS 学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> ・金の卵賞/服部立 日本一 ●第31回千葉県建築学生賞 <ul style="list-style-type: none"> ・最優秀賞/勝部秋高 地域二 ・特別賞/根本一希 ・市民賞/勝部秋高 地域二 ●赤レンガ卒業設計展2019 <ul style="list-style-type: none"> ・審査員賞/高橋遼太郎 ●デザイン女子 No.1 決定戦 <ul style="list-style-type: none"> ・都市・建築部門賞1位/渡辺真理恵 日本一 ○第42回学生設計優秀作品展 <ul style="list-style-type: none"> ・出展/上田紗矢香 ○第17回 JIA 関東甲信越支部大学院修士設計展2019 <ul style="list-style-type: none"> ・出展/佐々木秀人 	<ul style="list-style-type: none"> ●日本建築学会設計競技2018「住宅に住む、そしてそこで稼ぐ」 <ul style="list-style-type: none"> ・東海支部入選/山本壮一郎、根本一希、桜井南実、服部立、住吉文登 	<ul style="list-style-type: none"> ●建築新人戦 <ul style="list-style-type: none"> ・8選/中村美月 ・100選/西遼 ●歴史的空間再編コンペティション2018 <ul style="list-style-type: none"> ・第5位/佐々木秀人、金井亮祐、根本一希、桜井南実、小林陽太、中村美月、松下将也 ●キルクス国際建築設計コンペティション2018 <ul style="list-style-type: none"> ・金賞/蒲生良輔、山本淳樹、三枝晃、山内颯、西村寿々美、郎敬萬 日本一 ・銀賞/勝部秋高、篠原健 ●桜建デザイン・コンクール2018 <ul style="list-style-type: none"> ・入選/佐々木秀人、山本壮一郎、渡辺真理恵、西村寿々美 ●住宅課題賞2018 <ul style="list-style-type: none"> ・入選/小山田駿志 ●ひろしま建築学生チャレンジコンペ2018 <ul style="list-style-type: none"> ・9選/西遼、小山田駿志、山内颯
31 (令和元年)	<ul style="list-style-type: none"> ●第51回毎日・DAS 学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> ・出展/中村美月 ●第32回千葉県建築学生賞 <ul style="list-style-type: none"> ・最優秀賞/横畑佑樹 地域二 ・特別審査委員賞/横畑佑樹 ●せんだいデザインリーグ2020 <ul style="list-style-type: none"> 卒業設計日本一決定戦 ・20選/中村美月 ・100選/小山田駿志 ・100選/横畑佑樹 ●全国合同卒業設計展「卒、20」 <ul style="list-style-type: none"> ・特別賞(総合資格賞)/横畑佑樹 ・8選/西村寿々美 ●赤レンガ卒業設計展2020 <ul style="list-style-type: none"> ・最優秀賞/中村美月 日本一 ○第43回学生設計優秀作品展 <ul style="list-style-type: none"> ・出展/横畑佑樹 	<ul style="list-style-type: none"> ●日本建築学会設計競技2019「ダンチを再考する」 <ul style="list-style-type: none"> ・関東支部入選/小山田駿志、大石展洋、中村美月、渡邊康介 ・タジマ奨励賞/小山田駿志、大石展洋、中村美月、渡邊康介 ・全国入選佳作/根本一希、勝部秋高 	<ul style="list-style-type: none"> ●歴史的空間再編コンペティション2019 <ul style="list-style-type: none"> ・グランプリ/横畑佑樹、山本壮一郎、中村美月、大石展洋、大久保将吾、駒形史紗、臼杵葵

年度	卒業設計(●)／修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
令和2年	<ul style="list-style-type: none"> ●第52回毎日・DAS 学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> ・入選／藤田大輝 ●第33回千葉県建築学生賞 <ul style="list-style-type: none"> ・優秀賞／山戸善伸 地域二 ・入選／佐藤駿介 ●全国合同卒業設計展「卒、21」 <ul style="list-style-type: none"> ・総合資格賞／中村正基 ・八木祐理子賞／神林慶彦 ●オンライン卒制展2021 <ul style="list-style-type: none"> ・秋吉浩気賞／藤田大輝 	<ul style="list-style-type: none"> ●日本建築学会設計競技2020「外との新しいつながりをもった住まい」 <ul style="list-style-type: none"> ・佳作／根本一希、渡邊康介、中村美月 ・佳作／勝部秋高、篠原健 ・タジマ奨励賞／石井健聖、大久保将吾、駒形史紗、佐藤駿介、鈴木亜実 ・四国支部入選／鷹田知輝(日本大学)、横畑佑樹(同)、西遼(岡山県立大学)、植田美鈴(日本大学) 	<ul style="list-style-type: none"> ●第11回 JIA・テスクチャレンジ設計コンペ <ul style="list-style-type: none"> ・山脇賞／古角虎之介、小山田駿、鷹田知輝、横畑佑樹 ●第7回宇宙建築賞 <ul style="list-style-type: none"> ・3位／福田晃平、水口隆、佐藤宏樹(芝浦工大) ●歴史的空間再編コンペティション2020 <ul style="list-style-type: none"> ・準グランプリ／根本一希、中村美月、渡邊康介 日本二 ・ベスト16／古角虎之介、山戸善伸、神林慶彦、中村正基 ・最優秀 SNOU 賞／古角虎之介、山戸善伸、神林慶彦、中村正基 ●土木デザイン設計競技景観開花。2020 <ul style="list-style-type: none"> ・最優秀作品賞／横畑佑樹、根本一希、中村数基、藤田大輝、小林功基、有馬成美 日本一 ●木の家設計グランプリ2020 <ul style="list-style-type: none"> ・優秀賞／中村正基、山本壮一郎、中村美月、山田遥南、石本かえで、田畑輝 日本二
3	<ul style="list-style-type: none"> ●第34回千葉県建築学生賞 <ul style="list-style-type: none"> ・優秀賞／小林真子 地域二 ・奨励賞／太田優人 ●せんたいデザインリーグ2022 卒業設計日本一決定戦 <ul style="list-style-type: none"> ・100選／関亮太 	<ul style="list-style-type: none"> ●日本建築学会設計競技2021「まちづくりの核として福祉を考える」 <ul style="list-style-type: none"> ・関東支部入選／藤田大輝、渡辺真理恵、石井健成(工学院大)、黒田尚幹(同) ・近畿支部入選／小山田駿志、古角虎之介、高橋朋、福田晃平 ●日本建築学会建築文化週間学生グランプリ2021「銀茶会の茶席」 <ul style="list-style-type: none"> ・原田祐季子賞／大木貴裕、小林真子、中泉拓己、森田優莉、山戸善伸 ・風岡喜一賞、木村知弘賞／小山田駿志、謝雨辰、鈴木晶美子、増田悠玖、渡邊愛 ●日本建築学会関東支部第22回提案競技「美しいまちをつくる、むらをつくる」 <ul style="list-style-type: none"> ・特別賞／中村美月、横畑佑樹、神林慶彦、小川香奈、安藤大翔、山田莉央 日本二 	<ul style="list-style-type: none"> ●第8回 POLUS 学生建築デザインコンペティション <ul style="list-style-type: none"> ・佳作／福田晃平、山戸善伸 ●第12回 JIA・テスクチャレンジ設計コンペ <ul style="list-style-type: none"> ・入選／古角虎之介、小林真子、鷹田知輝 ●建築学縁祭 ～ROOKIE 戦～ <ul style="list-style-type: none"> ・100選／三谷翼空 ・100選／荒井基就 ●VectorWorks 学生作品コンテスト <ul style="list-style-type: none"> ・最優秀賞／安藤大翔 地域二 ●JAPAN WOOD DESIGN AWARD2021 <ul style="list-style-type: none"> ・入選／小山田駿志 ●第9回ヒューリック学生アイデアコンペ <ul style="list-style-type: none"> ・佳作／中村美月、横畑佑樹、中村正基 ●U30復興デザインコンペ2021「複合災害と新たな都市像」 <ul style="list-style-type: none"> ・最優秀賞／藤田大輝、渡辺真理恵、山田遥南、川田遥、西辻優世、石黒敬太、尾沢圭太 日本一 ●歴史的空間再編コンペティション2021 <ul style="list-style-type: none"> ・10位／藤田大輝 ・最優秀 SNOU 賞／藤田大輝
4	<ul style="list-style-type: none"> ●第54回毎日・DAS 学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> ・入選／安藤大翔 ・入選／大木貴裕 ●第35回千葉県建築学生賞 <ul style="list-style-type: none"> ・特別賞・市民賞／川内俊太郎 ・奨励賞／尾沢圭太 ●せんたいデザインリーグ2023 卒業設計日本一決定戦 <ul style="list-style-type: none"> ・100選／三谷翼空 ●赤れんが卒業設計展2023 <ul style="list-style-type: none"> ・100選／法橋礼歩 ・100選／大木貴裕 ・100選／梅澤秀太 ・100選／三谷翼空 ・100選／石黒敬太 ●全国合同卒業設計展「卒、23」 <ul style="list-style-type: none"> ・50選／三谷翼空 ●新潟建築卒業設計展 Session! 2023 <ul style="list-style-type: none"> ・東海林賞／梅澤秀太 ●第46回学生設計優秀作品展 <ul style="list-style-type: none"> ・出展／梅澤秀太 ○第46回学生設計優秀作品展 <ul style="list-style-type: none"> ・出展／中村正基 ●群青建築展2023+ <ul style="list-style-type: none"> ・姉崎賞／安藤大翔 ・姉崎賞／法橋礼歩 	<ul style="list-style-type: none"> ●日本建築学会設計競技2022「『他者』とともに生きる建築」 <ul style="list-style-type: none"> ・関東支部入選／中村正基、神林慶彦 	<ul style="list-style-type: none"> ●WASA 世界建築学生賞 2022 <ul style="list-style-type: none"> ・入賞／三谷翼空、梅澤秀太 ・入賞／三谷翼空、梅澤秀太、安藤大翔、尾沢圭太、法橋礼歩 ●住宅課題賞2022 <ul style="list-style-type: none"> ・入選／櫻井彩音 ●U30復興デザインコンペ2022「災禍を生きる都市」 <ul style="list-style-type: none"> ・8選／安藤大翔、藤田大輝、任晴雯、鈴木雄士、山口直也、奥村碩人 ●The 12th Virtual Design World Cup <ul style="list-style-type: none"> ・C デイビッド・ツェン賞／梅澤秀太 ●建築学縁祭 ～Rookie 戦～2022 <ul style="list-style-type: none"> ・100選／樋口大雅 ・100選／八阪柊吾 ●VectorWorks 学生作品コンテスト <ul style="list-style-type: none"> ・奨励賞／富永瑛央